

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

2019 年度 報告書

Japanese Language Class Annual Report

2019.4-2020.3

*Japanese Language Class
School of Engineering
The University of Tokyo*

はじめに

2010 年度から年次報告書を本形式で作成し始めて 10 年目を迎える。年次報告書の作成は、工学系研究科日本語教室内においては、授業・諸活動を振り返り、今後の課題を明確にし、さらに充実した日本語教育の実施を目指すことを目的にしたものである。日本語教室の教職員全員で振り返ることにより、来年度に向けて共通認識が持てる。また、教室外に向けて、本教室のミッションに沿った適切な教育活動を実施し、成果を出していることの説明責任を目的としている。工学系研究科、東京大学、そしてご支援をいただいている方に十分にその教育活動やその成果、課題を説明し、その意義について伝えることが重要だと考える。

2019 年度の活動としては、まず、日本語・文化教育において、次年度の「上級 2」の設置に向け、上級の 3 コースを日本語能力別に 2 レベルに分けてパイロットコースを実施した。初級コースでは受講者数の増加に対応して 3 セクション設け、日本語教育の質保証の強化に取り組んだ。次に、多文化・多言語教育において、今年度から国際センターと連携して IL (International Lounge) を実施した。その結果、参加者が大幅に増加した。さらに、国際化教育において、今年度初めてミュンヘン工科大学で体験活動を実施した。新たな教育方法の試みとして、カリフォルニア工科大学日本語教室およびインド工科大学日本語教室の協力を得て、COIL (Collaborative Online International Learning) 型教育を実施した。オンラインでの交流と訪問による直接交流の結果、自己文化と他の文化を相対的に思考する異文化理解力を高め、異文化間コミュニケーション能力を向上させることに繋がった。

図 1 工学系研究科日本語教室における教育内容

【日本語・文化教育】 対象者：留学生・外国人研究者など	【多文化・多言語教育】 対象者：留学生+日本人学生	【国際化教育@協定校】 対象者：日本人学生
・初級から上級までの日本語教育：32コース ・夏季・冬季集中日本語教育 ・日本文化事情教育 ・就職支援	・IL (International Lounge) ・日本語授業ボランティア ・多文化理解プロジェクト ・国際交流合宿	・体験活動：IIT, KTH, TUM ・世界展開強化事業（トルコ、米国）協働授業・研究 ・海外協定校日本語教室ネットワークの強化、拡大

最後になったが、機構長の浅見泰司教授、国際事業推進センターの古関潤一教授をはじめ、平素より工学系研究科日本語教室へのご理解、ご支援を頂いている皆様に感謝の意を表す。

2020 年 3 月

工学系研究科国際工学教育推進機構 国際事業推進センター 日本語教育部門
古市由美子

日本語教室担当を退任するにあたって

2018 年度より 2 年間にわたり、工学系研究科日本語教室の運営に国際事業推進センター長として参加させていただきました。このたび、国際工学教育推進機構内での改組に伴い、日本語教室の担当を外れることになりましたので、退任のご挨拶を申し上げます。

日本語教育は全くの専門外ですが、所属している専攻でこれまでに多くの留学生を受け入れてきており、私自身の研究室にも常に複数の留学生が在籍しています。これらの経験に基づいて、教室に日本語教育をお願いする研究科・専攻側の立場から、あるいは指導教員としての目線で、古市教授をはじめとする教室の教職員の皆様と、率直な意見交換をさせていただきました。日本語教室外における留学生の状況を、少しでもお伝えできていれば幸いです。

オンラインコンテンツの活用などの新しい教育手法が開発・導入されつつある一方で、国内外での就職環境の変化に伴って留学生の意識も著しく変化してきています。さらに、さまざまな国際情勢の変化の影響を受けて在籍数自体が大きく変動することもあります。このような環境下で、これまでと同じレベル、あるいはそれ以上の日本語教育を着実に提供していくために、非常勤講師も含む教室の皆様が最前線で奮闘されていることを、私なりに理解することができました。特に、2018 年 8 月に開催された研究科主催の日本語教育シンポジウムは、海外も含む全体像を知るうえで、私にとって貴重な機会となりました。

今後も、研究科内外の他の日本語教育部門との連携や、海外との協働、多様化する短期プログラムへの対応などで、既存の枠組みの活用・修正だけでなく、新たな体制の構築が必要となるケースも増えてくるものと予想されます。日本語教室の益々の発展を確信するとともに、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



古関 潤一
国際事業推進センター長
社会基盤学専攻 教授

目 次

第1章 日本語教室の概要	1
1.1 運営と目的	1
1.2 受講対象者および教職員	2
1.3 学内日本語教育関連組織との連携	3
1.4 年間スケジュール	5
第2章 日本語教育の実践と運営	7
2.1 概要	7
2.2 コースデザインの特長	7
2.3 コースの履修プロセス	9
2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告	10
2.5 受講者と修了者	93
2.6 日本語教室のコース評価	100
2.7 言語使用実態調査	107
2.8 短期サマープログラム	114
第3章 日本文化事情・文化体験	123
3.1 S1S2 日本文化体験	123
3.2 A1A2 日本文化体験	125
第4章 国際交流支援	127
4.1 学生授業ボランティア	127
4.2 多言語交流会：International Lounge	129
第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携	131
5.1 体験活動プログラム	131
5.2 世界展開強化事業における日本語教育支援	135
第6章 研究活動	138
6.1 日本語教室関連の研究活動と成果	138
6.2 日本語教育の専門分野における実践・研究	139
第7章 今後の課題	141
7.1 日本語教育の質保証の強化に向けた取り組み	141
7.2 留学生と日本人学生の国際交流支援	142
7.3 日本人学生の国際化教育の促進	142
7.4 実践研究、および実践研究の成果に基づいた教材開発	142
7.5 その他：東京大学、工学系研究科内日本語教室の連携	143

巻末資料

2019S1S2/A1A2 概要・時間割	144
2019S1S2/A1A2 受講者数・修了者数	151
Can Do Statements	159
アンケート（言語背景調査 コース評価）	160
ポスター（学生授業ボランティア、日本語教室文化体験、International Lounge）	162

第1章 日本語教室の概要

1.1 運営と目的

工学系研究科日本語教室は1981年に設置され、2011年度からは工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センター下に配置された。現在、国際事業推進センター長、古関潤一教授の下で日本語と日本文化の教育実践を行っている。日本語科目は、2015年度に工学部・工学系研究科の教育問題検討会で審議、承認されて以来、単位付与の科目として実施されている。

日本語教室は、留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目標としている。

また、近年、日本語教育の分野は、国際化教育の観点から留学生と日本人学生の両方を対象とした多文化理解教育、すなわち、国際感覚を鍛え、世界の多様な人々と共に生きるための力を育成する教育へと領域を拡大しつつある。当日本語教室でも、留学生が様々な背景を持つ他者と国籍、専攻を超えて関係を構築し、多文化理解を深めることを目標とするのに加え、本教室で日本語を学ぶ場が留学生の居場所になるだけでなく、留学生が持つ文化を日本人学生などに発信する場になることも目指している。例えば、2018年度に実施した「国際交流合宿」¹は、留学生と日本人学生の双方の交流の場を設ける一環として行われたものである。

以下の5つは、本日本語教室が目指す具体的な目標である。

- 1 留学生・研究員などに対する研究・生活支援としての日本語教育
- 2 留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
- 3 留学生・日本人の交流および多言語・多文化支援
- 4 国際化推進の一環として、日本人学生の国際化教育
- 5 工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発

1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and multi-cultural group of people.

¹ 「国際交流合宿」は、2019年度も開催を予定していたが、事情により中止した。

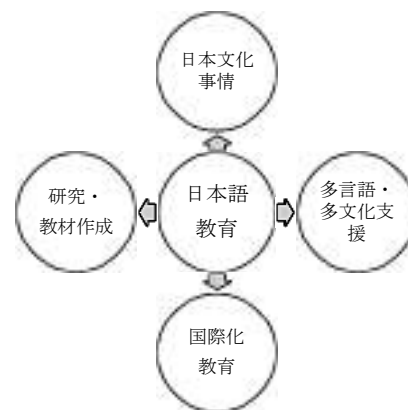


図1 日本語教室の目的

4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a part of internationalization.
5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

1.2 受講対象者および教職員

当日本語教室の対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。2014年度から全学交換留学生（USTEP）の受け入れを開始、また、他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も受け入れている。

日本語教室の教職員は、今年度より特任助教の金瑜眞が加わり、2019年度は教授1名、特任准教授1名、特任助教2名、非常勤講師13名である（各職位の氏名は下記の通り）。

教授：古市由美子

特任准教授：岩田夏穂

特任助教：岡葉子、金瑜眞

非常勤講師：猪狩美保・臼井直也・内田あゆみ・片岡さゆり・栗田奈美・小山詩織

（2019年9月から）・米谷章子・鈴木恵理（2019年9月から）・藤井明

子・中村亜美（2019年8月まで）・ハワード文江・宮瀬真理・山口真紀

職員：早坂美和子・山畑めぐみ

1.3 学内日本語教育関連組織との連携

1.3.1 東京大学内の日本語教育プログラム

東京大学には 3 つのキャンパスで多様な日本語教育プログラムが開講されている（図 2 参照）。

本郷キャンパスでは、日本語教育センター、工学系研究科・工学部、人文社会系研究科・文学部、薬学系研究科・薬学部で日本語教育プログラムが開講されている。日本語教育センターは、所属を問わず、全留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。工学系研究科・工学部、人文社会学系研究科・文学部日本語教室は、所属留学生、研究者、配偶者を主な対象者とし、全留学生を定員の範囲内で受け入れている。薬学研究科・薬学部は所属の留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。

工学系研究科内には、当教室のほかに、4 つの専攻日本語教室がある。当日本語教室は工学系研究科及び情報理工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生、研究生、研究員、USTEP(全学交換留学生)、配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は専攻の留学生が主な対象である。専攻日本語教室は、設立年度順に社会基盤学日本語教室（1982 年）、都市工学日本語教室（1987 年）、システム創成系日本語教室（1989 年）、IME 大学院特別コース（2001 年）の 4 つで、各々が独立し、日本語教育を行っている。

駒場 I キャンパスでは、①PEAK（専門を主に英語で学ぶ正規課程プログラム）、②KOMSTEP（総合文化研究科・教養学部交換留学）と USTEP(全学交換留学)、③前期課程日本語（専門を主に日本語で学ぶ正規課程生の基礎（外国語科目）、④補講（単位取得のできないコース）の日本語科目が提供されており、駒場 II キャンパスでは、「駒場リサーチキャンパス日本語教室」で日本語コースを開講している。

柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室で日本語プログラムが提供されている。

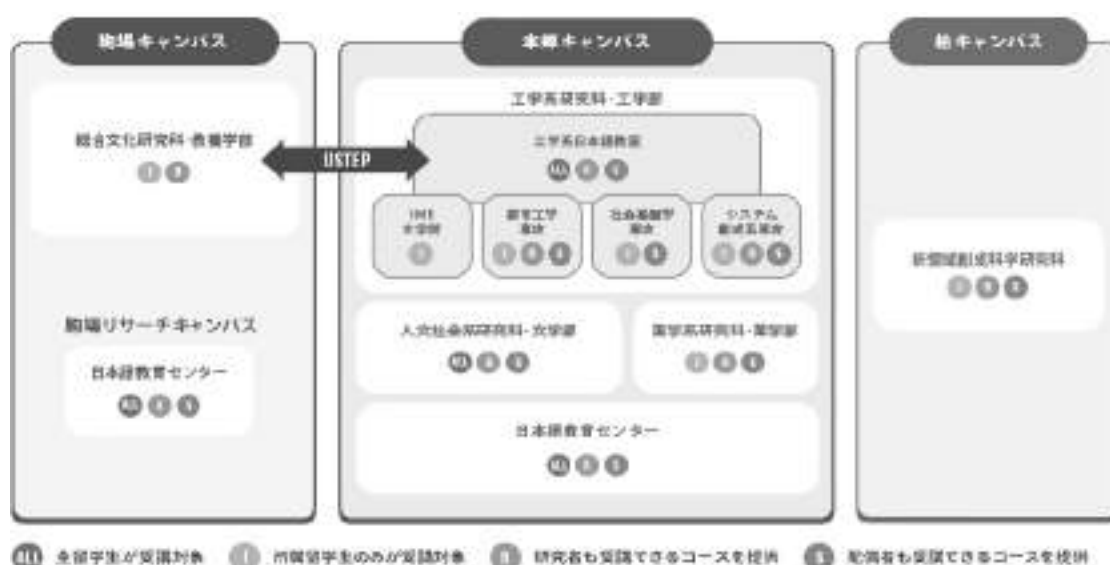


図 2 東京大学の日本語教育の概要 (<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/jle/ja/index.html>)

1.3.2 東京大学内および工学系研究科内日本語教室との連携

今年度は日本語教育連携企画室主催の日本語教員連絡会が年 4 回開催された。この連絡会では、本郷キャンパス内の日本語教室および留学生支援室所属の教員が各日本語教育組織の活動状況と課題を共有し、その解決に向けた提案について議論した。

2020 年 3 月 6 日に第 19 回工学系研究科日本語教室年次報告会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。そのため、当教室及び 4 つの専攻日本語教室は、カリキュラム、活動内容、課題などについての報告書を作成し、メールで情報共有を図った。2016 年度から都市工学日本語教室、システム創成系日本語教室が STAR を共有することによって、3 教室のレベルが統一され、定員内であれば他専攻の学生も受け入れることができるようになった。また、システム創成系日本語教室と初級テキストを同一にすることによって、教室間の学生移動が容易になった。今後も年次報告会などで議論を重ね、教室間の交流と連携を強化していきたい。

1.4 年間スケジュール

2019 年度の日本語教室のスケジュールは、以下の通りである。

[2019 年]

- 4 月 新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
S1S2 学期授業開始（4 月 5 日-7 月 26 日）
授業ボランティア受け入れ
華道ワークショップ（一葉式）
- 5 月 インドさくらサイエンスプログラム日本語講義・日本文化体験の実施
- 6 月 Amgen Scholar Program 日本語講義・日本文化体験の実施
相撲部屋との交流（尾車部屋）
インドさくらサイエンスプログラム日本語講義・日本文化体験の実施
S2 入門コース開始（6 月 7 日-7 月 25 日）
浴衣ワークショップ
UTRIP（University of Tokyo Research Internship Program）日本語講義・日本文化体験の実施
GSP(UTokyo Global Summer Program)日本語講義の実施
- 7 月 茶道体験
工学系・情報理工学系新規留学生のための合同ガイダンス（留学生チーム主催）
工学系サマープログラム：日本語講義・日本文化体験の実施
トルコ世界展開力強化事業：日本語講義・日本文化体験の実施
アンカラ大学教授 アイシェヌール・テキメン氏来訪
S1S2 授業終了
カリフォルニア工科大学（Caltech）専任教員 平井律子氏 来訪
Caltech と東大学生の交流会実施
- 8 月 工学系研究科日本語教室教師
2019 年度 A1A2 学期時間割・概要を HP に掲載、登録開始
「2nd International Symposium on Language Learning and Global Competence」に参加（スウェーデン）
- 9 月 A1A2 学期授業開始（9 月 24 日-1 月 16 日）
ミュンヘン工科大学体験活動プログラム（9 月 11 日-18 日）
「IV. Japon Dili ve Eđitimi Uluslararası Sempozyumu - JADEUS 2019」に参加（トルコ）
- 10 月 新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
体験活動授業ボランティア受け入れ
生け花ワークショップ（一葉式）
- 11 月 茶道体験

着物体験

A2 入門コース開始 (11 月 19 日-1 月 16 日)

カリフォルニア工科大学 (Caltech) 訪問

12 月 こけしワークショップ (鳴子こけし)

インドさくらサイエンスプログラム日本語講義・日本文化体験の実施

冬休み (12 月 28 日-1 月 5 日)

[2020 年]

1 月 日本文化体験 (お汁粉)

A1A2 授業終了

工学系研究科日本語教室教師会

2 月 カリフォルニア工科大学 COIL 型教育の実施 (2 月 4 日-2 月 9 日)

インド工科大学体験活動プログラム(2 月 24 日 - 3 月 3 日)

冬季日本語特別日本語集中講義 (2 月 3 日 - 21 日)

3 月 2020 年度 S1S2 時間割・概要を HP に掲載、登録開始 (STAR システム開始)

第2章 日本語教育の実践と運営

2.1 概要

日本語科目は、留学生を対象（「多文化理解プロジェクト」のみ日本人学生も履修可）、としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。

レベルは、初級から上級まで6レベルに分かれており、総合、会話、聴解、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト、日本組織事情）がある。

開講日程は、工学系研究科と同様で、4月からS1S2（14週間）、9月からA1A2（14週間）としている。各学期の時間割、概要、シラバスは、当日本語教室のホームページに掲載されている（<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>）。この他に、サマープログラム、冬季日本語特別集中講座を実施している。

授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。

日本語教室のオフィスは工学部8号館1階128B号室、非常勤講師室は2階88S室である。当教室は、8号館第一講義室（123号室）に加え、2階88M室、88L室で授業を行っている。また、324室（B,C）、701室、722室を借用している。さらに、第一会議室（132号室）、第二会議室（130号室）も、必要に応じて教室として使用しているが、学期を通して使用できないという制限がある。

表1 工学系日本語教室 レベル別コース

スキル レベル	総合			聴解	会話	読解	文章	その他
	レギュラー	インテンシブ						
初級Ⅰ	初級 1 (3)	インテンシブ 初級Ⅰ (5)	* 入門 (3)					
	初級 2 (2)							
初級Ⅱ	初級 3 (2)	インテンシブ 初級Ⅱ (4)						
	初級 4 (2)							
中級 1	総合 (2)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	
中級 2	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	専門語彙・ 漢字 (1)
中級 3	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	専門読解 (1)	文章 (1)	多文化理解 プロジェクト (1)
上級	総合 (1)			聴解 (1)	会話 (1)	読解 (1)	文章 (1)	日本組織事情 (1)

() 内はコマ数 * 入門はS2/A2に開講

2.2 コースデザインの特長

本日本語教室では、多様な初級コースを提供している。また、工学系および情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語教育を実施している。さらに、専門分野の講義・実験と並行して、日本語科目が選択できる

ように、コース選択のバリエーションや時間割設定上で工夫をしている。以下に、日本語科目のコースデザインの特長をまとめた。

(1) バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。日本語未習学者を対象とするコースは次の通りである。

- ・レギュラーコース : 週 2 回 全 2 コマ (初級 1 は全 3 コマ)
- ・インテンシブ初級 I コース : 週 3 回 全 5 コマの集中コース
- ・入門コース : S2/A2 から開始する週 2 回 全 3 コマ

レギュラーコースは、初級 1、2、3、4 に分かれており、修士・博士の学生が専門科目との両立を目指しながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級 I はレギュラーコースの初級 1 と 2 の内容、インテンシブ初級 II は、レギュラーコースの初級 3 と 4 の内容を S1S2/A1A2 で修了する。入門コースは S2 および A2 に開講され、基礎的な日本語の口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを設け、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるよう工夫している。

(2) スキル別の中級・上級日本語コース

中級 1～3 および上級レベルは、総合、聴解、会話、読解、文章のコースを 1 コマずつ設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別にすることにより、多忙な留学生が実験や専門授業の合間に伸ばしたいスキルのコースを選択的に受講することができるようになっている。上級レベルについては、以前より課題として指摘されていた中級 3 を修了した学生と新規に上級レベルと判断された学生とのレベル差に対応するために、2020 年度 S1S2 に上級 2 を新設¹し、これまでの上級は上級 1 とする予定である。

(3) 工学系に特化した専門日本語教育

当日本語教室は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級 1 専門読解」コースでは、科学技術に関連した文章を教材とし、語彙、文型、表現の習得を目指している。「中級 2 専門語彙・漢字」では、コーパス研究チームで調査・研究した結果をもと

¹ 2020 年度は、総合、会話、文章コースを実施する予定である。その準備として、2019A1A2 では、この 3 コースの 2 セクションにレベル差をつけて実施した。

に、専門語彙、漢字教育を行っている。「中級3 専門読解」では、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事をもとに作成した東京大学の研究に関する文章を読み、工学系分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、当日本語教室で工学系に特化したオリジナル教材を作成し、日本語教育を実施している。

(4) 多文化理解教育

中級3 レベル以上を対象とする「多文化理解プロジェクト」では、多様な背景を持つ留学生がそれぞれの文化などを発信する「多文化理解ワークショップ」を日本の小学校・中学校で実施することで、地域社会への多文化理解に貢献している。この多文化理解プロジェクトは、学部・大学院の共通科目として開講され、留学生だけでなく日本人学生も履修し、単位が取得できる。

(5) 就職支援

「日本組織事情」は、日本で就職を希望する留学生を対象とし、ビジネスマナーや就職活動のための知識や実践力を養うものである。優秀な外国人人材が日本の産業界などで活躍できる道が広がることが期待できる。日本企業のグローバル化や経済の活性化など社会的な波及効果が見込まれる。

2.3 コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1参照）。開講1か月前に日本語教室のHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR

(Student Tools for Access and Review)システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教室で運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレースメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから希望科目を選び、登録する。

このように、オンライン上で登録が可能のため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

各コースの第1週目はオリエンテーション・ウィーク

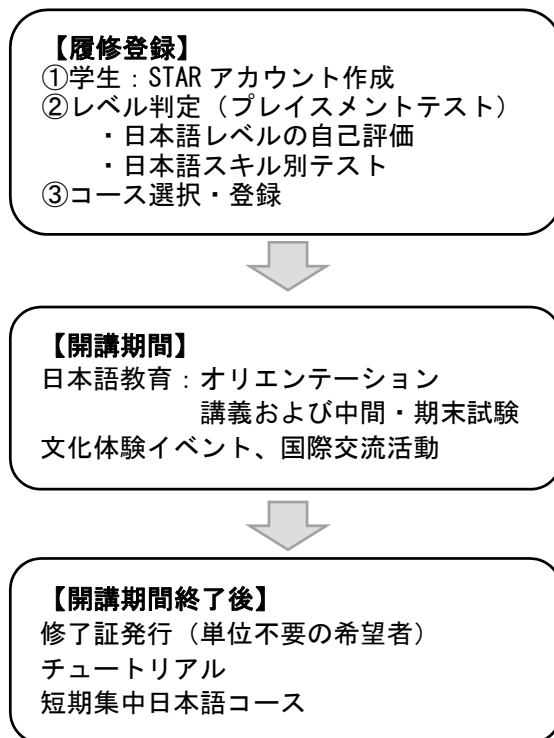


図1 コース履修のプロセス

である。教師はオリエンテーション・ガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明を行う。その一方で、履修登録をした留學生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認し、レベル変更を希望する留學生に対応する。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として、生け花や茶道体験、着付け体験などの文化的なイベントの企画と実践、シニアボランティアとの自由会話を行うビジターセッションやInternational Lounge（IL）、日本人学生の授業ボランティアの実施など、日本人と留學生の交流支援を行う。

開講期間終了後、単位を必要とせず、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証を発行する。

2.4 日本語教育コースのシラバスおよび報告

本節では、今年度を実施した各コースの実践とシラバスおよびチュートリアル²⁾について報告する。

²⁾日本語教室では、2015年度より、週に1回（一人45分）「チュートリアルセッション」の時間を設け、研究計画書やエントリーシートの添削など、授業では対応できない個々のニーズに合わせた日本語学習支援を行っている。2020年度はこれまでの利用状況を鑑み、実施しない予定である。

入門

2019年度 S1S2

レベル	: 入門
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 06/ 07 - 2019/ 07/ 26
時間	: 13:00 - 14:45 火曜日 14:55 - 16:40 火曜日 13:00 - 14:45 金曜日
場所	: 工学部8号館 123教室
学習目標	: 初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。 カタカナ、ひらがなの認識ができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。
テキスト	: 『Basic Japanese for Students はかせ1』 (スリーエーネットワーク) まるごと プラス Learning Japanese http://www.marugotoweb.jp/
評価	: 教室活動5%、課題10%、かなクイズ15%、語彙クイズ15%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表15% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位3認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 学部FEN-JL4m01L1, 大学院3799-901-1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 金 (キム) ユジン KIM Youjin, 岡 葉子 OKA Yoko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	6/ 7	金	オリエンテーション、L1
2	6/ 11	火	L1、カタカナ (ア～サ行)、L1語彙クイズ
3	6/ 11	火	L2、L2語彙クイズ
4	6/ 14	金	L3、カタカナ (タ～ハ行)
5	6/ 18	火	L4、カタカナ (マ～ワ行)、L3語彙クイズ
6	6/ 18	火	L5、L4語彙クイズ
7	6/ 21	金	L5、カタカナ(特殊音)
8	6/ 25	火	カタカナクイズ、L5語彙クイズ、L1-L5 復習
9	6/ 25	火	中間試験
10	6/ 28	金	L6、ひらがな (あ～さ行)
11	7/ 2	火	L7、ひらがな (た～は行)、L6語彙クイズ
12	7/ 2	火	L8
13	7/ 5	金	L9、L7&L8語彙クイズ、ひらがな (ま～わ行)
14	7/ 9	火	L11、L9語彙クイズ
15	7/ 9	火	L12、ひらがな(特殊音)

16	7/ 12	金	L13、ひらがな復習、L11&L12語彙クイズ
17	7/ 16	火	L14、ひらがなクイズ、復習、L13語彙クイズ
18	7/ 16	火	学期末口頭発表準備
19	7/ 19	金	【休講】 補講期間のため
20	7/ 23	火	期末試験
21	7/ 23	火	学期末口頭発表準備
22	7/ 26	金	期末試験フィードバック、学期末口頭発表

入門

報告者：金 瑜眞・岡 葉子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

このコースは、日本語ゼロ初級の学習者、特に、新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュール及び日本語レベルや進捗の関係で初級1コースの履修が難しい学習者を対象に、日常生活において必要な表現・語彙を教えることを目的としている。6月7日に開講し、週3コマ、7週間の授業を行った。教科書は『はかせ1』（スリーエーネットワーク）を用い、授業は主に 1) 新出語彙の導入、2) 文型の導入、3) ペアワークやインフォメーションギャップなどによる応用練習の流れで行った。

1-2. 授業の内容

7週間という短い授業期間のため、『はかせ1』のL1～9及びL11～14を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、挨拶、数字、時刻、動詞、形容詞などを学び、その定着をはかった。使用教科書はローマ字が併記されているものであったが、文字において、カタカナとひらがなの導入を行い、読み書きができるように指導した。導入が終わった時点で、それぞれカタカナとひらがなのクイズを実施し、定着を図った。

2. その他

本コースでは、上記のカタカナ・ひらがなクイズに加え、中間試験、期末試験、語彙クイズ、課題、期末口頭発表も評価に入れた。語彙クイズは復習型で各課終了後に実施した。課題は学期を通して5回、宿題としてプリントを配布した。短期滞在の学習者が文字に親しみを持てるよう、メニューなどからカタカナのことばをさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用した「日記」などを課題とした。期末口頭発表では日本での旅行、自分の国や食べ物などについて発表した。

3. まとめ・今後の課題

学習者たちは熱心に学習し、4名が修了することができた。初回の授業参加者が9名で、その後期末テスト直前に帰国・欠席した学生が2名いた。人数が少なかったがその分学生同士の交流が進み、休憩時間や授業後に仲良く歓談する様子がよく見られた。課題としては、7週間という短期間で、文型と文字の導入を行うため、昨年度に引き続きスケジュールが過密であることが指摘できる。今学期は、1回の課題の量を調整する代わりに回数を4回から5回に増やしたが、今後も試行錯誤していきたい。

インテンシブ初級 I AM

2019年度 S1S2

- レベル : 初級1 レベル
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
- 時間 : 08:30 - 10:15 月曜日
10:25 - 12:10 月曜日
08:30 - 10:15 水曜日
10:25 - 12:10 水曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 123号室 (月・水・金)
- 学習目標 : 入門レベルから初級前半(L1-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を110字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : はじめて日本語を勉強する人
- テキスト : 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)
『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
『にほんごチャレンジ かんじN4-5』(アスク)
- 評価 : 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、かなクイズ5%、文法クイズ5%、課題10%
- ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位10認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-902-1、学部 FEN-JL4m10L1。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 岩田 夏穂 IWATA Natsuho, 金 (キム) ユジン KIM Youjin, ハワード 文江 HOWARD Fumie
- nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション, はじめましょう, L1(1,2)
2	4/ 8	月	L1(3-5), 語彙クイズL1, ひらがな1
3	4/ 8	月	L2(1,2)
4	4/ 10	水	L2(3-7), 語彙クイズL2, ひらがなクイズ1, ひらがな2
5	4/ 10	水	L2(3-7)
6	4/ 12	金	休講
7	4/ 15	月	L3, 語彙クイズL3, ひらがなクイズ2, ひらがな3
8	4/ 15	月	L3
9	4/ 17	水	L4, 語彙クイズL4, ひらがなクイズ3, ひらがな4
10	4/ 17	水	L4
11	4/ 19	金	応用練習 (L3&L4), ひらがな1-4
12	4/ 22	月	L5, 語彙クイズL5, ひらがなクイズ4, カタカナ1
13	4/ 22	月	L5

14	4/ 24	水	L6, 語彙クイズ L6, カタカナクイズ1, カタカナ2
15	4/ 24	水	L6
16	4/ 26	金	まとめ1, 応用練習 (L5&L6), カタカナクイズ2, カタカナ3
17	4/ 29	月	祝日
18	4/ 29	月	祝日
19	5/ 1	水	祝日
20	5/ 1	水	祝日
21	5/ 3	金	祝日
22	5/ 6	月	祝日
23	5/ 6	月	祝日
24	5/ 8	水	L7, L7語彙クイズ, カタカナクイズ3, カタカナ4, 作文課題①配布 (提出締切5/10)
25	5/ 8	水	L7
26	5/ 10	金	応用練習(L7), カタカナクイズ4
27	5/ 13	月	L8, L8語彙クイズ, 漢字 (1-5) , 作文課題②配布 (提出締切5/15)
28	5/ 13	月	L8
29	5/ 15	水	L9, L9語彙クイズ, 漢字 (6-10)
30	5/ 15	水	L9
31	5/ 17	金	応用練習 (L8&L9), 漢字クイズ (1-10)
32	5/ 20	月	L10, L10語彙クイズ, 漢字 (11-15)
33	5/ 20	月	L10
34	5/ 22	水	L11, L11語彙クイズ, 漢字 (16-20)
35	5/ 22	水	L11
36	5/ 24	金	応用練習(L10&L11), 漢字クイズ(11-20)
37	5/ 27	月	L12, L12語彙クイズ, 漢字 (21-25) , 作文課題③配布 (提出締切5/29)
38	5/ 27	月	L12
39	5/ 29	水	まとめ2, 復習 (L1-L12), 漢字(26-30)
40	5/ 29	水	復習 (L1-L12) , 中間発表導入
41	5/ 31	金	中間試験(L1-L12)
42	6/ 3	月	L13, L13語彙クイズ, 漢字クイズ (21-30) , 漢字 (31-35)
43	6/ 3	月	L13
44	6/ 5	水	L14, L14語彙クイズ, 漢字 (36-40) , 作文課題④配布 (提出締切6/7)
45	6/ 5	水	L14
46	6/ 7	金	中間発表課題, 漢字クイズ (31-40)
47	6/ 10	月	L15, L15語彙クイズ, 辞書形クイズ, 中間試験FB, 漢字 (41-45)
48	6/ 10	月	L15
49	6/ 12	水	L16, L16語彙クイズ, て形クイズ, 作文課題⑤配布 (提出締切6/14) , 漢字(46-50)
50	6/ 12	水	L16
51	6/ 14	金	応用練習(L15&L16), 漢字クイズ(41-50)
52	6/ 17	月	L17, L17語彙クイズ, 漢字 (51-55)
53	6/ 17	月	L17
54	6/ 19	水	L18, L18語彙クイズ, ない形クイズ, 漢字 (56-60)
55	6/ 19	水	L18
56	6/ 21	金	応用練習(L17&L18), 漢字クイズ(51-60)
57	6/ 24	月	た形クイズ, 復習(L13-L18), 漢字(61-65)
58	6/ 24	月	まとめ3
59	6/ 26	水	L19, L19語彙クイズ, 漢字(66-70)

60	6/ 26	水	L19
61	6/ 28	金	応用練習(L19), 漢字クイズ(61-70)
62	7/ 1	月	L20, L20語彙クイズ, 普通形クイズ, 漢字(71-75), 作文課題⑥配布 (提出締切7月3日)
63	7/ 1	月	L20
64	7/ 3	水	L21, L21語彙クイズ, 漢字(76-80)
65	7/ 3	水	L21, 期末口頭発表導入
66	7/ 5	金	応用練習(L20-L21), 漢字クイズ(71-80)
67	7/ 8	月	L22, L22語彙クイズ, 漢字(81-85)
68	7/ 8	月	L22, 期末口頭発表準備1(タイトルの確認・宿題1st draft)
69	7/ 10	水	応用練習(L22), 漢字(86-90)
70	7/ 10	水	期末口頭発表準備2(1st draft提出締切)
71	7/ 12	金	まとめ4, 漢字クイズ(81-90)
72	7/ 15	月	祝日
73	7/ 15	月	祝日
74	7/ 17	水	復習(L13-L22),漢字(91-100)
75	7/ 17	水	期末口頭発表準備3(1st draft FB 宿題:Final draftを書いてくる)
76	7/ 19	金	休講 (補講のため)
77	7/ 22	月	学期末試験 (L1-L22)
78	7/ 22	月	期末口頭発表準備4(リハーサル・PPT確認・発音練習), 漢字クイズ(91-100)
79	7/ 24	水	学期末口頭発表 原稿提出
80	7/ 24	水	振り返り (1学期のまとめ), 漢字(101-110)
81	7/ 26	金	学期末試験FB, 漢字クイズ(101-110)

インテンシブ初級 I AM

報告者：岩田 夏穂，金 瑜眞，ハワード 文江

1. 授業の方法と内容

1.1 授業の方法

本コースは、来日後、はじめて日本語を学ぶ学習者を対象とした初級レベルのインテンシブコースである。授業は週3回行われ、月曜日1・2限の2コマ、水曜日1・2限の2コマ、金曜日1限の1コマの週5コマであった。教科書は、スリーエーネットワーク社の「日本語初級1大地」を使用した。コースの学習目標として、コースの初級前半(L1-22)の文型および語彙を学習することで、総合的な日本語の運用力を身につけることを目標としている。文字については、ひらがな・カタカナを含め、日本語能力試験N5相当の漢字を110字習得することを目標として、アスク出版の「にほんごチャレンジかんじ N4-5」を使用して指導を行った。

1.2 授業の内容

本コースにおける内容および進度は、概ね次の通りである。2コマずつある月曜日と水曜日の授業において、一つの課を終わらせるように進め、金曜日は月曜日と水曜日に学習した課の応用練習を行った。また、月曜日と水曜日においては、毎課のはじめに語彙クイズを実施し、その後、文型の導入、パンプラクティス、教科書の問題やタスクを使用した会話練習などを行った。なお、各課の終了後は、文法クイズと聴解練習を行い、学習した内容について確認を行った。

2. その他

授業のほかに、学期の中間と学期末において、口頭発表を実施した。口頭発表の目的は、これまで学習した文型を使い口頭表現能力の練習を行うことと、インプットが多い授業の中でアウトプットを行うことで、学習者が自分の能力をモニターする機会を提供するためである。口頭発表は、2分間のプレゼンテーションを行った後、1分間の質疑応答を行った。学習者には、発表の前にスクリプトを作成・提出させ、担当教員が文法や構成をチェックし、発音や発表に使用するパワーポイントのスライドについても、チェックを行った。

3. まとめ・今後の課題

本コースを履修した学習者は、クイズや課題にまじめに取り組み、学期末の口頭発表や試験においても、良い評価を受けた学生が多かった。一方、学期の開始時には約14名が受講していたが、学期末の時点では、9名が修了者となった。インテンシブ初級Iは、学習項目が多く、負担を感じた学習者が多かったと考えられるため、今後は、オリエンテーション時に、学習項目が多いことを受講前に再度確認してもらう必要があると考えられる。

初級1

2019年度 S1S2

レベル	: 初級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 08:30 - 10:15 木曜日 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 88M(月、金) , 130(木)
学習目標	: 入門レベルから初級前半(L1-12)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を50字習得する。基本的なコミュニケーションができる。
対象	: はじめて日本語を勉強する人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、かなクイズ5%、文法クイズ5%、課題10% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位6認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-904-1, 学部FEN-JL4m20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者により発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 臼井 直也 USUI Naoya , 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 岡 葉子 OKA Yoko, 金 (キム) ユジン KIM Youjin, 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	Orientation, L0(Let's start), Classroom Japanese, Intro to OnlineSite
2	4/ 8	月	L1(1,2,3), Hiragana(1) a, ka, ga-line
3	4/ 11	木	L1 (4,5), review, Hiragana(2) sa, za, ta, da-line
4	4/ 12	金	休講
5	4/ 15	月	L1 review, Vocab QuizL1, Hiragana(3) na, ha, ba, pa-line
6	4/ 18	木	L2(1,2,3,4), Vocab QuizL2, Hiragana(4) ma, ya, ra, wa-line
7	4/ 19	金	L2(5,6,7), Hiragana Quiz1
8	4/ 22	月	L3(1,2), Vocab QuizL3, Hiragana(5) Hiragana special
9	4/ 25	木	L3(3,4), Hiragana review
10	4/ 26	金	L4(1,2), Vocab QuizL4, Hiragana review
11	4/ 29	月	祝日
12	5/ 2	木	祝日
13	5/ 3	金	祝日
14	5/ 6	月	祝日
15	5/ 9	木	L4(3,4), Hiragana Quiz 2

16	5/ 10	金	L2&L3&L4(Application exercise), Katakana(1) a, ka, ga, long sound
17	5/ 13	月	L5(1,2,3), Vocab QuizL5, Katakana(2)sa, ta, za, da-line
18	5/ 16	木	L5(4,5), Katakana(3) na, ha, ba, pa-line
19	5/ 17	金	L6(1,2,3), Vocab QuizL6, Katakana(4) ma, ya, ra, wa-line
20	5/ 20	月	L6(4,5), Katakana(5) Special Katakana, Katakana Quiz1
21	5/ 23	木	GrammarQuiz(VerbConjugation),L5&L6(Application exercise), Katakana review, Matome1(L1-L6)
22	5/ 24	金	Review1, Kanji L1#1-5, Katakana Quiz2
23	5/ 27	月	Review2, KanjiL1#6-10
24	5/ 30	木	Midterm Exam (L1-L6),
25	5/ 31	金	L7(1,2), VocabQuizL7, KanjiQuizL1 (#1-10) , Kanji L2#11-15,
26	6/ 3	月	L7(3,4), Kanji L2#16-20, Project Work 1
27	6/ 6	木	L8(1,2), VocabQuizL8, KanjiQuizL2 (#11-20) ,Mid-term Exam FB
28	6/ 7	金	L8(3,4), Kanji L3 #21-25
29	6/ 10	月	L8(5), Project Work 2
30	6/ 13	木	L7,L8(Application exercise), Kanji L3#26-30, ReflectionDue
31	6/ 14	金	L9(1,2), VocabQuizL9, KanjiQuizL3 (#21-30)
32	6/ 17	月	L9(3,4), Kanji L4#31-35
33	6/ 20	木	L10(1,2), VocabQuizL10, Kanji L4#36-40
34	6/ 21	金	L10(3,4), Kanji QuizL4 (#31-40)
35	6/ 24	月	L9&L10(Application), KanjiL5#41-45
36	6/ 27	木	L11(1,2,3), VocabQuizL11, KanjiL5#46-50
37	6/ 28	金	L11(4,5), KanjiQuizL5 (#41-50) , Intro Final Presentation(FP)
38	7/ 1	月	L12(1,2), VocabQuizL12, Kanji review
39	7/ 4	木	KanjiMatomeQuizL1-5(#1-50) L12(3), Title due
40	7/ 5	金	FP1(1st draft due), L12L&D, R&W
41	7/ 8	月	L11, L12 (Application exercise), Matome2(L7-L12)
42	7/ 11	木	FP2(Revise Draft)
43	7/ 12	金	GrammarQuiz(AdjConjugation),FP (2nd draft due), Review1
44	7/ 15	月	祝日
45	7/ 17	水	【月曜授業】 Review2
46	7/ 18	木	休講(補講日)
47	7/ 19	金	休講 (補講日)
48	7/ 22	月	Final Exam(L7-12)
49	7/ 25	木	FP3 (PPTdue), Bring your pc
50	7/ 26	金	FinalExam FB, Final Presentation

初級 1

報告者：A クラス 臼井直也・内田あゆみ・岡葉子
B クラス 金瑜眞・古市由美子・猪狩美保

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースでは、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の前半（L1～L12）を扱い、初級前半の文法項目の定着ならびに「読む、書く、聞く、話す」の 4 技能をバランスよく伸ばすことを目指した。授業は、月・木・金の 1 限（105 分）に行い、2 日で 1 課進んだ後、復習の日を適宜設けた。文字については、ひらがなとカタカナを導入した後、漢字教材として『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）を使用し、L5 までの 50 字を導入した。

1-2. 授業の内容

各課の初めに語彙クイズを実施し、その課の文型の導入、基本練習を行った。文型の練習が終わると、課の初めにある会話や「使いましょう」の応用練習を実施し、さらなる定着を図った。並行して、文字の導入、練習、確認クイズを実施した。復習の日には、『文法まとめリスニング』や『大地基礎問題集』から適宜問題を抜粋して使用した。

学期半ばには、課題の一環として日本人ならびに留学生に対するインタビューを課し、タスクシートにまとめたものをクラスで発表した。さらに、学期末には総復習として PPT を使用した期末口頭発表を実施した。

2. その他

今年度も初級レベルの学生の増加を受け、A, B の 2 クラス編成で授業を行った。両クラスの学習内容、レベルは同一で、国籍や専攻の偏りがないように配慮した。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>

総じて真面目で静かな学生が多かったが、授業内の会話タスク等には積極的に取り組み楽しそうに発話する姿が見られた。文法クイズや漢字クイズなどもよく準備してきており、期末口頭発表も聞きごたえのあるものが多かった。最終的に 12 名が修了した。

<B クラス>

全体的に真面目で積極的に授業に取り組む学生が多く、学期末の時点で 16 名が修了した。一方、授業が進むにつれ、クラス内でレベル差が開き、授業の進度についてくるのが困難な学習者も見られた。今後は、復習のための追加課題を与えるなど、レベル差を解消するための工夫を行っていきたい。

初級2

2019年度 S1S2

レベル	: 初級 I
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 08 - 2019/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 初級前半(L13-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。 日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人
テキスト	: 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10% ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-905-1、学部FEN-JL4m30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者 にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席 とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 金 (キム) ユジン KIM Youjin, 中村 亜美 NAKAMURA Ami, 栗田 奈美 KURITA Nami, 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション、レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 10	水	L13(1-2)
3	4/ 15	月	語彙クイズ(L13)、L13(3-4)、Listening&Dialogue、Reading&Writing
4	4/ 17	水	語彙クイズ(L14)、L14(1-2)、漢字#51-55
5	4/ 22	月	文法クイズ (辞書形) 、L14(3-4)、漢字#56-60
6	4/ 24	水	漢字クイズ(#51-60)、L14(5)、L&D、R&W、課題1【配付】
7	4/ 29	月	祝日
8	5/ 1	水	祝日
9	5/ 6	月	祝日
10	5/ 8	水	語彙クイズ(L15)、L15(1-3)、漢字JLPT(L4-6)、課題1【回収】
11	5/ 13	月	文法クイズ (て形) 、L15(4-5)、L&D、R&W、漢字#61-65
12	5/ 15	水	語彙クイズ(L16)、L16(1-2)、漢字#66-70
13	5/ 20	月	漢字クイズ(#61-70)、L16(3-4)、L&D、R&W、課題2【配付】
14	5/ 22	水	語彙クイズ(L17)、L17(1-3)、漢字#71-75、課題2【回収】
15	5/ 27	月	文法クイズ (ない形) 、L17(4)、L&D、R&W、漢字#76-80

16	5/ 29	水	漢字クイズ(#71-80)、中間試験(L13-17)
17	6/ 3	月	語彙クイズ(L18)、L18(1-3)
18	6/ 5	水	文法クイズ (た形)、中間テストFB、L18 (4)、L&D、R&W、漢字#81-85、課題(1,2) 発表会の説明、課題3【配付】
19	6/ 10	月	語彙クイズ(L19)、まとめ3、L19 (1)、課題口頭発表会、課題3【回収】
20	6/ 12	水	L19(2-3)、L&D、R&W、漢字#86-90
21	6/ 17	月	語彙クイズ(L20)、漢字クイズ(#81-90)、L20(1,2-1,2-2,2-3)、漢字JLPT(L7-9)
22	6/ 19	水	文法クイズ (普通形)、L20(2-4,2-5)、L&D、R&W、漢字#91-95、課題4【配付】
23	6/ 24	月	語彙クイズ(L21)、L21(1,2)、漢字#96-100、課題4【回収】
24	6/ 26	水	漢字クイズ(#91-100)、L21(3)、L&D、R&W
25	7/ 1	月	語彙クイズ(L22)、L22(1-2)、漢字#101-105、学期末口頭発表準備1 (導入)
26	7/ 3	水	L22(3-4)、L&D、R&W、漢字#106-110、学期末口頭発表準備2 (テーマ決定)
27	7/ 8	月	漢字クイズ(#101-110)、まとめ4、漢字JLPT(L10-11)、学期末口頭発表1st draft原稿締切
28	7/ 10	水	漢字まとめクイズ(#61-110)、学期末口頭発表準備3(リライト)
29	7/ 15	月	祝日
30	7/ 17	水	【月曜授業】復習
31	7/ 22	月	学期末試験(L13-22)
32	7/ 24	水	学期末口頭発表、学期末試験FB、Final draft締切

初級 2

報告者：A クラス 金 瑜眞、中村 亜美

B クラス 栗田 奈美、藤井 明子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースは週 2 回（1 コマ 105 分）のコースで、『大地 1』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として N5 レベルの漢字（後半）60 字を導入した。

1-2. 授業の内容

各課の初めに語彙クイズを実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。また、動詞の活用等については、文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、読解、作文については課題を出し、学習を促した。並行して、漢字の導入、練習、確認クイズを実施した。

学期半ばには、作文の課題を基に口頭発表会を行った。学期末には、当該コースで学んだ文型を盛り込み、それぞれのテーマで準備したスクリプトを基に、PPT を使用した期末口頭発表を実施した。

2. その他（特記事項）

初級 2 レベルは学生数が多かったため、A, B の 2 クラス編成で授業を行った。なお、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>

全体的に、クイズや課題にまじめに取り組み、学期末の口頭発表や試験においても、良い評価を受けた学生が多かった。一方、授業の回数が週 2 回ということもあり、文法項目の定着を中心に進めたため、リスニングや会話の練習が十分ではなかった部分は課題である。今後は、副教材などを活用し、リスニングや会話の練習も積極的に取り入れたい。

<B クラス>

専門の研究と両立させながら、自分のペースで日本語学習に取り組んでいる学生が多く、授業態度も良好であった。授業に出席していた学生の大半が修了できた点も評価できる。今学期は中国語圏の学生の割合が比較的高かったが、その中には文字に頼りすぎたり発音に母語の影響が見られたりする学生もいた。今後は発音指導を始め、円滑な日本語運用力が身につけられる授業を心掛けたい。

インテンシブ初級Ⅱ AM

2019年度 S1S2

レベル	: 初級2 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 09 - 2019/ 07/ 25
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 火曜日 08:30 - 10:15 木曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 123教室
学習目標	: 初級後半(L23-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。 日本語能力試験N4相当の漢字を200字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ 初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク) 『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジ かんじN4-5』(アスク)
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(8)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-906-1、学部 FEN-JL4n01L1。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri, ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション レベルチェック 復習 L23(1)
2	4/ 9	火	L23(1) 漢字L1(111 - 120)
3	4/ 11	木	L23(2,3) 語彙クイズL23
4	4/ 11	木	L23(2,3) 漢字クイズL1 漢字L2(121 - 130)
5	4/ 16	火	L24 語彙クイズL24 課題①
6	4/ 16	火	L24 漢字クイズL2 漢字L3(131 - 140)
7	4/ 18	木	L25 語彙クイズL25 可能形クイズ 課題①提出
8	4/ 18	木	L25 漢字クイズL3 漢字L4(141 - 150)
9	4/ 23	火	L26 語彙クイズL26
10	4/ 23	火	L26 漢字クイズL4 漢字L5(151 - 160)
11	4/ 25	木	L27 語彙クイズL27
12	4/ 25	木	L27 まとめ5
13	4/ 30	火	【休講】 (祝日)
14	4/ 30	火	【休講】 (祝日)

15	5/ 2	木	【休講】（祝日）
16	5/ 2	木	【休講】（祝日）
17	5/ 7	火	L28 語彙クイズL28
18	5/ 7	火	L28 漢字復習L1-15 漢字クイズL5 漢字L6(161 - 170)
19	5/ 9	木	L29 語彙クイズL29 課題②
20	5/ 9	木	L29 漢字クイズL6 漢字L7(171 - 180)
21	5/ 14	火	L30 語彙クイズL30 課題②提出
22	5/ 14	火	L30 漢字クイズL7 漢字L8(181 - 190)
23	5/ 16	木	L31 語彙クイズL31 意向形クイズ
24	5/ 16	木	L31 漢字クイズL8 漢字L9(191-200)
25	5/ 21	火	L32 語彙クイズL32 口頭発表導入
26	5/ 21	火	L32 漢字クイズL9 漢字L10(201 - 210)
27	5/ 23	木	まとめ6 漢字クイズL10 漢字L11(211-220)
28	5/ 23	木	まとめ6 漢字復習L6-L10
29	5/ 28	火	中間試験（L23-L32）
30	5/ 28	火	漢字まとめクイズL1-L10 口頭発表
31	5/ 30	木	L33 語彙クイズL33 課題③
32	5/ 30	木	L33 漢字クイズL11 漢字L12(221 - 230)
33	6/ 4	火	【休講】（中休み）
34	6/ 4	火	【休講】（中休み）
35	6/ 6	木	L34 語彙クイズL34 条件形クイズ 課題③提出
36	6/ 6	木	L34 漢字クイズL12 漢字L13(231-240) 中間試験フィードバック
37	6/ 11	火	L35 語彙クイズL35
38	6/ 11	火	L35 漢字クイズL13 漢字L14(241 - 250)
39	6/ 13	木	L36 語彙クイズL36
40	6/ 13	木	L36 漢字クイズL14 漢字L15(251 - 260)
41	6/ 18	火	L37 語彙クイズL37 受身形クイズ 課題④
42	6/ 18	火	L37 漢字クイズL15 漢字L16(261 - 270)
43	6/ 20	木	まとめ7 漢字復習L11-L15 課題④提出
44	6/ 20	木	まとめ7 漢字クイズL16 漢字L17(271 - 280)
45	6/ 25	火	L38 語彙クイズL38 漢字まとめクイズL11-L15
46	6/ 25	火	L38 漢字クイズL17 漢字L18(281 - 290)
47	6/ 27	木	L39 語彙クイズL39 命令形・禁止形クイズ
48	6/ 27	木	L39 漢字クイズL18 漢字L19(291 - 300)
49	7/ 2	火	L40 語彙クイズL40
50	7/ 2	火	L40 学期末口頭発表導入
51	7/ 4	木	L41 語彙クイズL41 使役形クイズ 口頭発表題名提出
52	7/ 4	木	L41 漢字クイズL19 漢字L20(301 - 310)
53	7/ 9	火	学期末口頭発表準備 第一稿提出
54	7/ 9	火	漢字クイズL20 漢字復習L16 - L20
55	7/ 11	木	L42 語彙クイズL42 尊敬語クイズ 口頭発表第2稿提出
56	7/ 11	木	L42
57	7/ 16	火	まとめ8 謙譲語クイズ 学期末口頭発表準備
58	7/ 16	火	まとめ8 復習 学期末口頭発表準備
59	7/ 18	木	【休講】（補講日）
60	7/ 18	木	【休講】（補講日）

61	7/ 23	火	学期末試験
62	7/ 23	火	学期末口頭発表リハーサル PPT提出
63	7/ 25	木	学期末口頭発表
64	7/ 25	木	学期末試験フィードバック 漢字まとめクイズL16-L20

インテンシブ初級ⅡAM

報告者：片岡さゆり・ハワード文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週2回各2コマの集中コースで、『大地2』（スリーエーネットワーク）を主教材とし、2コマ1課のペースで授業を行った。初級後半の文型、語彙表現を習得するとともに、小会話、聴解、読解、作文などの教室活動を積極的に行い、総合的な日本語能力の向上を目指した。また漢字学習としては『日本語チャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）を使用し、既習漢字と関連付けながら日本語能力試験 N4 レベル漢字を学習した。小テストに加え、適宜 復習および復習クイズを行い定着を図った。

【授業の内容】

各課のはじめに語彙クイズを行った後、文型を導入し、運用練習を行った。学生間、またはボランティア学生とのペアワークによる学習活動を重視した。課題では、「日本へ来てできるようになったこと、できなくなったこと」、「国の有名な建物」など4つのテーマについて作文練習を行った。

漢字の学習は各課10個の漢字を導入、翌週にクイズを行い、5課毎に復習と応用練習を行った。

2. その他

期末口頭発表への準備として、課題1または課題2を発表する中間口頭発表を行った。短い発表であったが、基本的な手順を知り、発表に慣れるよい機会となった。期末口頭発表では、「小学生が携帯電話を持つこと」、「高校生がアルバイトすること」などについて自分の意見を述べる活動を行った。原稿完成から発表練習まで段階的に進め、総合的な学習のまとめとした。

3. まとめ・今後の課題

学生同士が協力して熱心に学習に取り組んでいた。ボランティア学生との会話練習の機会はアンケート結果でも役に立ったという意見が多かったので今後も続けていきたい。

進度が速く各回の学習項目が多いため、応用練習に充てられる時間が限られる。定期試験の結果では、聴解問題を難解とする学生が多く見られるため、授業内で聴解練習の時間が十分にとれるようにしていきたい。

漢字の学習は主教材『大地2』と漢字学習教材『日本語チャレンジ N4-5 かんじ』との関連が無い場合、学生には 毎回授業準備として主教材の新出単語と漢字学習教材での新出漢字語彙の学習が必要になり、負担が増えている。主教材と漢字教材は関連があった方がよいと思われるが、コースの漢字学習の位置付けについて更に検討が必要である。

初級3

2019年度 S1S2

レベル	: 初級Ⅱ
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 初級後半(L23-32)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテグ 初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-908-1)、学部(FEN-JL4n10L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko, 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	Review&Challengeクイズ, オリエンテーション, L23さい, かんじ(#111-115)
2	4/ 9	火	さいクイズL23, L23.1 Dic.&Te&NaiFormふくしゅう, かんじ(#116-120)
3	4/ 12	金	【休講】(入学式)
4	4/ 16	火	ぶんぼうクイズ(Dic&Te&Nai),かんじクイズL1(#111-120), L23.2-3, Listening&Dialogue, Reading&Writing, かだい1(L23)導入
5	4/ 19	金	さいクイズL24, L24.1-2, かんじ(#121-125), かだい1(L23)しめきり
6	4/ 23	火	L24可能形クイズ, L24.3-4, L&D, R&W, かんじ(#126-130)
7	4/ 26	金	さいクイズL25, かんじクイズL2(#121-130), L25.1-2
8	4/ 30	火	祝日(国民の祝日)
9	5/ 3	金	祝日(憲法記念日)
10	5/ 7	火	L25.3-4, L&D, R&W, かんじ(#131-135)
11	5/ 10	金	さいクイズL26, L26.1-2, かんじ(#136-140)
12	5/ 14	火	かんじクイズL3(#131-140), L26.3, L&D, R&W, かんじ(#141-145), かだい2(L25&26)導入
13	5/ 17	金	さいクイズL27, L27.1-2, かんじ(#146-150), かだい2(L25&26)しめきり

14	5/ 21	火	かんじクイズL4(#141-150), L27.3, L&D, R&W, かんじ (#151-155), かだい3 (L27)導入
15	5/ 24	金	まとめ5(p31-32), 基礎問題集, かんじ (#156-160)
16	5/ 28	火	かんじクイズ L5(#151-160), かだい3 (L27)しめきり, 基礎問題集, かんじ (#161-165), 基礎問題集解答配布
17	5/ 31	金	中間試験(L23-27)
18	6/ 4	火	【休講】 (中休み)
19	6/ 7	金	ごいクイズ L28, 中間試験F.B, L28.1-2, かんじ (#166-170)
20	6/ 11	火	かんじクイズ L6(#161-170), L28.3-4, L&D, R&W, かんじ (#171-175)
21	6/ 14	金	ごいクイズ L29, L29.1-2, かんじ (#176-180)
22	6/ 18	火	かんじクイズ L7(#171-180), L29.3-4, L&D, R&W, かんじ (#181-185)
23	6/ 21	金	ごいクイズ L30, L30.1-2, かんじ (#186-190)
24	6/ 25	火	L30意向形クイズ, かんじクイズ L8(#181-190), L30.3, L&D, R&W, かだい4 (L30)導入
25	6/ 28	金	ごいクイズ L31, L31.1-3, 期末発表導入, かんじ (#191-195), かだい4 (L30)しめきり
26	7/ 2	火	FP:タイトルしめきり, L31.4-5, L&D, R&W, かんじ (#196-200)
27	7/ 5	金	ごいクイズ L32, FP:げんこう①しめきり, L32.1-2
28	7/ 9	火	かんじクイズ L9(#191-200), 書き直し指示, L32.3, L&D, R&W, かんじ (#201-205)
29	7/ 12	金	まとめ6(p63-64), かんじ (#206-210), 基礎問題集&解答配布
30	7/ 16	火	かんじクイズ L10(#201-210), FP:PPTしめきり, リハーサル, れんしゅう
31	7/ 19	金	【休講】 (補講日)
32	7/ 23	火	期末試験(L23-32)
33	7/ 26	金	期末発表 げんこう②しめきり 期末試験F.B

初級 3

報告者：米谷章子・片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 2 回 (1 コマ 105 分) 展開のコースで、『大地 2』(スリーエーネットワーク) を主要教材として使用、前半の L23～L32 を扱った。漢字学習としては、N4 レベルの単漢字 100 字とその対象漢字を含む語彙学習を行った。語彙、文法項目、様々な言語表現や各課のトピックに関する背景知識を習得しながら、小会話、聴解、読解、作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を図った。

授業は、1) 漢字クイズ・語彙クイズ・文法クイズの実施、2) 漢字導入と練習、3) 文型の導入・練習、4) 応用練習・会話練習、5) 聴解・モデル会話の練習、6) 読解・作文、の順で実施した。

【授業の内容】

各課の「国の四季」、「10 年後の自分」、「健康のためにしていること」、「地震」、「就職」などのトピックを題材に発展練習を行い、受講者間の交流を促進しながら表現の定着と共に、日本や各国の異文化理解を深めた。

期末口頭発表では、「日本に留学した理由」、「日本で経験したこと」などのテーマで発表を行った。原稿作成、PPT 作成、口頭練習のプロセスを通じてより良い発表を目指した。発表会ではどの受講者も落ち着いた態度で臨み、体験について自分の言葉で発表することができた。聴く側も内容に深く関心を寄せ、活発な質疑応答が行われた。このような総合的な活動は、受講者にとって大きな達成感を得る機会であると考えられる。

2. その他

文法クイズでは活用形の確認のみに留まらず、場面を提示した発展問題も加え、運用能力の定着を目指した。また、週 1 回日本語ボランティア 1 名に参加してもらい、主に会話練習のパートナーとして活動をお願いした。学内では日本語を使う機会が少ないためか、日本語話者との会話練習は非常に好評であった。

3. まとめ・今後の課題

約 13 名の受講者が継続的に出席し、全ての学生が熱心に取り組んでいた。全体的に明るく、よい雰囲気であったが、後半にかけて出席者が減少してしまった。特に、成績優秀であるにもかかわらず、出席率不足で未修了となり、初級 3 を複数回リピートしている受講者が数名存在することは非常に残念である。今後もそのような受講者の出席率改善を図るため、定期的に修了条件の出席率について注意喚起をするなど努力を続けたい。

初級4

2019年度 S1S2

レベル	: 初級2 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 09 - 2019/ 07/ 25
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 88L教室(火) 324C教室(木)
学習目標	: 初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
対象	: 日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当
テキスト	: 『大地2 メインテキスト』（スリーエーネットワーク） 『大地2 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10%
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-909-2、学部FEN-JL4 n25L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者 にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho, 岩田 夏穂 IWATA Natsuho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	Orientation, R&C Quiz, L23-32 Rev., L33 Vocabulary introduction
2	4/ 11	木	L33.1(1-1~1-7) L33 Voc.quiz
3	4/ 16	火	L33.1(1-8)&2, Listening&Dialogue, 漢字（211-215）
4	4/ 18	木	L34.1&2, L34 Voc.quiz, 文法クイズ1（条件形）, 漢字（216-220）
5	4/ 23	火	L34.3&4, L&D, Reading & Writing, 漢字クイズ（211-220）, 漢字（221-225）
6	4/ 25	木	L35.1&2, L35 Voc.quiz, 漢字クイズ(226-230)
7	4/ 30	火	休講(祝日)
8	5/ 2	木	休講(祝日)
9	5/ 7	火	L35.3&4, L&D, R&W, 漢字クイズ(221-230), 漢字(231-235)
10	5/ 9	木	L36.1&2, L36 Voc.quiz, 漢字(236-240)
11	5/ 14	火	L36.3&4, L&D, R&W, 文法クイズ2（受身形）,漢字クイズ(231-240) 漢字(241-245)
12	5/ 16	木	L37.1&2, L37 Voc.quiz, 漢字(246-250)
13	5/ 21	火	L37.3, L&D, R&W, 漢字クイズ(241-250) 漢字(251-255)
14	5/ 23	木	まとめ7, Review, 漢字(256-260)
15	5/ 28	火	Midterm Exam(L33-37)
16	5/ 30	木	Midterm Exam FB, L38.1&2,L38 Voc.quiz
17	6/ 4	火	休講(中休み)
18	6/ 6	木	L38.3&4, L&D, R&W 文法クイズ3（命令形禁止形）,漢字クイズ(251-260), 漢字(261-265)

19	6/ 11	火	L39.1&2, L39 Voc.quiz,漢字 (266-270)
20	6/ 13	木	L39.3, L&D, R&W, 漢字クイズ(261-270), 漢字(271-275)
21	6/ 18	火	L40.1&2, L40 Voc.quiz, 漢字 (276-280)
22	6/ 20	木	L40.3&4, L&D, R&W, 文法クイズ4 (使役形) , 漢字クイズ(271-280)、漢字(281-285), Presentation introduction
23	6/ 25	火	L41.1&2&3, L41 Voc.quiz, 漢字 (286-290)
24	6/ 27	木	L41.4&5&6, L&D, R&W, 文法クイズ5(尊敬動詞) , 漢字クイズ (281-290) , 漢字 (291-295)
25	7/ 2	火	L42.1&2, L42 Voc.quiz, 漢字(296-300), Presentation 1st Draft
26	7/ 4	木	L42.3, L&D, R&W, 文法クイズ6 (謙譲動詞) , 漢字クイズ(291-300), 漢字(301-305)
27	7/ 9	火	まとめ8 (教科書) , Review, 漢字 (306-310)
28	7/ 11	木	Review (まとめ8問題集FB) , 漢字クイズ (301-310) Presentation 2nd Draft
29	7/ 16	火	Presentation Practice, PPTcheck
30	7/ 18	木	休講 (補講)
31	7/ 23	火	Final Exam (L38-42)
32	7/ 25	木	Final Presentation(Presentation Final Draft), Final Exam FB

初級 4

報告者：岩田夏穂・猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大地2』（スリーエーネットワーク）を主要教材として使用し、L33～42 の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目と様々な言語表現やその背景知識を習得しながら、聴解、読解、作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、『にほんごチャレンジ』（アスク）を用いて、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習も行った。授業は、1) 語彙クイズ、2) モデル会話の聞き取り、3) 文型の導入・練習、4) 応用練習・会話練習、5) 聴解、6) 読解・作文、7) 漢字クイズ、導入と書き順の確認 という流れで実施した。

【授業の内容】

授業では、まずモデル会話を聞かせ、ペア・グループで情報を共有してから、再度スクリプトを見ながら聞き、新しく学ぶ文型と語彙を確認した。文型、語彙の定着だけでなく、応用練習、聴解、読解・作文の活動も、なるべくピア活動を通して行うようにした。それと並行して文法クイズを実施し、受身形、使役形、尊敬動詞、謙譲動詞などの定着を図った。また、授業では十分に時間が取れない書く力の育成では、随時作文課題を課し、総合的な運用能力の向上を目指した。

2. その他

学期末口頭発表は、前学期の内容を踏襲し、授業で扱ったディベート活動を基に聞き手に主張を伝え、説得するプレゼンテーションを行った。複数の根拠を示し、予想される聞き手の反論も考慮に入れながら主張することが求められる課題であったが、みなしかりと準備をし、質疑応答時には活発な意見交換が見られた。

3. まとめ・今後の課題

受講生はいずれもまじめに活動に取り組み、クラス全体の雰囲気はよかったものの、前半に継続して参加していた 16 名の受講者が最終的に 7 名(修了者は 5 名)に減少してしまい、残念であった。ゼミとの兼ね合いや研究出張等で出席が次第に難しくなっていったことが主な原因と思われるが、学生ボランティアが、都合で後半に参加できなくなってしまうことも、受講者の動機付けに影響した可能性がある。日本人学生と受講生の関係構築の機会を確保し、日本語学習の動機付けを促進することが課題としてある。

中級1 総合

2019年度 S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 08 - 2019/ 07/ 25
時間	: 08:30 - 10:15 月曜日 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 132(月) 、88M (木)
学習目標	: 日常生活における場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、身近な話題を取り上げ、初中級レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動20%、中間試験20%、学期末試験20%、その他40%（クイズ10%、作文15%、学期末口頭発表15%） ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位4認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-921-1、学部FEN-JL4o01L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 栗田 奈美 KURITA Nami, 岡 葉子 OKA Yoko, 藤井 明子 FUJII Akiko, 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション, レベルチェック
2	4/ 11	木	第1課①（文型1,2）
3	4/ 15	月	第1課②（文型3,4）, 本文読解
4	4/ 18	木	語彙クイズ（L1）, 第2課①（文型1,2,3）
5	4/ 22	月	第2課②（文型4,5）, 本文読解
6	4/ 25	木	語彙クイズ（L2）, 第3課①（文型1,2,3）
7	4/ 29	月	祝日
8	5/ 2	木	祝日
9	5/ 6	月	祝日
10	5/ 9	木	第3課②（文型4,5,6）, 本文読解
11	5/ 13	月	復習（L1,2,3）, 作文1
12	5/ 16	木	語彙クイズ（L3）, 第4課①（文型1,2,3）
13	5/ 20	月	第4課②（文型4,5）, 本文読解
14	5/ 23	木	語彙クイズ（L4）, 第5課①（文型1,2,3）
15	5/ 27	月	第5課②（文型4,5,6）, 本文読解

16	5/ 30	木	語彙クイズ (L5) , 復習 (L4,5), 作文2
17	6/ 3	月	中間試験 (L1-5)
18	6/ 6	木	第6課① (文型1-4)
19	6/ 10	月	作文発表会, 第6課② 本文読解
20	6/ 13	木	語彙クイズ (L6) , 第7課① (文型1,2,3,4)
21	6/ 17	月	第7課② (文型5,6,7) , 本文読解
22	6/ 20	木	語彙クイズ (L7) , 復習 (L6,7), 作文3
23	6/ 24	月	第8課① (文型1,2,3)
24	6/ 27	木	第8課② (文型4,5,6) , 本文読解, 学期末口頭発表導入
25	7/ 1	月	語彙クイズ (L8) , 第9課① (文型1,2,3)
26	7/ 4	木	第9課② (文型4,5,6), 本文読解, 学期末口頭発表準備
27	7/ 8	月	語彙クイズ (L9) ,第10課① (文型1,2,3) , 学期末口頭発表準備
28	7/ 11	木	第10課② (文型4,5,6) ,本文読解, 学期末口頭発表準備
29	7/ 15	月	祝日
30	7/ 17	水	【月曜授業】語彙クイズ(L10), 復習 (L8,9,10) ,学期末口頭発表準備
31	7/ 18	木	休講
32	7/ 22	月	学期末試験(L6-10)
33	7/ 25	木	学期末口頭発表

中級 1 総合

報告者：A クラス 栗田奈美・藤井明子

B クラス 岡葉子・宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）を使用し、初級が終わった学生を対象に、聞く・読む・話す・書くの四技能を総合的に伸ばすことを目的とした。2 コマで 1 課進むペースで、教科書全 10 課および本文に付随する語彙と漢字を学習した。

まず、とびらのページの「話しましょう」を使ってグループで話しあい、本文 CD を視聴することでテーマへの意識づけを行った。その後、文型・表現や語彙を導入・練習し、本文精読を行った。その後、聴解タスクシートを用いたディクテーション練習により、聴解能力向上を図った。最後に、その課で習った漢字を扱い、次週漢字語彙クイズを実施した。

【授業の内容】

教科書本文のテーマは、「日本のイメージ」「あいづち」のような日本の社会や文化、「地震」「睡眠」のような自然科学的な題材、「最近のこども」「リサイクルとフリーマーケット」のような社会・環境問題を扱ったものであった。授業では、学生の母国の状況との比較や、自らの経験などについて発話する機会を設けた。

2. その他

課のテーマと関連付けた 300 字前後の作文課題を 3 回ほど課し、作文発表会も 1 回行った。期末口頭発表は、日本語で行ったインタビュー調査の発表とし、テーマ設定から質問項目作成、インタビュー実施の会話練習などを数回に分けて指導した。

3. まとめ・今後の課題

<A クラス>

12 名が修了したが、クラス内で日本語能力・モチベーションの差がみられ、努力の結果、中級前半レベルにふさわしい日本語力を獲得した学生と、日本語能力が伸び悩んだ学生に分かれてしまった感があった。また、教室内での練習で書くことが優先してしまい、口頭練習をおろそかにしてしまう学生がいたので、今後は口頭練習が重要だということを学期当初から徹底していきたい。

<B クラス>

総じて日本語能力が高く、授業内でのタスクの取り組みも早く的確で、クラス内での話し合いも盛り上がった。最終的に 8 名修了したが、期末口頭発表ではジェンダーやアイデンティティを扱ったものなど、高度な内容の発表も多く、日本語学習に対する熱意が感じられた。

中級1 聴解

2019年度 S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 聴解
開講期間	: 2019/ 04/ 09 - 2019/ 07/ 25
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: 工学部8号館 130教室
学習目標	: 初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: 『聞いて覚える話し方 日本語生中継初中級編1』（くろしお出版）
評価	: 教室活動10%、参加度10%、中間試験20%、期末試験20%、その他40%（課題20%、クイズ20%） ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-922-1、学部FEN-JL4o10L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション
2	4/ 16	火	1 課
3	4/ 23	火	2 課
4	4/ 30	火	祝日
5	5/ 7	火	3 課
6	5/ 14	火	4課
7	5/ 21	火	5 課
8	5/ 28	火	中間試験
9	6/ 4	火	中休み
10	6/ 11	火	6 課
11	6/ 18	火	7 課
12	6/ 25	火	8 課
13	7/ 2	火	9 課
14	7/ 9	火	10 課
15	7/ 16	火	復習
16	7/ 23	火	期末試験

中級 1 聴解

報告者：山口真紀

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『日本語生中継・初中級編』（スリーエーネットワーク）を使用し、授業を行った。授業は、1 コマで 1 課を扱う形で進めた。ウォーミングアップとしてシャドーイング（『シャドーイング日本語を話そう！初級級編』くろしお出版）を授業の最初の活動として取り入れた。具体的な授業の流れは、シャドーイング→語彙クイズ→課のトピックについての話し合い→聞き取り練習→表現の確認→会話の順番で行った。

【授業の内容】

授業では、日常会話を取り上げ、主にスピーチレベルのシフトと話し言葉表現に特化した聞き取り練習を行った。今学期の学生たちは、初級の基本的な文法は十分に習得していたが、敬語、縮約形、話し言葉表現を苦手としていた。この点を強化する目的で、文法、語彙の解説を丁寧に行った。また、この教科書は、トピックごとに多くの語彙が提出されるため、語彙は事前に学習しておいてもらい、クイズで確認する形を取った。質問は授業内で随時受け付け、疑問はその場で解決するようにした。敬語表現については、必要に応じて初級文法を復習した。

2. その他

ボランティアの日本人学生の協力を得、できるだけ教科書で提示される場面を再現し、聞き取りの状況がイメージできるようにした。ボランティアの方の積極的な授業参加は非常にありがたかった。シャドーイングは、縮約形の聞き取り強化に役立ったようである。

3. まとめ・今後の課題

全ての学生が熱心に学習に取り組んでいた。クラス全体の雰囲気も良く、授業進行もスムーズであった。前年度の反省を踏まえ、拗音、促音の聞き取りが正確にできるよう、折に触れて注意を促した。今回、研究が忙しくクラスにほとんど参加できなかった博士課程の学生が、教科書の内容を予定表に沿って全て自習し、自分の学習成果を確かめるために中間試験、期末試験に参加し、高得点を収めた事例があった。継続的に参加できない学生に対して教師としてどのような支援ができただろうかと考えさせられた。クラスを修了した学生は単位を希望する学生が多くを占め、単位を希望しない学生は研究が忙しくなるとクラスに来なくなるという傾向が今回も見られたが、「大学での研究や生活をよりよくするための支援」という日本語教室の理念を考えれば、研究生活とのバランスを取りながら長期的に日本語学習を継続できるような工夫を教師が考えていく必要性を感じた。今後の課題としたい。

中級1 会話

2019年度 S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 08:30 - 10:15 金曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 初級文法を復習しながら、日常生活場面での会話運用能力を向上させる。授業内外で積極的に会話実践を行う。
対象	: 初級4、インテンシブIIコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当。
テキスト	: 『会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動20% 中間試験20% 期末試験20% その他40% (課題20%、スピーチ10%、クイズ10%) ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-923-1、学部FEN-JL4o20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 片岡 さゆり KATAOKA Sayuri nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション、レベルチェック、自己紹介
2	4/ 12	金	【休講】 (入学式)
3	4/ 19	金	L3
4	4/ 26	金	L4 クイズL3 課題1
5	5/ 3	金	【休講】 (祝日)
6	5/ 10	金	L8 クイズL4 課題1提出
7	5/ 17	金	L9 クイズL8
8	5/ 24	金	L11 クイズL9 課題2
9	5/ 31	金	中間試験
10	6/ 7	金	L12 クイズL11 中間試験F.B 課題2提出
11	6/ 14	金	L13 クイズL12 課題3
12	6/ 21	金	L15 クイズL13 課題3提出
13	6/ 28	金	L17 クイズL15
14	7/ 5	金	L21 クイズL17 課題4
15	7/ 12	金	期末試験準備 クイズL21 課題4提出
16	7/ 19	金	【休講】 (補講日)
17	7/ 26	金	期末試験

中級 1 会話

報告者：片岡さゆり

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用し、主にロールプレイによる会話練習を中心として授業を行った。初級レベルで学習した文型・表現を基礎とし、社会文化的背景を踏まえて日常生活場面でのやりとりができるように実践的な練習を行った。

【授業の内容】

主教材より「先生を飲み会に誘う」、「手伝いを申し出る」、「電話でアルバイトに応募する」など 10 課を選び、授業で扱った。各課の基本的な会話表現および語彙の定着を図るためクイズを行った。また「私の好きなもの、好きなこと」というテーマで 3 分程度のショートスピーチを行い、発表および質疑応答の基本形式を身に付けるとともに、学生同士の理解を深める機会とした。さらに課題（計 4 回）では、実際に遭遇する場面を具体的に設定し、各自オリジナルのスクリプトを作成した。

会話表現の習得に際しては、なぜそのような言い方が好まれるのか、状況や相手との関係によってどのような使い分けがあるのかを考え、イントネーションや非言語行動にも注意を向ける時間を持った。ボランティア学生から経験談を聞き、アドバイスを受ける活動は非常に有効であった。

2. その他

中間試験は学生同士のペアによるロールプレイを課した。ロールカードを用意し、その場で引き当てた 2 場面の状況を理解し、適切なやり取りができるかどうかを評価した。

一方、期末試験では、小グループ（3・5 名）で既習の会話表現を応用したスキットを作成し、発表することを課した。本年度は、予定調和に止まらず状況変化への対応力を見るため、会話の途中で教師が特定のロールで参入する試みを行った。スキット作成プロセスでのグループディスカッションにおいては、ボランティア学生に意見を求めるなど積極的に取り組んでいた。

3. まとめ・今後の課題

クイズ、ショートスピーチ、初級文法の確認などを行うため、クラスでは応用練習に十分な時間が取れないこともあったが、補完として課題への取り組みが挙げられる。課題のスクリプトをピアワークで仕上げるなどクラス活動につなげていきたい。

中級1 専門読解

2019年度 S1S2

- レベル : 中級 I
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2019/ 04/ 10 - 2019/ 07/ 24
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 88L教室
- 学習目標 : 科学技術分野の日本語の読解力向上と、専門的な語彙の習得を目指す。授業では科学の話題を素材にした文章を読み、内容を理解する。また、漢字学習も促進する。
- 対象 : 初級4、インテンシブ初級IIコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
- テキスト : 『科学技術の日本語』（スリーエーネットワーク）
- 評価 : 教室活動20% 中間試験20% 期末試験20% 漢字クイズ30% 発表10%
 ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1.単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-924-1、学部 FEN-JL4o30L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 中村 亜美 NAKAMURA Ami
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、第2課 日本科学技術未来館ホームページを見る
2	4/ 17	水	第2課 日本科学技術未来館ホームページを見る
3	4/ 24	水	第3課 ワードプロソフトで日本語文書を作成する、漢字クイズ L2
4	5/ 1	水	祝日
5	5/ 8	水	第4課 気温の変化、漢字クイズ L3
6	5/ 15	水	第5課 新幹線、漢字クイズ L4
7	5/ 22	水	第5課 新幹線、漢字クイズ L5
8	5/ 29	水	中間試験
9	6/ 5	水	第6課 ロボット
10	6/ 12	水	第7課 音声情報工学、漢字クイズ L6
11	6/ 19	水	第8課 新エネルギー、漢字クイズ L7
12	6/ 26	水	第9課 地球温暖化、漢字クイズ L8
13	7/ 3	水	第9課 地球温暖化
14	7/ 10	水	復習、発表、漢字クイズ L9
15	7/ 17	水	休講【月曜授業】
16	7/ 24	水	期末試験

中級 1 専門読解

報告者：中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

科学技術分野の日本語の読解力向上と専門的な語彙、漢字（読み）の習得を目標とし、『初級文型で学ぶ科学技術の日本語』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。1 課を 1 回もしくは 2 回の授業で学習した。授業の主な流れは、漢字クイズ（前回の授業の課のもの）、各課のテーマについての簡単なディスカッション、新出語彙確認、文型・表現練習、本文精読、内容確認の順で、本文精読と文型・表現練習は、難易度によって順序を変えることもあった。

【授業の内容】

教科書に沿い「新幹線」「ロボット」「音声情報工学」「地球温暖化」などのテーマについての読解に取り組んだ。新出語彙は、初級の教科書では見られない専門的な用語も多いため時間をかけ学習してから、本文を読み、読解問題を解いた。本文の読解は、各課によって個人で読んだり、ペアまたはグループで読むなどした。また、内容に関連する動画を見たり、テーマと専門分野が近い学習者に内容について補足してもらったりした。

2. その他

学期末の課題として、「専門用語」または「研究テーマ」についての発表を行った。専門用語では「半導体」「重力波」「素数」、研究テーマでは「人工知能」「ゲーム理論」などについて PPT で 3～5 ページの発表で、授業で学習した表現などを使い、わかりやすく説明できる学習者がいる一方、自分の研究について日本語で説明するのに苦戦している学習者もいた。質疑応答では専門分野以外の発表に対しても、積極的に質問する学生が多かった。

3. まとめ・今後の課題

科学技術についての読解教材で、テーマによって学習者の興味や関心に差が見られた。「新幹線」「ロボット」「新エネルギー」などについては自発的な発言も多く、質問も多岐に渡った。初級文型は、定着していなかったり、似ている表現との違いがわからないものもあり、授業で予想以上に時間がかかってしまうこともあった。特に、接続詞や複合辞などは、数も多く混乱が見られたので練習問題を増やし定着をはかりたい。本文の読解については、学習者同士で意味を確認し合ったり、各国の現状について説明したりして理解を深めていた。10 年以上前に作られた教科書で、情報が古いものもあり内容を補足しなければならぬものも多いため、新たな教材に切り替える時期かもしれない。初級文型を復習しつつ、時代に沿った科学技術に関する内容を学べる教材が必要とされている。

中級 1 文章

2019年度 S1S2

レベル	: 中級1 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88L教室
学習目標	: 趣味、旅行など、身近なトピックに沿った文章を書くことにより、中級前半レベルでの書く技術を養成する。また、それに必要な漢字学習を行う。
対象	: 初級4、インテンシブ初級II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当
テキスト	: みんなの日本語 初級第2版 やさしい作文（スリーエーネットワーク）
評価	: 教室活動20%、中間試験20%、期末試験20%、その他40%（クイズ、課題、発表など） ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-925-1、学部FEN-JL4o40L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	レベルチェックテスト、オリエンテーション、Unit1 自己紹介
2	4/ 12	金	休講
3	4/ 19	金	Unit3私の国/町&5週末
4	4/ 26	金	Unit7プレゼント&8旅行、漢字クイズ3&5
5	5/ 3	金	祝日
6	5/ 10	金	Unit9もし私が二人いたら&10趣味、漢字クイズ7&8
7	5/ 17	金	Unit11楽しい一日&12日本でびっくりしたこと、漢字クイズ9&10
8	5/ 24	金	Unit13私の夢&14隣の人に一言、漢字クイズ11&12
9	5/ 31	金	中間試験
10	6/ 7	金	Unit15手紙、漢字クイズ13&14、中間試験フィードバック
11	6/ 14	金	Unit16国との比較①悪い点ごみ、漢字クイズ15
12	6/ 21	金	Unit17国との比較②いい点交通、漢字クイズ16
13	6/ 28	金	Unit18スマートフォン必要？不必要？、漢字クイズ17
14	7/ 5	金	Unit19私の周りの最近のニュース、漢字クイズ18
15	7/ 12	金	Unit20私の国の有名な人、漢字クイズ19
16	7/ 19	金	休講（補講期間のため）
17	7/ 26	金	期末試験

中級 1 文章

報告者：猪狩美保

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『みんなの日本語初級 第2版 やさしい作文』（スリーエーネットワーク）に沿って授業を進めた。前半は1コマで2課、後半は1コマで1課を扱い、毎回あるテーマに沿った文章を書くことにより、中級レベルの書く力を身につけることを目指した。授業では作文の構成や必要な表現について学習した後、課題を提出し、それに対してフィードバックを行った。またテキスト各課の語彙や漢字についても学習し、毎回クイズを実施することで、文章を書く際に必要な語彙や漢字を学べるよう進めた。

【授業の内容】

毎回の授業では、漢字クイズ、語彙・漢字の学習、作文のポイントや文型・表現の練習、トピックについての話し合い、課題の作成という流れで進めた。作文のポイントおよび文型・表現の練習では、学生のレベルに応じて初級レベルの応用から中級レベルの表現までを扱い、作文の構成についても学習した。各課のテーマは趣味や旅行など身近なものから、自分の国と日本の比較や、あるものについて必要か不必要か自分の意見をまとめる練習などさまざま、授業では課題に取り組みやすいよう、各テーマについてできるだけ意見を交換し話し合う時間を取った。作文は宿題となる場合が多かったが、学生がまとめた課題については個別にフィードバックを行った。

2. その他

「手紙」というテーマで手紙の書き方や手紙特有の表現を学習する課があったため、そこから発展させ、簡単にメールの書き方も扱った。ゼミの先生や友人に宛てたメールの例を提示し、実際にメールを書く練習を行った。

3. まとめ・今後の課題

毎回作文を提出するという負担の大きいコースではあったが、出席した学生は真面目に取り組んでいた。クラスで意見交換したことを反映させ、じっくり自分の意見や内容をまとめた作文も多く、お互いに刺激を受けながら学習している様子が見られた。一方で、研究活動が忙しくなってくると、多忙な学生にとっては毎回の漢字クイズや作文の課題が負担になっているのではないかと考えさせられた。今後の課題として、学生にとって日本語学習を継続しやすいような授業方法や課題についても考えていきたい。

中級2 総合

2019年度 S1S2

レベル	: 中級2 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、一般的な事柄を取り上げ、中級前半レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく習得できる活動を行う。
対象	: 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当
テキスト	: 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期 第2版』 (スリーエーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙です。
評価	: 教室活動10% 授業参加度10% クイズ20% 課題20% 中間試験20% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-931-1、学部FEN-JL4p01L1。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション、レベルチェッククイズ
2	4/ 16	火	L2
3	4/ 23	火	L2
4	4/ 30	火	祝日
5	5/ 7	火	L3、クイズ(L2)、課題①提出
6	5/ 14	火	L3、L4
7	5/ 21	火	L4、クイズ(L3)、課題②提出
8	5/ 28	火	中間試験 (L2,3,4)
9	6/ 4	火	【休講】中休み
10	6/ 11	火	L6、中間試験フィードバック
11	6/ 18	火	L6
12	6/ 25	火	L7、クイズ(L6)、課題③提出
13	7/ 2	火	L7
14	7/ 9	火	L8、クイズ(L7)、課題④提出

15	7/ 16	火	L8
16	7/ 23	火	学期末試験 (L6,7,8)

中級 2 総合

報告者： Aクラス 内田あゆみ・Bクラス 宮瀬真理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースでは、『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 (第2版)』(スリーエーネットワーク)を使用して授業を行った。授業はテキストに沿って、1) 課で扱うテーマについてのディスカッションや各国毎の情報のシェア 2) ことばの練習 3) CDで聴解後、内容の大意取り 4) 新出文型・表現の学習 5) 本文の読解 6) ディスカッション 7) 聴解・ディクテーション という流れで行った。新出文型・表現と漢字・語彙は各課が終わるごとにクイズを実施して定着を図った。また、作文も各課が終わるごとに宿題として課した。

1-2. 授業の内容

スケジュールの都合上、授業では教科書の全8課のうち、2課、3課、4課、6課、7課、8課の6つの課を扱い、1課を2回の授業に分けて進んだ。授業では中級前半レベルの文型・語彙を学習しながら、四技能の総合的な力を伸ばすことを目指した。進出文型・表現については、文法練習のみにとどまらないよう、各課のテーマに関連付けて、自らの経験や自国について、また自国と日本との違いなどをペアやグループで話す時間を設け、産出能力を高めることを心がけた。学習者同士の相互理解、日本理解も考慮し、進めた。

2. その他 (特記事項)

課末の作文課題のテーマは、教科書の本文の内容に合わせ、段落を意識しながら一貫性のある文章を書くように指導した。また、各課終了後に実施したクイズでは、新出文型を用いた短文作文、漢字・語彙の意味と読みの確認を通して定着を図った。

3. まとめ・今後の課題

学習項目の練習のための例文作りや会話作り、テーマについての話し合いでは、学習者同士が日本語でやりとりし、和気あいあいとした雰囲気でクラスを進めることができた。

宿題とした作文課題についても、書くことへの抵抗が少なくなり、能力が大きく伸びたと思われる学生も多かったが、研究やゼミ等で忙しい学生にとっては負担も大きかったと思われる。時には授業内で書く時間を設ける等、書く能力のための活動を増やしていくことも必要だと思われる。

中級レベルでは、既習表現と似た文型・表現や微妙な機能・ニュアンスの違いがあるものが多くあり、戸惑う学生もいた。今後もできるだけ理解しやすい授業運営を考えていきたい。

中級2 聴解

2019年度 S1S2

レベル	: 中級 II
スキル	: 聴解
開講期間	: 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 324B教室
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う
対象	: 中級I聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPTN3相当
テキスト	: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』（スリーエーネットワーク)
評価	: 教室活動20%, クイズ30%, 課題10%, 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたもののについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-932-1, 学部 FEN-JL4p10L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、L2 信号の話
2	4/ 18	木	L1 富士山
3	4/ 25	木	L3 隠れキリシタン、L1クイズ、課題①L5
4	5/ 2	木	祝日
5	5/ 9	木	L4 水族館、L3クイズ
6	5/ 16	木	L6 東京の温泉、L4クイズ
7	5/ 23	木	L7 失敗学、L6クイズ
8	5/ 30	木	中間試験
9	6/ 6	木	L8 札幌のお祭り、L10クイズ、課題②L10
10	6/ 13	木	L9 津軽三味線、L8クイズ
11	6/ 20	木	L11 アクセント、L9クイズ
12	6/ 27	木	L12 からくり人形、L11クイズ、課題③L15
13	7/ 4	木	L13 四つ葉のクローバー、L12クイズ
14	7/ 11	木	L14 長寿の理由、L13クイズ
15	7/ 18	木	休講【補講期間のため】
16	7/ 25	木	期末試験

中級2 聴解

報告者：中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中級）』（スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。大学で学ぶために必要な「講義や口頭発表を聞く力」を養成するためのテキストで、各課に内容の聞き取り、スクリプトの構成を把握するための練習問題、要約を書く練習などがある。授業の主な流れは、テーマに関する内容についてグループディスカッション、新出語彙の学習、聞き取りに必要な表現の確認、本文の聞き取り、正誤問題、内容確認で、学期の後半は内容の要約作成も行った。また、授業の始めに前回の授業で学習した語彙と文章のディクテーションを行った。

【授業の内容】

授業で扱った内容は、教科書の「富士山」「水族館」「失敗学」「アクセント」「からくり人形」などで、15課のうち12課を授業で学習した。講義や口頭発表に関する聞き取り練習がメインで、PPTを見ながら聞き取りを行う課もあった。また、必要に応じて、関連動画を見たり、テーマに関して各国の事情についてグループディスカッションや発表などの活動も行った。正誤問題や内容確認では、全体での答え合わせの前に、学習者同士で聞き取れたことを話し合い、要点が聞き取れているか確認し合うようにした。また、単語で答えるのではなく適切な形で答える練習や聞き取ったことを口頭で伝える練習も随時行った。

2. その他

授業で扱えなかった5課、10課、15課は課題として課した。課題のために、何回CDを聞いたか確認したところ、2回～10回と学習者によって差が見られた。15課のみ、要約も課題としたが、要点をおさえたものが書ける学習者とそうではない学習者がおり、要約についてはさらに練習が必要であると感じた。

3. まとめ・今後の課題

中間試験までは20名近い受講者がおり、その国籍も様々であったため、各国の言語、楽器、伝統芸能などについてのディスカッションでは、積極的に話し合いに参加し多くの知識を吸収する姿が見られた。また、意味の似ている語彙の使い方の違いなどについての質問も多く活気のあるクラスだった。ただ、理解度を確認するため、書く作業に時間を取ることもあり、授業アンケートではクイズなどの表記に対する減点について不満も見られた。少人数だが教科書の解答を見たり、指示を出す前にスクリプトを見ながら音声を聞く学習者もいた。聞き取りのポイントを明確にし、それに応じた採点基準を設けること、また聞き取りの弱い学習者に必要な練習やサポート方法についての検討を、今後の課題としたい。

中級2 会話

2019年度 S1S2

- レベル : 中級2 レベル
- スキル : 会話
- 開講期間 : 2019/ 04/ 10 - 2019/ 07/ 24
- 時間 : 08:30 - 10:15 水曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M
- 学習目標 : 大学や日常生活における様々な会話において対応可能な中級の運用能力（聞く・話す）を身につけることを目指す。授業では主にロールプレイ練習を中心に、自然な日本語を使ったコミュニケーション能力を養う活動を行う。
- 対象 : 中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当
- テキスト : 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）
- 評価 : 教室活動5%, 授業参加度20%, 中間試験30%, 期末試験30%, 課題15%
 ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験
 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
 ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。
 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2 認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-933-1)、学部(FEN-JL4p20L1),
 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 米谷 章子 KOMETANI Akiko
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、L1、レベルチェック
2	4/ 17	水	L2
3	4/ 24	水	L2-3
4	5/ 1	水	祝日(天皇の即位の日)
5	5/ 8	水	L3
6	5/ 15	水	L4
7	5/ 22	水	L4
8	5/ 29	水	中間口頭試験（ロールプレイ発表L1-4）
9	6/ 5	水	L5
10	6/ 12	水	L5、
11	6/ 19	水	L6、
12	6/ 26	水	L6
13	7/ 3	水	L7
14	7/ 10	水	L7
15	7/ 17	水	休講(月曜授業日)
16	7/ 24	水	期末口頭試験（ロールプレイ発表L5-7）

中級 2 会話

報告者：米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本授業は教科書『【新版】 ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）から、受講者が実際に遭遇するであろう場面のロールプレイを取捨選択し、1 コマ（105 分）で3～4つのロールプレイを扱った。タスク先行型を取り入れ、まずはロールプレイに取り組み、その会話に必要なとされる表現・文型・語彙などを導入し、練習した。具体的には、1）ロールプレイのトピックのウォーミングアップ及び動機づけ、2）ロールプレイの導入、3）ペア練習、4）発表及び表現・文型・語彙の導入、5）復習（CD を聞いて解答のディクテーション）、6）練習問題の順に進めた。

【授業の内容】

授業で扱った内容は、「友だちとキャンプ」、「アパートの隣人に苦情」、「ゼミ旅行とアルバイト」、「友だちの悩み：国際結婚」、「たばこ健康」など、受講者がやってみたいと思えるロールプレイを取り上げた。主に、ペア練習後は1～2組の発表をした。その後、学内の学生ボランティアが受講者と即興でロールプレイを披露し、母語話者の日本語を聞き取る時間も設けた。また、日本語独特のあいづちやフィラーなどの使い方も指導するとともに、誤用の多い文末のイントネーションや終助詞などにも注意を促し、より自然な日本語の習得を目指した。

2. その他

1 課から4 課までを中間試験、5 課から7 課までを期末試験の範囲とし、1 週間前にペアをランダムで決め、当日はその場で引き当てたロールプレイを2～3 つ実施し評価した。また期末試験ではこのロールプレイに、「共通の友人」、または「日本語の先生」が後半部分に参加し、即興で適宜対応する応用会話力も評した。定期試験以外に、学期を通して4 つの課題を割り当て、教科書のロールプレイの会話の作成や、映画や料理をトピックにした音声録音を課した。

3. まとめ・今後の課題

学期開始から20 名が受講し、約15 名が継続的に出席していた。受講者が多かったにもかかわらず、ペア練習などでは、ボランティアの学生が的確にサポートして下さった。また、ジェスチャーや表情など、非言語コミュニケーション技能の指導時間をあまり設けることができなかったのも、今後はこれについても取り組みたい。

受講者は皆、積極的に活動に取り組み、学生ボランティアとも教室内外問わず交流が活発であり、明るく楽しい学習環境の中で授業が進められたことは大きな成果であった。

中級2 読解

2019年度 S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: 読解
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 123号室
学習目標	: 多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。
対象	: 中級1 読解の修了者、日本語を300時間程度勉強した人、又はJLPT N3相当。
テキスト	: 『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』（凡人社）
評価	: 教室活動20% クイズ25% 課題15% 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-934-1、学部 FEN-JL4p30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: ハワード 文江 HOWARD Fumie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	復習テスト、オリエンテーション、単語、多読
2	4/ 12	金	休講（入学式）
3	4/ 19	金	L1語のまとまりをとらえましょう p.2、漢字クイズ①,多読
4	4/ 26	金	L1語のまとまりをとらえましょう p.2, L2p.8,多読
5	5/ 3	金	祝日
6	5/ 10	金	L2「する・される」の関係をつかみましょう p.8, L3 「文の構造をとらえましょう」 p.21、漢字クイズ②,多読
7	5/ 17	金	L3「文の構造をとらえましょう」 p.21, L4 「前件と後件の関係をつかみましょう」 p.24、漢字クイズ③,多読
8	5/ 24	金	L4「前件と後件の関係をつかみましょう」 p.24, p.29-31、漢字クイズ④,多読
9	5/ 31	金	中間試験
10	6/ 7	金	L6「省略されているものが何か考えましょう」 p.44, 多読
11	6/ 14	金	L6「省略されているものが何か考えましょう」 p.49 漢字クイズ⑤
12	6/ 21	金	L7「関連のある言葉を探しましょう」 p.52 漢字クイズ⑥
13	6/ 28	金	L7「関連のある言葉を探しましょう」 p.52
14	7/ 5	金	L8「文末に注目して筆者の意見を見抜きましょう」 p.67, 漢字クイズ⑦
15	7/ 12	金	多読のビブリオバトル
16	7/ 19	金	休講（補講）

17	7/ 26	金	期末試験
----	-------	---	------

中級 2 読解

報告者：ハワード文江

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする 15 のポイント）』（凡人社）を使用し、読解ストラテジーを学習しながら様々なジャンルの文章を読み、より高度な読解力を身に付ける事を目標に授業を行った。主に、1) 新出・重要語彙確認、2) 漢字クイズ、3) トピックの導入及び自由会話、4) 読解ストラテジーの練習問題、5) 教科書の読み物を音読、6) 全体で精読・内容確認、7) トピックについてのディスカッションの順で行った。又時間の許す限り『レベル別日本語多読ライブラリーにほんごよむよむ文庫』（アスク出版）を使用し、多読授業を行った。

【授業の内容】

授業では「語のまとまりをとらえる」「する／されるの関係をつかむ」「前件と後件の関係をつかむ」「省略されているものが何か考える」など、課のテーマに沿った読解ストラテジーの習得を目標に練習問題を行い、読み物に対する理解を深めた。読み物のテーマは「日本で困ったこと」「一人で外食すること」「大食い番組の是非」「暗記の方法」など、現代の日本社会における問題についての読み物が多く、受講者は大変興味を持ち、ディスカッションでは活発な意見交換が行われた。

2. その他

上述のように、教科書の読解以外に多読を実践した。多読の 4 大ルール、「簡単なものから」「辞書を引かない」「わからなくなったら飛ばす」「進まなくなったら他の本を読む」、を説明し、これらのルールを守るように指導した。最終日にはビブリオバトル実施後にチャンプ本を選出し、読むだけではなく本の内容を活用し、クラスメートと発展練習ができるように工夫した。

3. まとめ・今後の課題

教科書の練習問題や読み物は、語彙も文法も難しいと感じる受講者がいた一方、多読時間で個人のレベルにあった読書時間を設けることにより、満足感を高められた。教室の蔵書のみならず、各自が興味を持った本を持ち寄り、多読の輪が広がって行き、日本語での読書の楽しみを感じることが出来ているようであった。今後も、それぞれの研究等で多忙ながらも、授業外で読書の動機付けを促せるよう、受講者のニーズに適した本を選ぶこと、図書リストを作ることを心掛けたい。

中級2 文章

2019年度 S1S2

レベル	: 中級2 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2019/ 04/ 08 - 2019/ 07/ 22
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。
対象	: 中級1<文章>の修了者、日本語を300時間程度勉強した人、又はJLPT N3相当。
テキスト	: 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語2 作文編』(アルク)
評価	: 教室活動20% 中間試験20% 期末試験20% 提出物40% ・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2)学期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-935-1、学部FEN-JL4p40L1。2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 臼井 直也 USUI Naoya nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション, レベルチェッククイズ, L1 作文の基本
2	4/ 15	月	L2 書き言葉
3	4/ 22	月	L2 フィードバック (FB)
4	4/ 29	月	祝日
5	5/ 6	月	祝日
6	5/ 13	月	L3 段落
7	5/ 20	月	L3 FB
8	5/ 27	月	L4 「は」と「が」
9	6/ 3	月	中間試験 L4 FB
10	6/ 10	月	L5 テーマを述べる
11	6/ 17	月	L5 FB
12	6/ 24	月	L6 理由・経過を述べる
13	7/ 1	月	L6 FB
14	7/ 8	月	L7 定義をする
15	7/ 15	月	祝日
16	7/ 17	水	【月曜授業】 L7 FB
17	7/ 22	月	期末試験

中級 2 文章

報告者：臼井直也

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語②作文編』（アルク）を使用し 1 課を 1 つの授業で進めるシラバスを組んだ。これまでの年度と同様、授業はテキストを扱う週と、前週に書いた作文をピア活動で直し、清書を行う週とに分け、交互に行った。加えて、後者の週では生活に必要な書類などの書き方を『日本で生活する外国人のためのいろんな書類の書き方』（アスク）を使った活動を行ったほか、大学で必要な基礎的なメールの書き方を扱った。

1-2. 授業の内容

中級 2 レベルでは、「だ・である体」の習得、話し言葉と書き言葉の違いの理解、中級 3 クラスでの「研究計画書を書く」準備段階として、自分の研究について客観的に説明することを目標とした。また、研究室の先生にメールを送れるようになることももう一つの目標である。

授業ではまず上記テキストを用い、練習問題、短作文などで練習を行った。その後、各課にある作文を 400 字程度で書かせた。作文の FB は間違えた箇所にチェックだけ入れたものを翌週受講生に返却し、二人でお互いの作文を直す活動を行った。作業後に教師がチェックを行い、各自が清書を行うという流れである。

また、隔週で、日本で生活する上で必要な書類の書き方を扱ったが、「荷物の送り状」、「問診票」「住民票の写しの請求書」「履歴書」などのトピックを選定した。

2. その他（特記事項）

試験はテキストに準拠した形で行った。中間試験では授業目標である「だ・である体」に書き換える問題、話し言葉を書き言葉に直す問題の他に各課の文法問題とメールを書く問題、期末試験は各課の文法問題に加え、クラスの最終到達点である、自分の研究について目的、社会に与える影響などを 400 字程度で説明する作文問題を与えた。

3. まとめ・今後の課題

これまで「中級 2 文章」は漢字圏の受講生が 8,9 割を占めることが多かったが、欧米や東南アジアの受講生が増えたことで漢字圏と非漢字圏が 6:4 程度のバランスになり、グループ活動などが活発になった。今後も多様な受講生が参加してくれることを望みたい。

今後の課題であるが、これまで同様初回の授業で受講生のレベルを的確に把握したい。特に日本語レベルが高すぎる受講生が残ってしまう傾向にあるので注意していきたい。

中級2 専門語彙・漢字

2019年度 S1S2

レベル	: 中級2
スキル	: その他
開講期間	: 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 324B教室
学習目標	: 日本の生活に必要な語彙、研究生活全般で使用するアカデミックな語彙に加え工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2-3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。
対象	: 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動20%、課題15%、クイズ25%、中間試験20%、学期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1.単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-936-2、学部 FEN-JL4p55L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 中村 亜美 NAKAMURA Ami nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 18	木	第1課: 漢字1-5 短文作成
3	4/ 25	木	第2課: 漢字6-10 短文作成 1課漢字クイズ 課題①
4	5/ 2	木	祝日
5	5/ 9	木	第3課: 漢字11-15 短文作成 2課漢字クイズ
6	5/ 16	木	第4課: 漢字16-20 短文作成 3課漢字クイズ
7	5/ 23	木	第5課: 漢字21-25 短文作成 4課漢字クイズ 課題②
8	5/ 30	木	中間試験 (L.1-L.5) 第6課: 漢字26-30
9	6/ 6	木	第7課: 漢字31-35 短文作成 6課漢字クイズ
10	6/ 13	木	第8課: 漢字36-40 短文作成 7課漢字クイズ
11	6/ 20	木	発表
12	6/ 27	木	第9課: 漢字41-45 短文作成 8課漢字クイズ
13	7/ 4	木	第10課: 漢字46-50 短文作成 9課漢字クイズ
14	7/ 11	木	第11課: 漢字51-55 短文作成 10課漢字クイズ 課題③
15	7/ 18	木	休講 補講期間のため
16	7/ 25	木	学期末試験 (L.6-L.12)

中級2 専門語彙・漢字

報告者：中村亜美

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは「理工学系話し言葉コーパス」の研究を応用実践したコースの一つである。日本語能力試験の旧3, 4級レベルの単漢字をベースにし、日常生活で使われる語彙、研究室で話されているアカデミックな語彙や工学系分野に特有な語彙も学習する。

教材は、前任者作成の自主教材で「理工学系話し言葉コーパス」のためのデータ収集に協力をお願いした7つの専攻「化学システム工学」「建築学」「社会基盤学」「情報理工・電子情報学」「電気系工学」「都市環境工学」「都市計画」のデータをもとに、各分野に共通する頻出語彙を中心に旧3級漢字を60字程度選んだものである。

【授業の内容】

1コマの授業で5つの単漢字を導入し、音読み、訓読み、熟語などを学習してから、各語彙を用いた例文を紹介した。さらに、当該漢字を含む2級以上や級外の語彙も必要に応じて導入し、共起することばやゼミで使う表現なども学習した。その後、学習者は習った語彙、あるいは辞書などで新たに調べた語彙を使って用例を作成し、他の学習者と共有した。用例作成では、使われる場面を意識することや発話者にバラエティーを持たせることなども重視した。また、授業のはじめに、前回学習した漢字のクイズを行った。

2. その他

課題として、「私の専門」「私の趣味」「〇〇〇で知った漢字（例：病院、ポスターなど）」の3つのテーマから1つを選び、教室外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現などについての発表を行った。今学期は「私の専門」に関する発表が多く、研究に関する語彙やその使い方、内容などについて活発な質疑応答が行われた。

3. まとめ・今後の課題

漢字圏と非漢字圏の学習者が混在し、日本語のレベルにも差のある学習者のいるクラスで、扱う語彙や例文の選択が難しかったが、学習者同士で説明し合ったり、意欲的に用例作りに取り組むクラスメートから刺激を受け、お互いの作る用例から学び合う姿も見られた。過去の受講者の要望を受け、今学期から授業外での漢字学習をサポートするため、課ごとの復習シートを作成し、解答を付け配布した。

このクラスの受講者の傾向として、漢字学習に対して前向きでクイズや試験で高得点を取る学習者が多いことが挙げられる。予習も必要なため、漢字が苦手な学習者はこのクラスを受講していない可能性もある。初中級レベルで漢字学習のサポートが必要な学習者のためのクラスも必要とされているかもしれない。

中級3 総合

2019年度 S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
時間	: 08:30 - 10:15 木曜日
場所	: 工学部8号館 88L教室
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で適切に対応できる日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、抽象的なテーマを取り上げ、中級後半レベルの文型・語彙を用いながら、情報を正しく理解し、適切に表現する力を習得するための活動を行う。
対象	: 中級2総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
テキスト	: 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現82 中級中期』 (スリーエーネットワーク) ※テキストは水色の表紙です。
評価	: 教室活動10% 参加度10% 中間試験20% 期末試験20% クイズ20% 課題20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-941-1、学部 FEN-JL4q01L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者へのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 宮瀬 真理 MIYASE Mari nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェックテスト 第1課①
2	4/ 18	木	第1課② クイズ(L1) 課題1【締切4月25日】
3	4/ 25	木	第2課①
4	5/ 2	木	休講(祝日)
5	5/ 9	木	第2課② クイズ(L2) 課題2【締切5月16日】
6	5/ 16	木	第3課①
7	5/ 23	木	第3課② クイズ(L3) 課題3【締切5月30日】
8	5/ 30	木	中間試験
9	6/ 6	木	第4課①
10	6/ 13	木	第4課② クイズ(L4) 課題4【締切6月20日】
11	6/ 20	木	第5課①
12	6/ 27	木	第5課② クイズ(L5) 課題5【締切7月4日】
13	7/ 4	木	第6課①
14	7/ 11	木	第6課② クイズ(L6) 課題6【締切7月25日】
15	7/ 18	木	休講(補講期間のため)
16	7/ 25	木	学期末試験

中級3 総合

報告者： 宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

本コースでは、テキスト『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』（スリーエーネットワーク）を使用した。授業はテキストに沿って、1) 扉のページのイラストや写真を見たり、簡単なクイズに答えたりして、課で扱う話題について学習者の持っている情報を意識化し、その後ペアやグループでディスカッション 2) 語彙・キーワードの確認 3) 本文のCDを聞き、内容の大意取り 4) 進出文法（文型・表現）学習。学習項目の練習 5) 本文の読解、内容の確認。6) 本文の聴解練習、ディクテーション 7) 作文課題の導入 という流れで行った。漢字の読みと意味は語彙リスト（WEBサイトからダウンロード）から事前に自習してもらい、課の2回目に確認クイズを行った。学習した文型・表現項目は、各課が終わるごとに課題を出して定着を図った。また授業内でなかなか時間的に扱うことが難しい作文も、授業内で導入した後、各自取り組む作文課題として課し、読む・聞く・話す・書く の四技能を総合的に学べるように心がけた。

1-2. 授業の内容

1つの課を2回に分けて進み、全10課中1課から6課までの6つの課を扱った。テキストの各課の話題は「色」「ユーモア・ジョーク」「制服」「算数」「遊びと運動」「お金」で、各課の話題について、ペアやグループで話す時間を十分設け、また話した内容を書く課題を通して、文法の学習のみに留まらないよう、産出能力を高めることを心がけた。各トピックについて、自国の情報を伝えたり、自国と日本の違いなどについて考え、意見を述べたりする活動も行った。

2. その他（特記事項）

総合のクラスであり、授業内容も四技能を伸ばすことを目指していることから、定期試験に聴解問題も含めた。

3. まとめ・今後の課題

トピックについての情報共有や、学習項目を使った例文作りでは、和気あいあいとした雰囲気クラスを進めることができ、学習者同士の相互理解も深まった。一方、漢字学習と作文課題は各自の予習・家庭学習に委ねてしまっていたため、特に漢字については非漢字圏の学生には負担が大きかったと思われる。作文課題については、書く能力に個人差が大きく、総合のコース内で指導できる時間は限られているため、限定的な指導しかできず課題が残った。バランスよく四技能を伸ばし、コミュニケーションを楽しめるクラスにするためのよりよい方法を考えていきたい。

中級3 聴解

2019年度 S1S2

レベル	: 中級Ⅲ
スキル	: 聴解
開講期間	: 2019/ 04/ 10 - 2019/ 07/ 24
時間	: 10:25 - 12:10 水曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。
対象	: 中級Ⅱ<聴解>コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
テキスト	: 留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）スリーエーネットワーク
評価	: 教室活動5%, 参加度15%, クイズ30%, 課題10%, 中間試験20%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード：大学院(3799-942-1)、学部(FEN-JL4q10L1)。 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、L1掃除、レベルテスト
2	4/ 17	水	L2本屋
3	4/ 24	水	L3新幹線のおでこ, L2クイズ
4	5/ 1	水	休講(天皇の即位の日)
5	5/ 8	水	L4体験プレゼント, L3クイズ, 課題①L5 そば屋ののれん
6	5/ 15	水	L6犬の肥満, L4クイズ
7	5/ 22	水	L7卵かけご飯, L6クイズ
8	5/ 29	水	中間試験
9	6/ 5	水	L8女性専用車両, 課題②L9剣道
10	6/ 12	水	L10落語, L8クイズ
11	6/ 19	水	L11そばをすする音, L10クイズ
12	6/ 26	水	L12将棋, L11クイズ, 課題③L15虚偽の自白
13	7/ 3	水	L13南極, L12クイズ
14	7/ 10	水	L14明治神宮の森, L13クイズ,

15	7/ 17	水	休講(月曜授業日)
16	7/ 24	水	期末試験

中級3 聴解

報告者：米谷章子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解(中上級)』(スリーエーネットワーク)を使用し、教科書に沿い、1課を1コマ(105分)で扱った。1)クイズ、2)課の内容を予想させるような小さな話し合い、3)語彙や表現の確認、4)全体の聞き取りと確認、5)質問に対する答えの確認、6)整理ノートや構成表の内容や書き方の確認、7)内容に関する話し合い、8)要約を書く練習、という流れで進めた。

【授業の内容】

授業は主にやや専門的な内容の解説やスピーチ、発表などが分かることを目指し、ペアやグループでの内容の確認や話し合いなどの様々な活動を行った。未習の単語や細かい例などにとらわれず、全体として話者が伝えたいことを捉えることを意識させた。資料を見ながら聞くなど、実際の講義や発表に近い形で練習し、実践的な聴解力を養成するだけでなく、受講者が大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を養った。

2. その他

毎回、前回の語彙を含むディクテーションクイズを行い、定期試験にも既習内容を含めた。定期試験の大部分は新規問題を採用しながらも、授業内の活動と同じ問題形式にし、習得した技能を応用できる問題を作成した。また、授業内で扱うことができなかった3課分は課題として評価に含め、教科書全て終了し、達成感が得られるように努めた。授業時間内に要約ができなかった課は宿題とし、聞くだけではなく、聞いた内容を話したり書いたりする産出活動も多く取り入れた。

3. まとめ・今後の課題

受講者は積極的に言語活動に取り組みながら、ペアワークを通して交流を深めていた。教科書の練習問題は、○×や語彙の埋め込みなど比較的簡単なものから、文章で答える質問へと難易度が上がり、語彙だけで答えたり、文末の書き方に苦戦したりしているようであった。書くことに苦手意識を持つ受講者もいたが、要約など聞いた内容をまとめて書く産出活動を今後も多く取り入れ、上級レベルへと繋げていきたい。

女性専用車両、卵かけご飯、将棋など、教科書で扱われているトピックは受講者に好評であった。自分の経験や既存の知識の共有だけに留まらず、教材から日本に関する新たな情報も取り入れ、トピックに関する活発な意見交換が行われ、日本だけではなく、受講者の多様性を生かし異文化理解が深められた。

中級3 会話

2019年度 S1S2

レベル	: 中級III
スキル	: 会話
開講期間	: 2019/ 04/ 10 - 2019/ 07/ 24
時間	: 08:30 - 10:15 水曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 日常生活のやや複雑な場面において自分の意思を伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。また、そのために必要な待遇表現を学ぶ。抽象的なテーマについての発表、ディスカッションを通して、アカデミックな場面で必要な口頭表現能力を身につける。
対象	: 中級2会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
テキスト	: 授業内でプリント配付
評価	: 教室活動20% 中間試験20% 期末試験20% 課題20%、 ショートスピーチ10%、ディスカッション10%など ・以下の条件全てを満たしたのについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-943-1、学部 FEN-JL4q20L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 藤井 明子 FUJII Akiko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 10	水	オリエンテーション、自己紹介、 ロールプレイ①「忙しい友達を誘う」
2	4/ 17	水	グループディスカッション① ショートスピーチテーマを決める ロールプレイ②「忙しい先生を誘う」 敬語であいさつ
3	4/ 24	水	グループディスカッション② ショートスピーチ準備と練習 ロールプレイ③「友だちにアドバイスする」 敬語を使って自己紹介
4	5/ 1	水	祝日
5	5/ 8	水	グループディスカッション③ ショートスピーチ準備と練習 ロールプレイ④「先生にゼミ欠席の理由を話す」
6	5/ 15	水	ショートスピーチ②、スピーチ①振り返り
7	5/ 22	水	ショートスピーチ②、スピーチ①振り返り
8	5/ 29	水	中間試験(会話試験)
9	6/ 5	水	スピーチ②振り返り、グループディスカッション④
10	6/ 12	水	ディベートのテーマを決める 話し合いの表現を学ぶ

11	6/ 19	水	ディベート①
12	6/ 26	水	ディベート②、先週のディベートの振り返り
13	7/ 3	水	期末発表準備、先週のディベートの振り返り
14	7/ 10	水	期末発表準備
15	7/ 17	水	休講【月曜授業振替のため】
16	7/ 24	水	期末発表

中級 3 会話

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

自主教材を使用し、ロールプレイ、小グループでのディスカッション、ショートスピーチ、ディベート、アカデミックなテーマでの口頭発表を行った。コース前半に行ったロールプレイでは敬語を使う場面を設定し、敬語に焦点を当てた。コース後半はディベートに焦点を当てた。ショートスピーチや口頭発表の際にはピアでのフィードバックも行い、学生同士で意見交換できる機会を設けた。

【授業の内容】

中級 3らしく、場面にふさわしい話し方、言葉や表現を選んで流暢にコミュニケーションできるようになることを目標に各課の活動を行った。初回のレベルチェックテストを受けた学生は 18 名で、この中にはまだ自然に日本語が出てこない学生もいたものの、回を進めていくうちに日本語を話すことにためらいがなくなる学生もいた。

日本人学生のボランティアに毎回入ってもらうことができたので、ピアで同年代の日本人と日本語を話す練習する機会を持つことができた。特にディベートでは準備段階でのブレインストーミングでボランティア学生がいろいろアドバイスをしてくれたので、学生たちも準備をスムーズに進めることができた。

2. その他

ショートスピーチと期末の口頭発表ではアカデミックなトピックを取り上げたほうがよいと話したところ、自分の専門の入門的な話を非常に上手にまとめて話すことができた学生がいた。内容も充実しており、これらの学生の発表は大変おもしろかった。一方、発表後の質問に関しては、積極的に質問できる学生とやや消極的な学生に分かれてしまった。

3. まとめ・今後の課題

コースを修了した 8 名の学生はみな熱心で、日本語でアカデミックな話題についても話すことができる段階に進んでいると感じた。学生たちも最後の授業ではコースを振り返って、敬語を学ぶことができ、いろいろな練習を通じて日本語を話す力が高まったと感じたとフィードバックしてくれた。

しかしながら、学期途中から欠席がちになってしまった学生の中には即興で流暢に話すことが難しい学生が多かったように思う。レベルの異なる学生が混じっていても、そのレベルに応じて日本語の練習ができ、前の週よりも授業中日本語をたくさん話すことができたと感じられるプログラムの工夫が必要だと感じた。

中級3 専門読解

2019年度 S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 読解
開講期間	: 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 130教室
学習目標	: 自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。
対象	: 中級II読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人またはJLPT N2相当
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動10% クイズ20% 課題25% 発表5% 中間試験20% 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-944-2, 学部 FEN-JL4q35L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、見直される木造住宅（建築）
2	4/ 18	木	見直される木造住宅（建築）
3	4/ 25	木	次世代社会の基幹デバイス-リチウムイオン電池-（化学システム）、漢字クイズ1
4	5/ 2	木	祝日
5	5/ 9	木	機械工学を社会に広く役立てる（機械工学）、漢字クイズ2
6	5/ 16	木	計算機で地震に挑む（社会基盤）、漢字クイズ3
7	5/ 23	木	復習、漢字クイズ4
8	5/ 30	木	中間試験
9	6/ 6	木	次世代インターネット実現へ-右手に研究、左手に運用を-（電子情報工学）
10	6/ 13	木	ロボットに意志は持てるか（情報学環）、漢字クイズ5
11	6/ 20	木	山崎宇宙飛行士インタビュー、漢字クイズ6
12	6/ 27	木	教材作成、漢字クイズ7
13	7/ 4	木	教材作成フィードバック、修正
14	7/ 11	木	発表
15	7/ 18	木	休講 （補講日）
16	7/ 25	木	期末試験

中級3 専門読解

報告者：内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的とした。授業では、漢字クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、要約作成、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、授業と同時進行で学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、読解教材を作成した。

【授業の内容】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学大学院工学系研究科日本語教室の講師、あるいは過去に本授業を受講した学生が作成したものである。様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。授業と同時進行で行った読解教材作成は、3週目から課題を出し、課題1で記事と使用箇所決め（800字）、課題2でその記事を選んだ理由と要約、課題3で内容確認問題の作成、課題4で言葉リストの作成をし、その都度フィードバックをする方式を取った。最終的には教材作成に授業2コマを使用し、教室で「表現文法」、「ことば」、「話してみよう」などの残りの部分の作成をした。

2. その他

毎回、読解教材を読み終えた後に漢字クイズを実施し、専門用語の定着をはかった。また、記事の内容に関連したウェブサイトを読む課題を自由課題として出し、読解練習をする機会を増やした。期末には授業で扱った読解教材と初見の記事を含んだ期末試験を実施した。読解教材作成は、教材完成後にグループでそれぞれの教材を発表し、問題に答えたり、話し合ったりした。

3. まとめ・今後の課題

全般に真面目で、熱心に取り組む学生が多かった。読解前後のディスカッションも毎回活発に行われていた。教材作成に関しては一つの記事を長期間に渡り読み、教材を作成していくことがその分野の理解と語彙の習得に効果的だったという声があった。一方で記事選べから問題作成まで、教室外での学習が多く、内容質問や表現文法の問題作成など教材作成ならではの難しさもあり、負担が大きかった。多忙な学生の生活と、最後まで教材作成を終えた学生の少なさを考え、教材作成の意義と内容をもう一度見直し、今後改善していきたい。

中級3 文章

2019年度 S1S2

レベル	: 中級3 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2019/ 04/ 09 - 2019/ 07/ 23
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: 工学部8号館 324B教室
学習目標	: 日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得する。必要に応じたメール文の書き方を学ぶ。
対象	: 中級II文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当
テキスト	: 大学・大学院 留学生の日本語②作文編 アルク
評価	: 教室活動10% 参加度10% 課題作文40% 中間試験20% 期末試験20%
その他	・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
担当	1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院 3799-945-1、学部 FEN-JL4q40L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション レベルチェック
2	4/ 16	火	第8課 判明していることを述べる① フォーマルなEメール1 課題1
3	4/ 23	火	第8課 判明していることを述べる② フォーマルなEメール2
4	4/ 30	火	祝日
5	5/ 7	火	第9課 問題点を述べる① フォーマルなEメール3 課題2
6	5/ 14	火	第9課 問題点を述べる②
7	5/ 21	火	第10課 引用する 課題3
8	5/ 28	火	中間試験
9	6/ 4	火	中休み
10	6/ 11	火	第11課 解決策を述べる① 課題4
11	6/ 18	火	第11課 解決策を述べる②
12	6/ 25	火	第12課 手順を述べる 課題5
13	7/ 2	火	第13課 指示詞を使う
14	7/ 9	火	第14課 研究計画書を書く① 課題6
15	7/ 16	火	第14課 研究計画書を書く②
16	7/ 23	火	期末試験

中級3 文章

報告者： 宮瀬 真理

1. 授業の方法と内容

本コースでは、日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得することを目標に、そこで使われる文型、表現を習得できるよう、教材を使用して書く練習をした。テキストは『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』アルク を主教材として用い、その後半8課から14課を扱った（中級2文章で1課から7課を扱う）。そして、テキストの学習項目を用い、少しずつ自らの研究計画書を書き進めていけるようサポートした。

隔週で課題作文を宿題として出し、適切な表現になるようフィードバックをした。

また、授業前半に、目上の人に対するメール文の書き方を行い、お詫びのメール、お願いのメール、など改まったメールの書き方も合わせて扱った。

2. その他（特記事項）

学生の中にはまだ話しことばと書きことばの違いを身につけていない人もいたため、適宜、文末の表現や副詞等の話しことばと書きことばの差異を意識化させ、書き換えの練習などを行った。

剽窃の問題とも関わってくるため、引用の仕方、引用の表現の学習には特に強調して行った。

指定テキスト以外の教材からも適宜必要と思われる補足を行いながら進めた。

3. まとめ・今後の課題

書く能力は個々で大きく違うため、クラス内での活動をどうしていくかが大きな課題である。レベル差が大きい場合、ピア活動ではお互いの学びが少なくなってしまうため、今年度は、書く前にペアやグループで書く内容を紹介し合い、それから各自執筆。その後教師が個々にフィードバックするという活動を多く行い、学習者の反応もよかった。クラスの人数にも左右されるが、今後も学習者ひとりひとりに向き合う時間を作っていきたい。ただ、手書きが苦手な学生もいる。教室内で書く活動を多く入れる場合、PC を使って各自書くことができれば、より学習者にとって望ましいと思われる。今後考えていきたい課題である。

多文化理解プロジェクト

2019年度 S1S2

レベル	: 中級-上級
スキル	: その他
開講期間	: 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
時間	: 13:00 - 14:45 木曜日
場所	: 工学部8号館 123教室
学習目標	: 留学生と日本人学生がそれぞれ対等な立場で母文化の慣習と考え方を共有し、協働して問題を解決する力を身につけることを目指す。 そのために、ステレオタイプ形成プロセスや異文化コミュニケーションについて知り、相互文化理解のための課題に取り組む。さらに、その成果を他の教育機関などで発信し、地域の多文化理解への貢献の道筋を探る。
対象	: 中級-上級の留学生、日本人学生
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動5%、授業参加度15% 中間試験(口頭発表) 20%、期末試験(レポート) 30%、課題(プロジェクトワーク) 30%
その他	1. 以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 期末試験(レポート) および課題の提出 2. コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% 3. 中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-034-1, 学部FEN-CO4452L1 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 岩田 夏穂 IWATA Natsuho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション
2	4/ 18	木	多文化社会とは
3	4/ 25	木	自分と他者を知る 1 (食文化)
4	5/ 2	木	休講
5	5/ 9	木	自分と他者を知る 2 (ことばとコミュニケーション)
6	5/ 16	木	自分と他者を知る 3 (メディアと情報)
7	5/ 23	木	自分と他者を知る 4 (教育)
8	5/ 30	木	中間試験(発表)
9	6/ 6	木	ステレオタイプ形成のプロセス 1
10	6/ 13	木	ステレオタイプ形成のプロセス 2
11	6/ 20	木	プロジェクトワーク 1
12	6/ 27	木	プロジェクトワーク 2
13	7/ 4	木	プロジェクトワーク 3
14	7/ 11	木	プロジェクトワーク 4 振り返り
15	7/ 18	木	補講期間
16	7/ 25	木	期末レポートと学期の振り返り

中級3 多文化理解プロジェクト

報告者：岩田夏穂

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

このコースでは、留学生と日本人学生がそれぞれ対等な立場で母文化の慣習と考え方を共有し、協働的な問題解決の力を身につけることを目標とした。授業では、ステレオタイプ形成プロセスや異文化コミュニケーションの問題について扱い、さらに、小学校でのワークショップを実施することで、多文化理解に必要な心構えを知ることを目指した。

【授業の内容】

本コースは、留学生5名（中国3名、ドイツ1名、タイ1名（途中で棄権））と、日本人学生9名が履修した。授業では、文化の定義等の紹介と身近な「食」や「コミュニケーション上の問題」に関するエピソードを検討した後、学生が他者の習慣や価値観に対して違和感を抱いた体験を共有した。そこからステレオタイプの形成と固定化、偏見と差別の違いについて議論した。中間プレゼンテーションでは、自分自身の経験を素材に問題提起するという形で発表した。9週目から、留学生と日本人学生でチームを作り、大田区立矢口西小学校3年生対象の「多文化理解ワークショップ」の準備を開始した。それぞれのチームでテーマを設定（「ジェスチャーを用いたコミュニケーション」、「世界の様々な言葉で表されたことわざ」等）し、身近な常識が全てではないことや人間として共通する考えや気持ちがあることを子どもたちが実感できるような授業プランを話し合いながら作成した。当日（7月11日）は、各チームが2クラスを担当した。いずれのクラスでも子どもたちは活発に取り組み、また、給食後にも校庭で一緒に遊ぶなど、互いに密度の濃い交流の時間が持てたようである。

振り返りからは、子どもに伝わるように発話や活動の流れを工夫した経験を通して、多文化理解において重要な「相手の立場に立って考えること」「他者への配慮」の重要性を学んだ様子うかがわれた。

2. その他

大田区立矢口西小学校での多文化理解ワークショップは、今年度で7年目を迎える。矢口西小学校の佐治信哲校長先生、3年生ご担任の関口先生には、準備段階からいろいろとご配慮いただいた。ここに深謝の意を表する。

3. まとめ・今後の課題

日本人学生の人数が留学生より上回ったが、留学生も十分に議論や活動でのイニシアチブをとれており、終始非常に良い雰囲気であった。課題としては、講義内容を実際のワークショップでどう生かすかがわかるように、関連付けの明確化が必要であると考えます。

上級 総合

2019年度 S1S2

レベル	: 上級
スキル	: 総合
開講期間	: 2019/ 04/ 09 - 2019/ 07/ 23
時間	: 10:25 - 12:10 火曜日
場所	: 工学部8号館 132教室
学習目標	: 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の4技能（特に産出の話すと書く）を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、様々な時代・ジャンル（歴史・経営・芸術・文学・マンガ／アニメ・スポーツ・政治・学者）の著名人の物語を通して、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。
対象	: 中級Ⅲ<総合>コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: The Great Japanese 30の物語 中上級 - 人物で学ぶ日本語（くろしお出版）
評価	: 教室活動5%, 参加度15%, 課題30%, 中間試験20%, グループ発表10%, 期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院(3799-952-1)、学部 (FEN-JL4r01L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 米谷 章子 KOMETANI Akiko, 岩田 夏穂 IWATA Natsuho nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション、30の物語①、担当割り当て
2	4/ 16	火	担当決定、発表のしかた、課題、30の物語②
3	4/ 23	火	30の物語③, 課題 1
4	4/ 30	火	祝日（国民の祝日）
5	5/ 7	火	30の物語④, 課題 2
6	5/ 14	火	30の物語⑤, 課題 3
7	5/ 21	火	30の物語⑥, 課題 4, テーマ提出
8	5/ 28	火	中間試験
9	6/ 4	火	休講(中休み)
10	6/ 11	火	30の物語⑦
11	6/ 18	火	30の物語⑧, 課題 5, 第1原稿提出, ピアリーディング
12	6/ 25	火	30の物語⑨, 課題 6, 発表日決め, 原稿返却
13	7/ 2	火	30の物語⑩, 課題 7, PPT提出
14	7/ 9	火	グループ発表①, 最終原稿提出①

15	7/ 16	火	グループ発表②, 最終原稿提出②
16	7/ 23	火	期末試験

上級 総合

報告者：A クラス 米谷章子

B クラス 岩田夏穂

2019S1S2 の上級総合は、2020 年度からの総合コースの超級レベル設定を視野に入れ、履修登録者のこれまでの日本語学習歴と履修歴を参考に、A を日本語能力上位クラス、B を下位クラスとしてセクションを分けて実施した。テキストは AB とも『The Greatest Japanese 30 の物語-人物で学ぶ日本語』（くろしお出版）を使用し、A は従来通り、B はそれより進度を遅くして授業を行った。

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上記テキストを使用し、大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら、上級の 4 技能（特に産出の話すと書く）を習得することを目指し、授業を進めた。

授業では、1 回の授業で 2～3 つ（A クラス）、1～2 つ（B クラス）の物語を扱い、担当者がその課の語彙や文法表現を使用し、物語に対する感想や意見を発表した。質疑応答の時間を設けた後、担当者が物語や発表に関するトピックの話し合いのテーマを提示し、グループでディスカッションを行った。その後、全体で意見を共有しつつ、さらに疑問や問題提起などに発展させた。授業後は、その週に扱った物語のうちから 1 つ選び、まとまった長さの意見文を毎週の課題とした。

【授業の内容】

授業では、和田カツ、草間彌生、イチロー、杉原千畝、萱野茂、山中伸弥など、様々な時代・ジャンル（歴史・経営・芸術・文学・マンガ／アニメ・スポーツ・政治・学者）の著名人の物語を通し、日本の文化や考え方、価値観を知り、異文化理解を深めた。ディスカッションと意見文を通し、自分の意見や主張を適切に表現、発信する力を養い、日本語能力を高めるだけでなく、同時に様々な文化的及び、社会的知識を習得した。

筆記の中間試験と期末試験も行い、教材から漢字と語彙を問う問題と、課題と同じく、文法表現を使用した意見文を書く問題の形式を採用した。また、A クラスでは、グループ発表として、受講者が興味のあるトピックを選択し、協力して発表した。「LGBT」、「韓国・中国・フィンランドの育休」、「ビッグデータ」、「東大における男女不均衡」についてそれぞれ研究発表し、日本や各国で注目されている話題について話し合った。B クラスでは個人発表として、メインテキストの書き方を参考に自分が関心のある人物を取り上げ、その人物についての自分の見解を発表した。テーマは、「張芸謀のオリンピック開会式」、「松本清張：社会問題と推理小説」、「越後の虎 上杉謙信」「サッカーで社会の意見を変えたマルタ・ビエイラ・

ダ・シルバ」で、発表準備では、聞き手に配慮した話し方や提示資料の工夫を指示したところ、十分に内容が伝わるものとなり、発表の後、活発な質疑応答とディスカッションとなった。

2. その他

A クラスでは、学期途中から学内ボランティアが加わり、ディスカッションに参加してもらった。同世代の学生からの意見が聞ける機会を設け、非常に好評であった。

3. まとめ・今後の課題

A クラス：開始時に課題が多いことを説明したにもかかわらず、継続的に出席した受講者が全員修了したことは大きな成果であった。授業のためにかける時間も負担も大きいと思われたが、それに伴う習得感や達成感を味わえたようだ。扱った内容（女性の活躍と地位、芸術とビジネス、世襲の是非、少数民族と言語など）は受講者に大変好評で、日本だけでなく出身国の状況も共有した。今後も異文化理解が深められる魅力のある授業作りを努めたい。

B クラス：修了者が4名と、授業開始時の4分の1に減ってしまう等、受講者のレベルと授業内容のすり合わせに課題が残った。特に日本語でまとめた内容を書くことに慣れていない受講者には負担が大きかったようである。また、毎回の作文のフィードバックを次に生かすように意識化させることも課題である。

AB 共通：課題作文にネットからの文章をそのまま、あるいは若干改変して載せる、翻訳アプリで作成した日本語の文を使う等、文章作成上のマナー違反を違反と意識せずに行うケースが散見された。また、信頼性の低いサイトからの情報を検証せずに使う受講者が後を絶たない問題も、改善すべき点としてある。今後は、中～上級の文章作成を組み込むコースで、どういう振る舞いがマナー違反となるのかを受講者に意識させるワークショップ等を実施し、上記のようなケースを未然に防ぐことを目指したい。

上級 聴解

2019年度 S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 聴解
開講期間	: 2019/ 04/ 05 - 2019/ 07/ 26
時間	: 10:25 - 12:10 金曜日
場所	: 工学部8号館 88M教室
学習目標	: 日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。
対象	: 中級3 聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: 留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）
評価	: 教室活動10%、参加度10%、課題20%、クイズ10%、中間試験25%、期末試験25% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院3799-953-1、学部FEN-JL4r10L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 岡 葉子 OKA Yoko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 5	金	オリエンテーション、レベルチェッククイズ、ニュース聴解
2	4/ 12	金	休講（入学式）
3	4/ 19	金	L1、ニュース聴解
4	4/ 26	金	L2、ニュース聴解、語彙クイズ（L1）
5	5/ 3	金	休講（祝日）
6	5/ 10	金	L3、ニュース聴解、語彙クイズ（L2）
7	5/ 17	金	L4、ニュース聴解、語彙クイズ（L3）
8	5/ 24	金	L6、ニュース聴解、語彙クイズ（L4）
9	5/ 31	金	中間試験
10	6/ 7	金	L8、ニュース聴解、語彙クイズ（L6）
11	6/ 14	金	L9、ニュース聴解、語彙クイズ（L8）
12	6/ 21	金	L10とL13、語彙クイズ（L9）
13	6/ 28	金	L11、ニュース聴解、語彙クイズ（L10&13）
14	7/ 5	金	L12、ニュース聴解、語彙クイズ（L11）
15	7/ 12	金	L14、ニュース聴解、語彙クイズ（L12）
16	7/ 19	金	休講（補講日）
17	7/ 26	金	学期末試験

上級 聴解

報告者： 岡 葉子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 上級』（スリーエーネットワーク）を使用し、①聞く前に（トピックについて各国の状況などの話し合い）、②問題 A（内容理解の○×形式の問題）、③問題 B（内容理解の記述式の問題）、④問題 C（要約作文）の順番で 1 課ずつ進めた。④問題 C（要約作文）は、授業中には扱わず、課題として翌週に提出させた。また毎回、授業冒頭で前週の語彙についてクイズを行った。

メインテキスト以外の教材としては、『聴くトレーニング 聴解・聴読解 応用編』（スリーエーネットワーク）の「ストラテジー」部分を使用し、推測・予測など聴解ストラテジー能力を身に付けるためのトレーニングを行ったほか、NHK オンラインのニュース素材を用いてディクテーションおよびシャドーイングなどの練習も行った。

1-2. 授業の内容

授業では、メインテキスト全 15 課のうち、「畳」「茶の湯」など日本文化に関連するもの、『バイオミミクリ』や『バイオトイレ』など自然科学に関連するものなど、計 10 課を扱った。NHK のニュース素材は、時事問題の他、メインテキストに関連する題材も使用した。

2. その他

昨年度に引き続き、『アカデミック・ジャパニーズ』のテキストを使用した。

3. まとめ・今後の課題

学生達は授業に真面目に参加し、今年度は 10 名が修了した。昨年度は、ほぼネイティブ・スピーカー並みの実力を持つ学生がいたが、今年度はそこまでではなく、NHK のニュース素材についても「難しい」という意見も出た。だが、最終回のコメントシートには「もっとニュースを聞きたかった」という意見も若干数出てきたので、多少学生には難しく考えられても、生教材を使ったタスクは今後も続けていくつもりである。

また、昨年度の課題を踏まえて、今年度は、毎週コメントシートを配布し、「分からなかった語彙や表現」「テーマに関する記述問題」を書くことを課し、クラス全体で共有すべき問題は次週のフィードバックで取り上げ、積極的な参加を促すようにしたので、引き続きこの試みを続けていきたい。

上級 会話

2019年度 S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 会話
開講期間	: 2019/ 04/ 08 - 2019/ 07/ 22
時間	: 10:25 - 12:10 月曜日
場所	: 工学部8号館 324B教室
学習目標	: 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。
対象	: 中級3会話の修了者、又はJLPT N1相当
テキスト	: なし 新聞や本、テレビ番組などの生教材を使用
評価	: 教室活動 10% 参加度 10% 中間口頭発表 25% 期末口頭発表 30% 課題 25% ・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率 70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験 ・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位(2)認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 学部 FEN-JL4r20L1, 大学院 3799-954-1. 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 岡 葉子 OKA Yoko nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 8	月	オリエンテーション、レベルチェック、自己紹介
2	4/ 15	月	自分のことを説明する1 (自分の好きなこと)
3	4/ 22	月	自分のことを説明する2 (経験)
4	4/ 29	月	祝日
5	5/ 6	月	祝日
6	5/ 13	月	自分のことを説明する3 (研究領域)
7	5/ 20	月	中間試験説明、準備
8	5/ 27	月	中間試験(口頭発表) 前半
9	6/ 3	月	中間試験(口頭発表) 後半
10	6/ 10	月	中間試験フィードバック ディスカッションのしかた
11	6/ 17	月	ディスカッション (トピック1)
12	6/ 24	月	ディスカッション (トピック2)
13	7/ 1	月	期末プレゼンテーション導入, インタビューの方法1
14	7/ 8	月	インタビューの方法2
15	7/ 15	月	祝日
16	7/ 17	水	【月曜授業】学期末プレゼンテーション準備
17	7/ 22	月	学期末プレゼンテーション

上級 会話

報告者：岡 葉子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

この授業では、様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査等を通じて、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指した。授業の中であるトピックについて二人から数人程度で話しあった後、ショートスピーチを行ったり、ディスカッションを行ったりした。メインテキストは指定せず、教師作成プリントを使用した。適宜『日本語超級話者へのかけはし』および『日本語上級話者への道』の一部を用いて、テーマに即した表現や語彙を導入した。また、クラス内で口頭発表を行う際には、評価シートを用いて学生同士で客観的な相互評価を行い、クラスメイトのいい点を積極的に取り入れるように促した。

1-2. 授業の内容

前半は、「自分に身近な話題について正確に相手に伝わるように話す」ことを目的とし、「好きな映画(本)」「面白い体験談」についてショートスピーチを行い、中間試験には「自分の研究について説明する」ことを課題とした。後半は、「働くこと」をテーマに、NHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」の視聴、「企業のパタハラに関するニュース」読解などを通じ、グループディスカッションを重ねた後、期末試験には「自分の興味のある社会問題についてインタビュー調査を行い発表する」ことを課題とした。

2. その他

学生ボランティアが1名参加し、ほぼ毎回授業に積極的に参加し、コメントシートなども真面目に書いてくれた。特に期末口頭発表準備においては、学生達の質問に的確なアドバイスを出し、クラスにいい影響を与えてくれた。

3. まとめ・今後の課題

初回は30名近い出席者がいたが、徐々に人数が減り、最終的には10名が修了した。理系の学生のみならず文系の学生も多く、期末口頭発表においては「顔認識とプライバシー保護は両立するか」、「自己決定権を持たないで生きることは許されるのか」など、幅広いテーマが選ばれていた。課題としては、学生間に発話能力の差が見られ、上級レベルに照準を当てて授業を行った結果、発話能力の低い学生が脱落してしまったことである。来学期は会話クラスを能力別に2クラス展開にするため、課題解消が期待される。

上級 読解

2019年度 S1S2

- レベル : 上級
- スキル : 読解
- 開講期間 : 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
- 時間 : 08:30 - 10:15 木曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M教室
- 学習目標 : 新聞・エッセイ・小説など日本社会にいてのさまざまな文章を通して、クリティカル・リーディング力を身につける
- 対象 : 中級Ⅲ読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
- テキスト : 自主教材
- 評価 : 教室活動 20% 中間試験 20% 期末試験 20% クイズ10% 課題30% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。
A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-955-1、学部FEN-JL4r30L1,
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
- 担当 : 藤井 明子 FUJII Akiko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション レベルチェック
2	4/ 18	木	エッセイ①、詩①、ことばクイズ①、読解ストラテジー①、課題1
3	4/ 25	木	エッセイ②、詩②、ことばクイズ②、読解ストラテジー②、課題2
4	5/ 2	木	祝日
5	5/ 9	木	小説①、ことばクイズ③、新聞①、読解ストラテジー③、課題3
6	5/ 16	木	自主教材①、ことばクイズ④、読解ストラテジー④、課題4
7	5/ 23	木	自主教材②、ことばクイズ⑤、新聞②、読解ストラテジー⑤、課題5
8	5/ 30	木	中間試験
9	6/ 6	木	自主教材③、調査資料①、ことばクイズ⑥、読解ストラテジー⑥、課題6
10	6/ 13	木	自主教材④、調査資料②、課題7
11	6/ 20	木	小説②、課題8
12	6/ 27	木	クリティカル・リーディングセッション1、課題9
13	7/ 4	木	クリティカル・リーディングセッション2、課題10
14	7/ 11	木	小説3、課題11
15	7/ 18	木	休講 (補講期間)
16	7/ 25	木	期末試験

上級 読解

報告者：藤井明子

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

自主教材を使用し授業を行った。日本人・日本文化に関するエッセイ 2 本、日本語の短編小説 3 本、日本社会に関する評論とレポート 6 本を読んだ。すべての回で、授業の終わりに教材を配布して次週までに読み物を読んで内容理解問題に答えてきてもらった。授業では、ペアで問題の答え合わせと、発展問題として読み物について話し合いをしてもらった。コース前半はことばテストを実施、また読み物に関する小作文を毎回提出してもらった。後半はブックレポートをまとめてもらった。

【授業の内容】

授業中に黙って個々に学生が読む時間を減らし、できるだけ授業中は読んで理解した内容について話し合いをしてもらうことを心がけた。読む力はあるけれども、理解した内容を話し合うだけの話す力が不足していた学生もいたものの、大半の学生は積極的に話し合いに参加し、内容理解を深めることができたと思う。

日本社会に関する文章や森鷗外の短編小説「高瀬舟」は背景知識や語彙などがややわかりにくかったので、クラス内で教師からの問いかけ中心に進めていったが、まとめとしての自分の意見・感想についてはいずれの回も学生中心に進めることができた。

また、コース前半には若い日本人作者による短歌も読んだ。

2. その他

ブックレポートでは好きなトピックの新書を選んでもらい、アウトライン、序論、下書きと教師とやり取りしながら、段階を踏んで書きすすめてもらった。下書きと清書の回にはピアリーディングを行う時間も十分とれたので、お互いのレポートを読んで意見交換ができた。禅マインド、遣唐使と現代留学生の比較、議院内閣制など学生が選んだトピックも多様で学生も興味をもって取り組めたようだった。

3. まとめ・今後の課題

初回のレベルチェックテストを受けた学生は 9 名、コース修了者は 5 名と少人数だったが、いずれの学生も非常に熱心で、日本語能力も高く、大変楽しい雰囲気クラスだった。どんな文章に関しても話し合いが途切れることなく、いつも時間が足らなかった。ただ、そのため当初計画していた読解ストラテジーなどは行うことができなかった。

今後は、読解ストラテジーの練習などは課題としての読み物を読む中で行うとよいと思う。

上級 文章

2019年度 S1S2

レベル	: 上級 レベル
スキル	: 文章
開講期間	: 2019/ 04/ 09 - 2019/ 07/ 23
時間	: 08:30 - 10:15 火曜日
場所	: 工学部8号館 88M & 88L
学習目標	: 日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、書けるようになることを目指す。
対象	: 中級III文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当
テキスト	: アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④ 論文作成編』（アルク）
評価	: 教室活動10% 参加度10% 中間試験20% 期末試験20% 課題40% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位2認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード: 大学院3799-956-1、学部FEN-JL4r40L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者によりのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 猪狩 美保 IGARI Miho, 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 9	火	オリエンテーション、レビュー&チャレンジクイズ
2	4/ 16	火	第1課「作文の基本1」、第2課「作文の基本2」、パラフレーズトレーニング1（書き言葉）、課題1
3	4/ 23	火	第3課「課題の提示」、パラフレーズトレーニング2（和語漢語）、課題2
4	4/ 30	火	祝日
5	5/ 7	火	第4課「目的の提示」、パラフレーズトレーニング3（名詞化）、課題3
6	5/ 14	火	第5課「定義と分類」、第6課「図表の提示」、課題4
7	5/ 21	火	第7課「変化の形容」、パラフレーズトレーニング4（ジャンルによる使い分け）、課題5
8	5/ 28	火	中間試験
9	6/ 4	火	中休み
10	6/ 11	火	第8課「対比と比較」、パラフレーズトレーニング5（長い文、複数の文）、中間試験フィードバック、課題6
11	6/ 18	火	第9課「原因の考察」、パラフレーズトレーニング6（上位概念）、課題7
12	6/ 25	火	第10課「列挙」、第11課「引用」、課題8
13	7/ 2	火	第12課「同意と反論」、パラフレーズトレーニング7（簡潔な表現）、課題9
14	7/ 9	火	第13課「帰結」、パラフレーズトレーニング8（含意／解釈）、課題10

15	7/ 16	火	第14課「結論の提示」
16	7/ 23	火	学期末試験

上級 文章

報告者：猪狩美保・内田あゆみ

1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク）を使用し、授業を行った。テキストに沿って日本語のレポートや論文の構成や文型・表現を学習し、練習および課題の作成を行った。学生が作成した課題についてはクラスで共有したり、フィードバックを行ったりすることにより、学生が修正・改善点に気づき、自分で日本語のレポートや論文を作成できるようになることを目指した。テキストに沿った課題の他に、パラフレーズトレーニングとして、レポート・論文にふさわしい書き言葉に書き換える練習を毎回行った。

【授業の内容】

授業では、論文の序論・本論・結論に含まれる構成要素や展開パターン、それに必要な文型・表現について学習し、その練習を行った。適宜テキストの「文型・表現集」「例文集」も参照しながら、さまざまな表現について学べるようにした。毎回、各課のテーマに基づいて実際に書くという課題に取り組み、クラス内で作成、または宿題として提出する形をとった。課題作成の前には、可能であればその内容について学生同士が話し合う時間を取り、そこから理解を深め、課題に取り組みやすいよう配慮した。また、パラフレーズトレーニングについてもクラス内でフィードバックを行い、間違いやすい点や理解しにくい部分について共有することで、書き言葉の知識がさらに広がるよう進めた。

2. その他

A、Bの2クラス編成で授業を行った。テキストに提示された課題作成のためのデータに関しては、関連するデータや学生の出身国のデータを参照する、それをクラスで共有する等の方法を取り入れ、学生がより関心を持って取り組めるよう心がけた。

3. まとめ・今後の課題

履修した学生は積極的に授業に参加しており、どの学生も各自の日本語レベルをさらに伸ばそうと努力している様子が見られた。Aクラスには非漢字圏の学生も含まれていたが、クラス活動や課題作成にも熱心に取り組んでいた。一方で、やはり書き言葉、漢字や漢語に対する難しさを感じている様子があり、今後どのようにフォローしていけるか考えていきたい。Bクラスは少人数で、学生のレベルも非常に高かったため、課題はなるべく実際の研究テーマを用いて取り組ませ、より実践的な練習を重ねた。授業時間を有効に使うため課題は事前に提出させ授業内でフィードバックをする方法を取ったが、学生は多忙でなかなか上手くいかなかった。今後課題の内容と取り組み方を見直し改善していきたい。

上級 日本組織事情

2019年度 S1S2

レベル	: 上級
スキル	: その他
開講期間	: 2019/ 04/ 11 - 2019/ 07/ 25
時間	: 10:25 - 12:10 木曜日
場所	: 工学部8号館 132
学習目標	: 日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。
対象	: 日本語 中級3を修了した人、又はJLPT N1相当、学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP
テキスト	: 自主教材
評価	: 教室活動20%、課題45%、発表15%、期末試験20% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上 2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
その他	: 1. 単位 2 認定 (ただし、単位が不要な学生も履修可) UT-mate コード: 大学院 3799-957-1, 学部 FEN-JL4r51L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
担当	: 古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 本村 理恵 MOTOMURA Rie nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 11	木	オリエンテーション・自己紹介
2	4/ 18	木	日本の就職事情
3	4/ 25	木	エントリーシートの対策1 (*自己PR)
4	5/ 2	木	祝日
5	5/ 9	木	エントリーシートの対策1 (*学生時代頑張ったこと)
6	5/ 16	木	エントリーシートの対策3 (*業界研究)
7	5/ 23	木	業界研究発表1 中間試験
8	5/ 30	木	業界研究発表2 中間試験
9	6/ 6	木	エントリーシートの対策4 (*志望動機)
10	6/ 13	木	面接1
11	6/ 20	木	面接2
12	6/ 27	木	面接3
13	7/ 4	木	内定者・OB/OGの話を聞く
14	7/ 11	木	ビジネス場面における敬語
15	7/ 18	木	休講
16	7/ 25	木	ビジネスメール・報告書書き方、*期末試験

上級 日本組織事情

報告者： 古市由美子・本村理恵

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

就職やインターンシップのために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを養うことを目的に、キャリアカウンセラーの本村理恵講師と共に実践的な授業を行った。講義は「就職支援」と S1S2 は、主にインターンシップにおける「ビジネスマナー」の習得を目指した 2 部構成で実施した。

1-2. 授業の内容

授業内容は、「就職支援」として、エントリーシート（ES）の書き方、業界研究発表、そして面接練習をし、「ビジネスマナー」の習得として、敬語やビジネスメールの書き方練習などを実践的に行った。

ES を作成するにあたり、まず自身の専門性と職業を結びつけ、今後のキャリアプランを具体的に検討した。次に自分自身だけでなく、3～4 名のグループメンバーの意見に参照し、自己分析を行った。そして、「自己 PR」、「学生時代頑張ったこと」を 400 字の課題とした。また、業界・企業研究の発表を中間試験とした。この企業研究に基づき、400 字の「志望動機」を課題にした。面接は「個人面接」「グループディスカッション」「グループ面接」の実践練習を主とした授業を 3 回行った。

「ビジネスマナー」では、ビジネスに必要な敬語やビジネス用語、表現について、ロールプレイ形式で、実践的な練習を行った。また、ビジネスメールや報告書の作成についても具体的な場面、状況設定をした上でメールや報告書を書き、ペア、グループなどで検討した。

2. その他（特記事項）

内定者や OBOG が個々の就職活動の経験を踏まえた講和会は、具体的で有益な情報が共有できるため、毎回好評である。今年度も 1 名の内定者、2 名の OBOG に参加していただき、就職活動およびそれぞれのキャリアプランについてお話を伺った。

3. まとめ・今後の課題

日本で就職を希望する学生が年々増加しており、昨年度より A1A2 は 2 セクション設けている。このコースは他研究科の学生の割合が高い特徴がある。S1S2 の受講者はインターンシップの参加を目指しており、A1A2 の受講者は就職活動を本格的に目指して受講している。実際に就職活動をしている学生が多く、非常に熱心に課題に取り組んでいる。学生からは練習をもっとしたいという声が多く、時間不足が課題である。

冬季日本語特別集中科目1

2019年度 A1A2

- レベル : 初級Ⅱ
- スキル : 総合
- 開講期間 : 2020/ 02/ 03 - 2020/ 02/ 21
- 時間 : 08:30 - 10:15 月曜日
08:30 - 10:15 水曜日
08:30 - 10:15 金曜日
- 場所 : 工学部8号館 88M
- 学習目標 : 初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。
- 対象 : 日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当
【注意】このコースは、2019A1A2学期に履修登録をしていない学生が対象です。
- テキスト : 『大地Ⅱ メインテキスト』『大地Ⅱ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）
- 評価 : 学期末試験30% 語彙クイズ20% 漢字クイズ10% 文法クイズ15% 課題20%
教室活動5%
- ・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上 2) 期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。
- その他 : 1. 単位あり（1単位）UTAS コード：大学院3799-971、学部FEN-JL4 t 01L1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
4. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
【注意】・このコースは、進度がとても速いため、履修には下記の条件をクリアしていることが求められます。
・毎回、予習と復習、宿題をすること。
・全日程、出席できること
- 担当 : 金（キム）ユジン KIM Youjin, 岡 葉子 OKA Yoko
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	2/ 3	月	オリエンテーション, L33
2	2/ 5	水	L34, L35, 語彙クイズL34, L35, 漢字クイズ
3	2/ 7	金	L36, L37, 語彙クイズL36, L37, 漢字クイズ, 文法クイズ(条件形)
4	2/ 10	月	Lecture Cancelled
5	2/ 12	水	L38, L39, 語彙クイズL38, L39, 漢字クイズ, 文法クイズ (受身形)
6	2/ 14	金	L40, 語彙クイズL40, 漢字クイズ, 文法クイズ (命令形)
7	2/ 17	月	L41, 語彙クイズL41, 文法クイズ (使役形)
8	2/ 19	水	L42, 語彙クイズL42, 漢字クイズ, 文法クイズ(尊敬語)
9	2/ 21	金	期末試験, 漢字クイズ L6, 文法クイズ (謙譲語)

冬季日本語特別集中科目 1

報告者: 金 瑜眞 岡 葉子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

当該コースは工学系研究科日本語教室初級 4 レベル相当の集中コースで、『大地 2』(スリーエーネットワーク) の L33~42 を 8 日間で扱った。具体的には 105 分 1 コマの授業を週に 3 回(月曜日、水曜日、金曜日) 合計 8 コマ実施した。授業時間を最大限に活かすため、新出語彙の予習、文法の復習、及び漢字学習を自宅学習とし、1 コマ 1~2 課のペースで授業を進めた。以下は授業外学習と教室活動内容である。

- 【予習】 語彙学習(授業で扱う課の語彙を学習し、クイズに備える)
漢字学習(漢字シートを使って毎日漢字を 10 ずつ自習し、クイズに備える)
文法学習(次の課で勉強する文型問題集を解き、予習する)

【教室活動】 文型導入および運用練習

【復習】 文法学習(授業で学習した文型問題集を解き、復習する)

1-2. 授業の内容

次の流れで授業を行った。

20 分 課題提出、語彙クイズ(当該課)、漢字クイズ、文法クイズ(前回の学習内容)

85 分 当該課文型導入、内容確認質問と応答、各文型をもとにした運用練習

2. その他

コースを修了した学生のうち、希望する受講生には全員単位を付与した。当該コース修了学生には通常の日本語コースにおける次レベルのコース受講資格が与えられるため、文型問題集を予習・復習用に課題として配布するなど、通常コースと授業内容を揃えるよう努めた。

3. まとめ・今後の課題

通常の学期では 28 コマをかけて学ぶ内容を 8 コマで修了するコースであったため、予復習を含め、学生の負荷はかなり高かったものと思われるが、受講した 3 名中、2 名は最後までよく努力し、修了できた。2 名のうち、1 名が MIT からの留学生、あとの 1 名が既に東京大学に在籍している留学生であったが、授業内外で助け合う姿が見られた。2 名ともに、来学期、中級 1 コースに続けて登録し、日本語学習を継続する予定であるが、次のレベルのコースに進んだ学生が、十分にクラス活動についていける実力がついたかどうか、今後注意して見ていく必要がある。残りの受講者 1 名は、約三か月間日本に招聘された研究員であったが、多忙なため、最後まで修了することはできなかった。このように、学習時間に余裕がある受講生ではないと、学習を継続することが困難であることから、今後、コース登録時や受講時にこうした学生へのさらなるフォローアップが求められる。

ビジターセッション・日本事情

2019年度 S1S2

レベル : 全レベル
 スキル : 該当無し
 開講期間 : 2019/ 04/ 17 - 2019/ 07/ 10
 時間 : 13:00 - 14:45 水曜日
 場所 : 工学部8号館 88L
 学習目標 : 留学生と日本人のボランティアの方たちと共に留学生の出身地の文化、そして日本文化について様々な切り口から学ぶ。
 ・好きなトピックについて日本語で話す
 ・日本語や日本文化について知識のある人に質問する
 ・少人数(2～3名) のグループで会話を続ける
 対象 : 全レベルの学習者
 テキスト : なし
 評価 : 単位なし
 その他 : 学期の途中からでも参加できます。来られない週があっても大丈夫です。
 担当 : 岡 葉子 OKA Yoko, 早坂 美和子 HAYASAKA Miwako
 nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp Tel:03-5841-8826

No.	日付	曜日	授業内容
1	4/ 17	水	オリエンテーション 自由会話
2	4/ 24	水	自由会話
3	5/ 1	水	祝日
4	5/ 8	水	休講
5	5/ 15	水	自由会話 *工学部8号館 130教室 いけばなワークショップ *工学部8号館132教室
6	5/ 22	水	自由会話
7	5/ 29	水	休講
8	6/ 5	水	お相撲さんがやってくる！ー尾車部屋との交流
9	6/ 12	水	自由会話
10	6/ 19	水	自由会話
11	6/ 26	水	自由会話 *工学部8号館130教室 浴衣ワークショップ *工学部8号館132教室
12	7/ 3	水	自由会話 *工学部8号館130教室 茶道ワークショップ *工学部8号館88L教室
13	7/ 10	水	自由会話

ビジターセッション&日本事情

報告者： 岡 葉子、金 瑜眞、早坂 美和子

1. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

S1S2 学期は 10 回の授業を計画し、当日本語教室のボランティアの方々と留学生とで少人数のグループを作成し、自由なトピックで会話をしてもらった。秋山賢一氏、北林三枝子氏、篠崎いずみ氏、田中勉氏、寺田美奈子氏、橋本富美栄氏、松枝文恵氏、持丸文子氏、野城ゆうこ氏、小林桜子氏（A1A2 から）の 10 名のボランティアにご協力を頂いた。また、留学生は、ゼロ初級から上級レベルの学生まで、全レベルにわたる学生が参加した。

1-2. 授業の内容

基本的に毎回顔ぶれの異なるボランティアと留学生たちをグループにし、様々な話題について日本語で話し合ってもらった。ボランティアの数が足りない時は、専任スタッフ（教務・事務）が急遽セッションに入ることもあった。毎回のセッション終了時に、ボランティア及び参加留学生それぞれがその日に話し合ったことについてシートに簡単に記入した。

2. その他

S1S2、A1A2 学期において、下記の行事を開催した。

S1S2 学期：いけ花ワークショップ（5/23）、尾車部屋との交流会（6/5）、浴衣ワークショップ（6/26）、茶道体験（7/3）

A1A2 学期：いけ花ワークショップ（10/23）、茶道体験（11/6）、着物体験（11/27）、こけしワークショップ（12/11）

昨年度まで実施していた根津神社つつじ祭り見学および湯島天神菊祭り見学は、参加者があまり多くなかったことや天候に左右されることを鑑み、2019 年度は実施しなかった。

2019 年 A1A2 学期には、こけしワークショップを新たに実施した。

これらの行事は、普段ビジターセッションに登録していない留学生も参加できるよう、授業登録学生全員に ML で情報を流した。また、尾車部屋との交流会およびこけしワークショップ以外は、イベントがある日にも同時進行で自由会話ができる部屋を別途確保した。

3. まとめ・今後の課題

今回も自由会話セッションはもちろん、浴衣や着物のセッションは着物の歴史、着付け、作法などボランティアの方々に丁寧に指導して頂いた。昨年に引き続き、今年度も自由会話の学生参加・継続率が高く、ボランティアの方々と教室外でも交流する様子も一部見られた。末筆ながらボランティアの方々のご尽力に心から感謝を申し上げたい。

チュートリアルセッション

報告者： 岡 葉子

1. 概要

日本語教室では、通常の授業では対応できない学習者のニーズに合わせ、教員が個別指導を実施することで、自律学習を支援している。概要は以下の通りである。

目的： 留学生の個別日本語学習支援

対象： 工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

指導内容：日本語学習全般に関する支援

- ・ 論文、レポート、研究計画書の添削
- ・ エントリーシート、奨学金申請書類の添削や面接の練習
- ・ 日本語能力試験対策指導
- ・ 日本語学習方法アドバイス
- ・ 既習事項の確認 など

2. 実績

今年度は、通年を通じて開講した。実績は以下の通りである。

開講日時：2018S1S2（5/9-7/18）毎週木曜 14:00-14:45, 15:00-15:45

時間： 1 回 45 分

利用件数：延べ 10 件

指導内容：就職活動（エントリーシート作成・面接練習） 4 件

奨学金申請やスピーチ練習等 2 件

日本語能力試験対策 1 件

既習事項の確認（発音、聴解） 3 件

3. まとめ・今後の課題

（S1S2 学期）多くの学生に利用してもらうため、申請は 1 か月に 1 回までと制限をつけたが、5 月中旬以降の利用が途絶えたため、再度メーリングリストで周知をし、利用制限は行わないよう方向転換をした。指導内容は就職活動が多かったほか、生活や将来の悩みについて話す学生もいたため、丁寧な傾聴を心掛けた。今後も臨機応変に対応していきたい。

2.5 受講者と修了者

2019 年度に実施した S1S2、A1A2 の受講者と修了者について報告する。

図 2 は、現在の工学系研究科日本語教育部門となった 2011 年度から 2019 年度までの年度別延べ数および実数の受講者数の推移である。

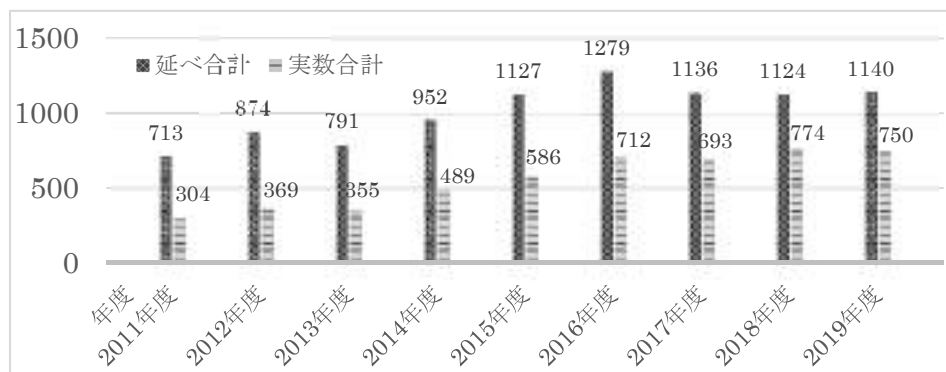


図 2 年度別受講者数推移

カリキュラムの継続的な改善と日本語科目の単位化の浸透により、受講者が急増した 2015、2016 年度をピークに若干受講者数は減少しており、ここ数年横ばいである。その背景には、2017 年度に STAR（登録・管理システム）を都市工学日本語教室とシステム創成系日本語教室とで共有することで受講者のバランスを図り、JLCSE の受講生の延べ数が減少したことがある。その一方で、実数はここ数年増加しており、2011 年度の約 2.5 倍になっている。この延べ数と実数の差の縮小は、受講者数の増加と一人あたりが履修するコース数の減少を意味している。レベル数やコース数の充実に伴って選択肢が増えたことで、各々のニーズに合わせて履修する留学生が増加していることが推察される。

2.5.1 S1S2受講者

2019年度S1S2では、6レベル、30コースを開講した。その受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室受講者

表 2 は、研究科別の各レベル受講生の延べ人数と実数である。

表2 2019S1S2 研究科別・レベル別受講者数 () 内は単位申請者数)

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科	51	23	47	57	52	39	269(63)	174(41)
②情報理工学系	1	9	17	8	15	19	84(32)	59(29)
③新領域研究科	0	2	3	5	2	4	16(4)	10(3)
④全学交換留学生	18	6	14	13	5	16	72(65)	41(37)
⑤他研究科	10	11	28	18	32	35	134(34)	78(24)
合計①～⑤	95	51	109	101	106	113	575(198)	362(134)

全受講生（実数362名）のうち、工学系研究科の受講者（174名）が占める割合は約48%で、昨年度の58%から10ポイントと、一昨年度に引き続いて減少している。近年、他研究科、全学交換留学生が増加傾向にあり、今年度は、他研究科と全学交換留学生の履修生が占める割合が33%と、前年度の30%からさらに3ポイント増加している。

身分別の延べ数（図3）は、例年通り、全体（575名）に占める修士の割合が際立って高いが、博士と合わせた本学の大学院に籍を置く受講生の割合は52%で、昨年度の58%から6ポイント減少した。それに対して大学院外国人研究生は15%、USTEPは12%で、それぞれ昨年度の10%から増加している。

専攻別の延べ数（図4）を見ると、例年通り、機械工学、電気系工学、建築学の割合が高い。また、マテリアル工学の学生は、前年度10名だったのが今年度は28名と、3倍近く増加している。

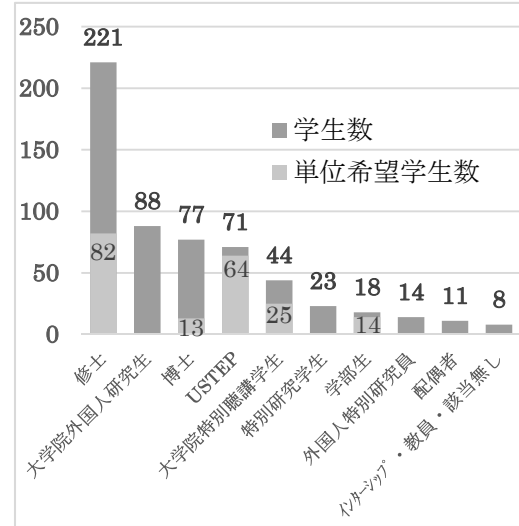


図3 身分別受講者数

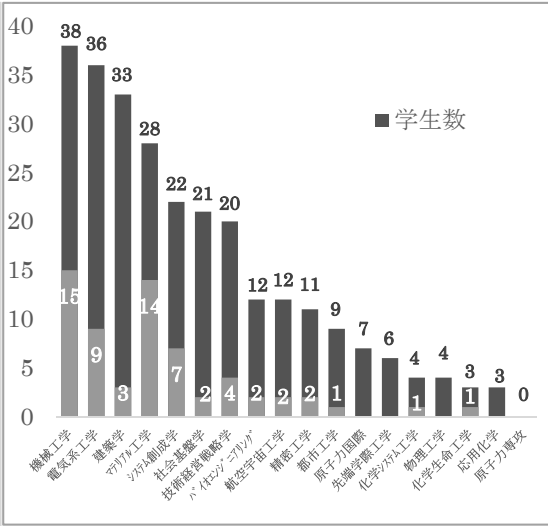


図4 専攻別受講者数

国籍別受講者数（表3）の延べ数では、合計50カ国のうち、例年通り中国の割合が41%と最多だが、その他の割合では、台湾の減少（昨年度31名→今年度19名）、アメリカ合衆国の増加（昨年度15名→今年度28名）等、やや変化があった。

表3 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	合計 延べ数	実数
		延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数	延べ数		
1	中国	16	11	37	47	54	72	237	146
2	韓国	2	3	1	5	7	11	29	15
3	アメリカ合衆国	2	1	17	5	1	2	28	12
4	フランス	9	6	5	3	4	0	27	21
5	ドイツ	4	1	7	0	5	6	23	10
6	タイ	2	3	5	5	6	0	21	13
7位～51計		60	26	37	36	29	22	210	145
合計		95	51	109	101	106	113	575	362

2) 専攻日本語教室受講者

表 4 は工学系内の専攻日本語教室の S1S2 の受講者である。

2017年度 S1S2以降、都市工学日本語教室とシステム創成系日本語教室と STAR(Student Tools for Access and Review) システムを共有し、日本語コースの登録を行っている。日本語コースレベルの統一および受講者数のバランスが改善されている。今年度は、他研究科の学生も専攻日本語教室で学んでいる。

表 4 S1S2 専攻日本語教室受講者数(実数)

レベル 専攻	初級 I	初級 II	中級 I	計
社会基盤学	4	19		23
都市工学	都 1・工 2	都 3・工学 3・他 3	工 6	都市 4・工学 11・ 他研究科 3
システム 創成系			シス創 12・ 工 16・他 3	シス創 12・工学 16・ 他研究科 3
IME			3	—

2.5.2 S1S2 修了者

2019年度 S1S2修了者について報告をする。

1) 工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は延べ 303 名、実数 211 名、単位取得者は、延べ 170 名、実数 120 名である。実数で見ると受講者数(362 名)に対する修了者(211 名)の割合は 58%で、昨年度に比べると 4 ポイントの増加である。

研究科別では、工学系研究科の実数の修了割合が 51%(昨年度は 46%)、全学交換留学生の修了者の割合も 89%(昨年度は 75%)と、単位取得率が上昇している。

身分別では、修士、全学交換留学生の修了者の割合が高く、国籍では実数 1 名の国も加えると 52 カ国の留学生が修了している。国籍別では中国が 79 名、フランス 16 名、台湾 9 名、韓国 8 名、ドイツ 8 名と続く。

表 5 研究科別・レベル別修了者 () 内は単位取得者

レベル 研究科	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	修了者 延べ数	修了者 実数
①工学系研究科	29	11	16	30	18	9	113(43)	89(36)
②情報理工学系	10	5	10	7	9	9	50(31)	39(26)
③新領域創成学	0	0	2	1	0	1	4(1)	3(1)
④全学交換留学生	16	5	12	13	5	15	66(63)	36(34)
⑤他研究科	5	4	20	15	9	17	70(32)	44(23)
①～⑤ 合計	60(41)	25(12)	60(35)	66(29)	41(19)	51(34)	303(170)	211(120)

2) 専攻日本語教室修了者

専攻日本語教室の修了者数は、表 6 のとおりである。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与される。社会基盤専攻は受講者の8割が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は、1 コマ 2 単位が付与されるが、いずれも単位取得者数は多くない。

表 6 専攻日本語教室修了者数（実数）（ ）内は単位取得者

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	個人指導	合計
社会基盤学	4(0)	16(16)			20(16)
都市工学	都 1・工 1	都 3・工 1・他 3	都 0・工 3・他 1		13(1)
	2(0)	7(0)	4(1)		
システム創成系			シ創 8・工 8・他 3		19(3)
			19(3)		
IME			2	—	—

2.5.3 A1A2受講者

ここでは、2019年度A1A2の受講者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室受講者

2019 年度 A1A2 は 6 レベル、30 コースを開講した。受講者は延べ数 565 名、実数 388 名である（表 7）。昨年度 A1A2 と比較すると、延べ数 42 名、実数 49 名減少した。

研究科別に見ると、工学系と新領域の学生が減少したが、情理が増加しており、工学系の占める割合は、全体の 70%を占めている。昨年度 57 名と微減した全学交換留学生は、今年度 68 名と増加したのに対して、これまで増加傾向にあった他研究科が前年度の 112 名から 99 名（延べ数）と減少に転じた。受講者数は、S1S2 と合わせると延べ数 1,140 名で、前年度の 1,121 名から僅かに増加している。レベル別では、例年初級レベルに集中する傾向にあるが、今年度は、中級 1~3 の受講者数がいずれも 100 名を超えている。

表 7 研究科別・レベル別受講者数

レベル 研究科	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上 級	延べ数	実数
①工学系研究科	69	33	56	52	65	28	303(79)	216(67)
②情報理工学系	21	8	16	14	9	11	79(24)	57(22)
③新領域創成学	2	0	4	7	2	1	16(6)	10(5)
④全学交換留学生	13	5	10	17	10	13	68(50)	38(30)
⑤他研究科	5	8	17	21	21	27	99(35)	67(26)
合計①～⑤	110(51)	54(14)	103(34)	111(29)	107(34)	80(32)	565(194)	388(150)

身分別（図5）では、圧倒的に修士が多く、博士、全学交換留学生、特別聴講生、研究生と続く。このほかに、研究員、配偶者、インターンシップ生など多様な身分の受講者が存在する。

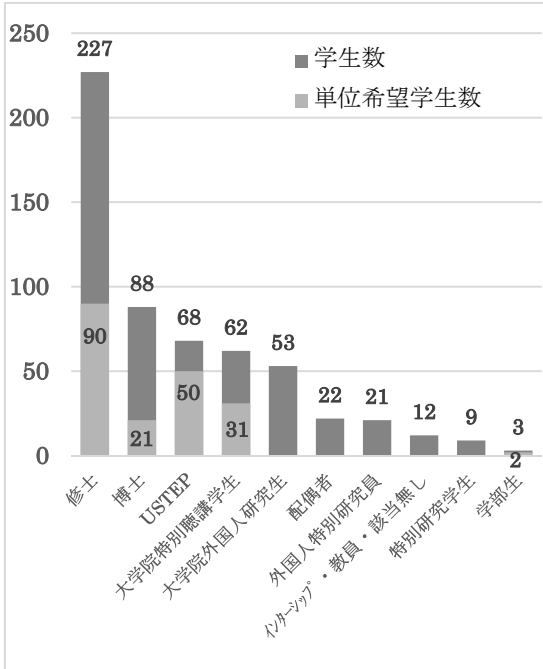


図5 身分別受講者数

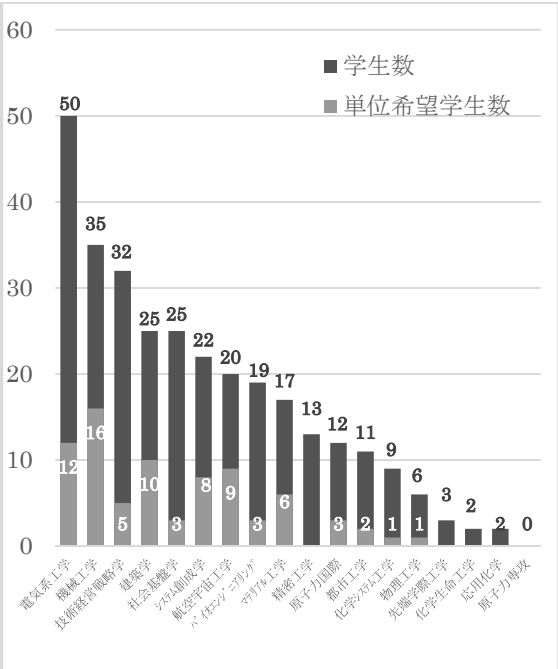


図6 専攻別受講者数

専攻別（図6）では、17専攻の留学生が受講した。今学期は、電気系工学の割合が際立って高く、次いで機械工学、技術経営戦略学と続く。日本語科目の単位が修了要件として認められている専攻は、機械工学、航空宇宙工学、マテリアル工学、都市工学、先端学際工学だが、図6からは、必ずしも修了要件が単位取得に直結しているわけではないことがうかがえる。

次に受講者の国籍（表8）についてみる。

表8 国籍別・レベル別受講者

	レベル 国籍	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	合計 延べ	実数
		延べ	延べ	延べ	延べ	延べ	延べ		
1	中国	36	17	48	59	65	64	289	193
2	フランス	16	6	4	4	3	0	33	31
3	ドイツ	5	2	10	8	5	3	33	15
4	台湾	1	1	8	6	5	3	24	13
5	タイ	2	4	3	4	5	3	21	15
6	韓国	4	2	1	1	1	3	12	12
7位～51位計		46	22	29	29	23	4	153	109
合計		110	54	103	111	107	80	565	388

合計54カ国のうち、例年通り、中国出身者が約半分を占める。特に中級以上のコースで中国の受講者が多く、上級は中国人学生が大部分で、この傾向はここ数年顕著である。近

年は台湾、タイ、韓国に続き、フランス、ドイツからの交換留学生が一定数を占めるようになっている。

2) 専攻日本語教室受講者

2017 年度より都市工学、システム創成系日本語教室は、工学系日本語教室のオンライン登録システム「STAR」を共有することによって、専攻日本語教室における工学系の受講者が増加しており、その傾向が今年度も継続している。

表 9 A1A2 専攻日本語教室受講者数（実数）（）内は単位希望者

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	個人指導	合計
社会基盤学	13 (13)	20(19)	—	—	33(32)
都市工学	都 12・工 1・他 1	都 5・工 1・他 2	都 3・工 5・他 2	—	32(14)
	14(8)	8(3)	10(3)		
システム 創成系	※シス創 4・工 4・他 1	—	シス創 4・工 1・他 1	—	15(5)
	9(5)		6(0)		
IME	—	—	3	予約制	—

※1 システム創成系の初級は 3 月まで開講

※2 IME・個別指導は利用者数の延べ人数、修了者数は対象外

2.5.4 A1A2 修了者

2019 年度 A1A2 の修了者について報告する。

1) 工学系研究科日本語教室修了者

工学系研究科の A1A2 の修了者数（表 10）は、延べ数 181 名、実数 140 名で、履修者数（延べ数 303 名、実数 206 名）に占める修了者の割合は、延べ数が 59%、実数が 64% と、昨年度の 55%、50% より大幅に増加した。工学系の実数の単位取得率も 50% と増加している。

表 10 研究科別・レベル別修了者（）は単位取得学生数

研究科 \ レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科	44	21	36	35	30	15	181(77)	140(70)
②情報理工学系	15	2	13	8	3	5	46(20)	36(19)
③新領域研究科	2	0	1	1	1	1	6(3)	5(3)
④全学交換留学生	11	5	4	14	10	9	53(50)	33(22)
⑤他研究科	5	2	12	9	8	12	48(30)	38(22)
合計①～⑤	77	30	66	67	52	42	334(180)	252(146)

専攻別では、単位が修了要件として認められている専攻のうち、機械工学と航空宇宙工学は、6～7割が単位を取得しているが、マテリアル工学、都市工学、先端学際工学の単位取得率はそれほど高くはない。

身分別では、修士が圧倒的に多く、続いて全学交換留学生と特別聴講学生が続く。S1S2と比べ、若干博士が減少している。国籍別では、中国が若干減少し（全体の43%）、フランス、台湾、タイ、ドイツと続く。

2) 専攻日本語教室日本語教室

表 11 は専攻日本語教室の修了者数（実数）である。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与され、社会基盤専攻は受講者のほとんどが単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は 1 コマ 2 単位が付与される。今年度は、約半数が単位を取得し、増加傾向が見られる。

表 11 A1A2 専攻日本語教室日本語教室修了者（実数）（ ）内は単位取得者

専攻	初級Ⅰ	初級Ⅱ	中級	個人指導	合計
社会基盤学	27(4)	5(4)	—	—	32(4)
都市工学	都 11・工 1・他 1	都 5・工 1・他 2	都 3・工 5・他 2	—	31(14)
	13(7)	8(3)	10(4)		
システム	※シス創 5・工 1	—	シス創 2	—	8(5)
創成系	6(5)		2(0)		
IME※2		—	3	予約制	

※1 システム創成系の初級は 3 月まで開講

※2 IME・個人指導は利用者数の延べ人数、修了者数は対象外。

2.5.5 冬季日本語特別集中講座 1・2 の開講

2019 年度は 2 月 3 日～21 日まで計 8 回の特別集中講座（初級 4）を実施した。対象としたのは、マサチューセッツ工科大学交換留学生 1 名および工学系研究科日本教室の学生 2 名で、このうち 2 名が修了した。

2.6 日本語教室のコース評価

日本語教室では、2013 年度冬学期よりオンラインコース評価を学期末に実施している。
2019 年度 A1A2 学期は、下記の通り実施した。

2.6.1. 2019 年度 A1A2 学期オンラインコース評価概要

- 実施期間 : 2019 年 12 月 18 日～2020 年 1 月 17 日
- 対象者 : 日本語教室在籍の研究生、修士、博士、研究員、交換留学生、配偶者
- 回答者 : 計 199 名（初級 82 名・中級 91 名・上級 26 名）
- 実施言語 : 英語
- 質問項目 : 1. 回答者身分
2. コースの目標は明確だった
3. 授業のスピードは適切だった
4. 講義内容は分かりやすかった
5. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた
6. 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった
7. 当該コースの内容は自分にとって将来役に立つと思う
8. 当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか
9. 当該コースに出てできるようになったこと
10. 当該コースの教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことについて
11. 履修登録の手続きは分かりやすかった
12. 上記 11 の理由
13. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた
14. 上記 13 プレイスメントテストに関するコメント
15. ボランティアの学生が授業に入ってくれてよかった
16. 上記 15 の理由
17. 日本語教室に期待していること
18. 上記 17 でその他を選択した場合の自由記述
19. 日本語チュートリアルがあることを知っていたか
20. チュートリアルに参加しなかった理由
21. 上記 19 でその他を選択した場合の自由記述
- 回答方法 : 上述の質問項目 1・8・17・19・20 は、各々に選択肢を設け、2～7、11、13、15 は、質問文に続き、「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」の 4 件法で回答を求め、9・10・12・14・16・

18・21 は自由記述形式で回答を求めた。

2.6.2. 結果の概要

以下では、①授業内容について、②履修登録について、③その他の3点について、受講生全体の傾向と初級・中級・上級のレベル別の傾向に着目した結果の概略を報告する。

(1) 授業内容について

授業内容に関連する質問項目2～10について述べる。これらのうち4件法（「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」）で回答を求めた2～7の6つの質問項目において、回答者全体の58.5%が「強くそう思う」、36.2%が「そう思う」と回答していた。また、初級・中級・上級のコース別に6つの質問項目の平均値を授業総合満足度として算出したところ、全てのコースにおいて3.50～3.62を示した（表12）。これらのことから、本教室の全コースの受講生は、概ね授業内容や形式に満足していると考えられる。また、質問5の担当教員の熱意については、全コースで平均値が3.7以上と高い数値が得られており、本教室の教員が熱心に授業を行っていることに受講生から高い評価が得られていることが示唆された。

表12 コース別の授業内容に関する項目の平均値と標準偏差

	質問2 コースの 目標は明 確だった	質問3 授業のス ピードは適切 だった	質問4 講義内容は 分かりやす かった	質問5 担当教員は 熱意を持っ て授業を行 っていた	質問6 当該コース の授業を受 けて学習意 欲が高まっ た	質問7 当該コース の内容は自 分にとって 将来役に立 つと思う	授業総合 満足度 (質問2～ 7の平均)
初級コース	3.62 (0.62)	3.32 (0.73)	3.37 (0.57)	3.78 (0.49)	3.40 (0.62)	3.49 (0.57)	3.50 (0.40)
中級コース	3.52 (0.67)	3.46 (0.62)	3.51 (0.62)	3.75 (0.46)	3.41 (0.71)	3.49 (0.62)	3.52 (0.46)
上級コース	3.77 (0.42)	3.54 (0.69)	3.54 (0.69)	3.73 (0.44)	3.50 (0.75)	3.62 (0.49)	3.62 (0.50)
コース全体 の平均	3.59 (0.63)	3.41 (0.68)	3.45 (0.62)	3.76 (0.47)	3.42 (0.68)	3.51 (0.58)	3.55 (0.44)

また、質問8「授業の予習・復習に毎週どの程度の時間を使ったか」について、図7にその結果を百分率(%)で示す。初・中・上級のレベルによらず、「1～2時間」という回答が最も多く、受講者にとって、大きい負担にならない程度の予習・復習時間になっていると考えられる。一方、初級の受講者の場合、「2～3時間」という回答が28.1%、「3～5時間」という回答も18.3%であり、中級、上級より長い時間を予習・復習に使っていると言える。これは、初級コースにおいて、ひらがな、カタカナ、漢字、語彙、文法クイズ類が多く含まれていることから、受講者が中級、上級より長い学習時間を自分で確保する必要があるため、比較的長い学習時間を使っているという回答したものであると考えられる。

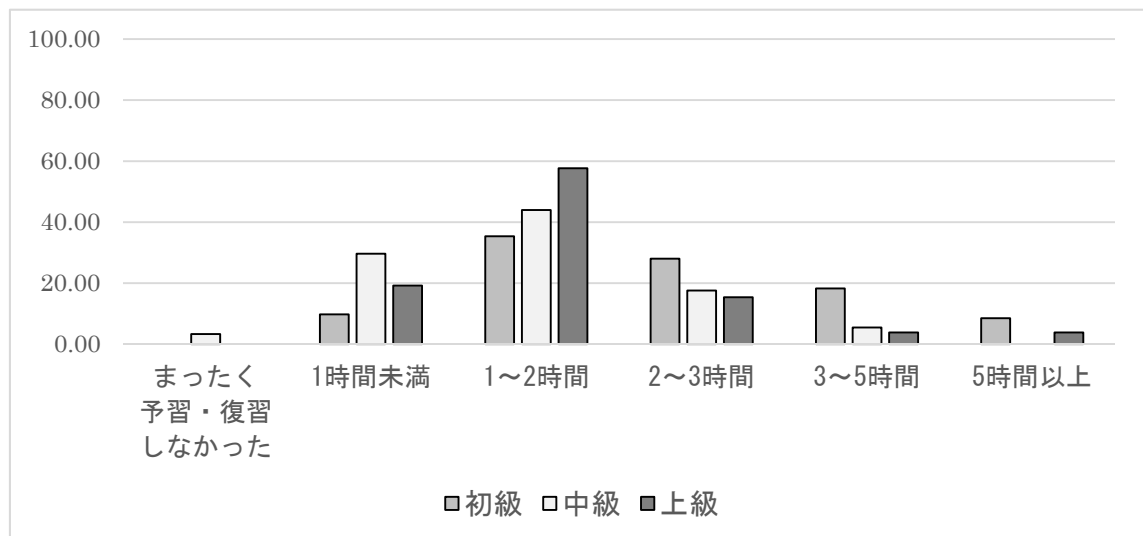


図 7 1 週間で授業の予習・復習に充てた時間 (%)

(2) 履修登録について

日本語教室で日本語学習をするためには、全員が必ず **STAR** システムに登録をしたうえで、プレイスメントテストを受験し、履修登録を行うことが必要である (2 章 3 節参照)。履修登録についての質問項目は 11～14 であり、本節では、これらのうち 4 件法で回答を求めた 11・13 の回答結果について述べる。質問 11「履修の手続きは分かりやすかった」(図 8) について、「そう思う」との回答が 57%、「強くそう思う」との回答が 36%であった。

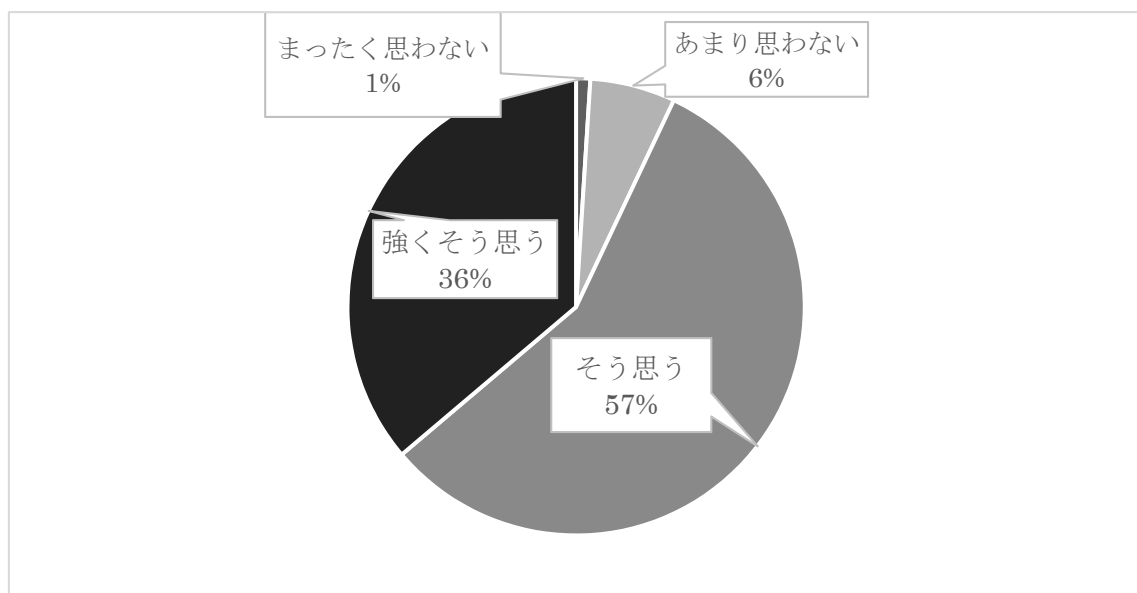


図 8 「履修登録の手続きは分かりやすかった」に対する回答が占める割合

また、質問 13「プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた」(図 9) についても「強くそう思う」との回答が 35%、「そう思う」との回答が 51%であった。以上のことから、受講生全体にみて、現状の履修登録およびプレイスメントテストの手続きによるコース選択は、概ね円滑にできていると評価していることが示された。

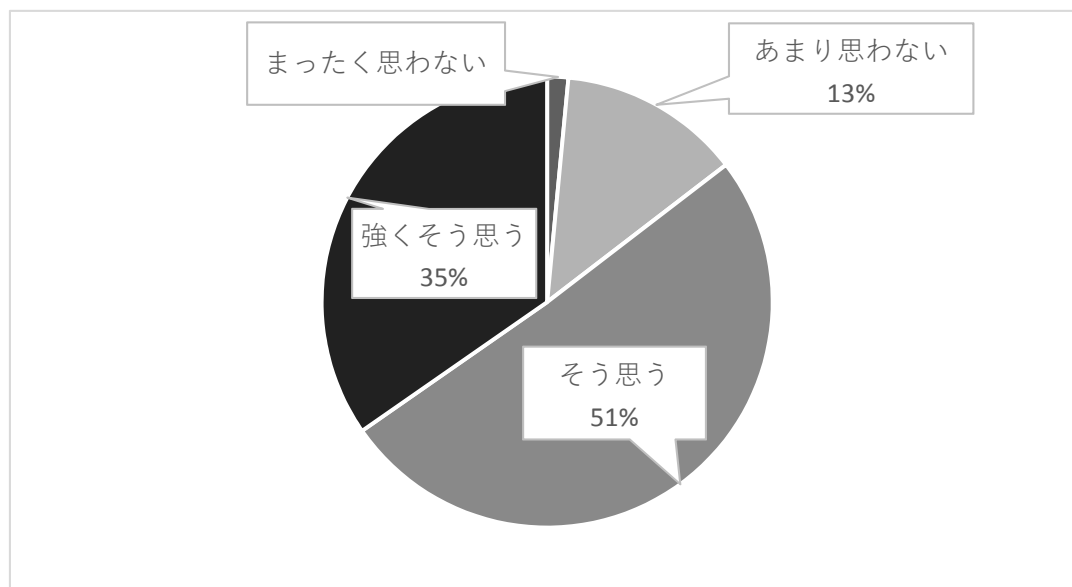


図 9 「適切なレベルのコースを履修することができた」に対する回答が占める割合
(3) その他

次に、日本語教室への期待と日本語ボランティアに対する評価、日本語チュートリアルについての認識についての結果を述べる。

初めに、日本語教室への期待について(質問 17)は、「日本語学習」「日本文化体験」「日本人学生との交流」「留学生との交流」「大学生活・就職などの日本語支援」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。その結果を図 10 に示す。

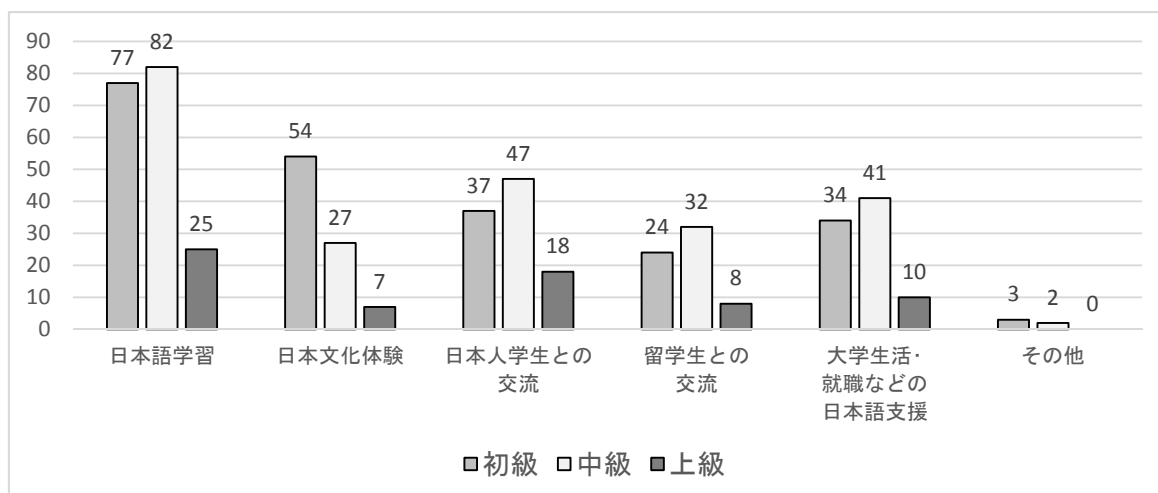


図 10 日本語教室に期待していること (回答例数)

図 10 に示されているように、全レベルにおいて「日本語学習」の回答数が最多であった。したがって、受講生は日本語レベルにかかわらず、日本語教室に対して「日本語学習」の機会や良質な授業の提供を最も期待していると考えられる。一方、その他の項目については、レベルにより期待する内容が異なることが示された。以下、レベル別にこのような結果が示された理由を探る。

まず、初級コースにおいて最も回答数が多かったのは「日本語学習」(77 件)で、次いで「日本文化体験」(54 件)「日本人学生との交流」(37 件)「大学生生活・就職などの日本語支援」(34 件)「留学生との交流」(24 件)の順に回答数が多かった。初級レベルを受講する学生には、来日して間もない留学生が多いことから、日本の生活に適応するために、自身の日本語学習とそれに対する支援の必要性を強く感じていることがあると思われる。それに加え、「日本文化体験」や「日本人学生との交流」についても期待しているという回答が得られたことから、日本語教室がこれまでに提供しているビジターセッションや International Lounge への参加を促すことで、こうしたニーズに答えることができると考えられる。

次に、中級コースでも最も多かった回答は「日本語学習」(82 件)で、「日本人学生との交流」(47 件)「大学生生活・就職などの日本語支援」(41 件)「留学生との交流」(32 件)「日本文化体験」(27 件)がそれに続く。中級レベルになると、すでに自分は基礎的な日本語でのコミュニケーション能力を身につけていると認識する受講生が、習得した日本語能力を「日本人学生との交流」で活かしたいと考えていると推測できる。さらに、「大学生生活・就職などの日本語支援」を期待するとの回答も多く得られたことから、アカデミックな場面やビジネス場面で応用できる日本語学習を希望していると考えられる。こうした学生に対しては、日本語教室で提供している中級以上の技能別クラスの中で、アカデミックな教材を取り上げている「聴解」「文章」クラスや、日本での就職活動を希望する学生に向けた「日本組織事情」クラスへの受講を促すことで、そのニーズに応えることができると考えられる。

さらに、上級コースにおいても、「日本語学習」(25 件)が最も多く、次いで「日本人学生との交流」(18 件)「大学生生活・就職などの日本語支援」(10 件)「大学生生活・就職などの日本語支援」(10 件)「留学生との交流」(8 件)「日本文化体験」(7 件)の順に回答数が多いという結果となった。上級においても、中級同様に、これまでの日本語学習の成果を「日本人学生との交流」を通して活かしたいというニーズがあると考えられる。また、上級レベルの留学生には、すでに長期間日本に滞在している留学生も多く、修了後も日本の企業への就職を希望するなど、定住志向が強い傾向があり、大学での研究生生活や就職のための日本語支援への期待が高いことが考えられる。

以上のことから、全レベルに共通する日本語学習のニーズに応える一方で、レベル別の期待に沿ったコース内容を検討していくことも必要である。さらに、これまで日本語教室が行ってきた日本文化体験や日本人学生・他国の留学生との交流活動、アカデミックやビジネス場面での日本語学習の支援を継続・拡充させていくことで、より受講生の期待に応えた学習

の機会や交流の場を提供することが重要であることが再確認されたと言える。

続いて、学生授業ボランティア（第4章4.1参照）の評価について述べる。学生授業ボランティアが授業に参加していた受講生88名に対する質問について結果を述べる。図11を見ると、「ボランティアが授業に入ってくれてよかったか」という質問に対して「強くそう思う」という回答が66%、「そう思う」という回答が25%であり、回答した受講生中90%以上が、学生授業ボランティアの授業における支援を高く評価していることが分かる。上述のように中級レベル以上の受講生に日本人学生との交流志向も高いことと合わせて考えると、今後も学生授業ボランティアの活動を継続し、留学生と日本人学生の交流促進のための支援の拡充を展開することが必要であると思われる。

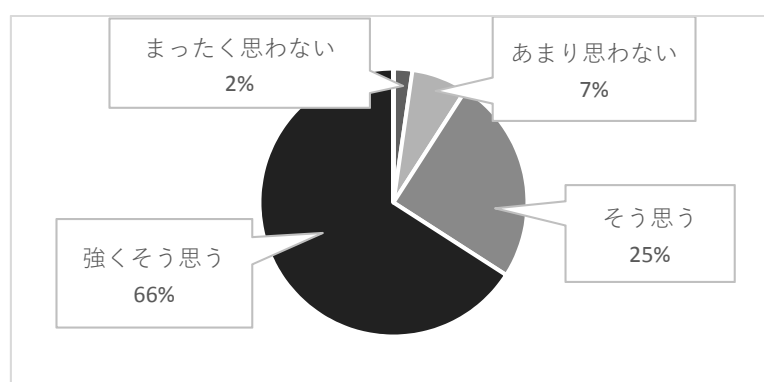


図11 「ボランティア学生が授業に入ってくれた」に対する回答が占める割合

2019A1A2のオンラインコース評価では、日本語チュートリアルについての認識に関する質問を3項目追加し（質問項目19、20、21）回答を求めた。

質問項目19では、「日本語チュートリアルがあることを知っていたか」について、「はい」「いいえ」の2択から回答を求めた。その結果、回答者全体（199名）で、「はい」という回答は93件、「いいえ」という回答が106件であり、約半数ほどの受講者が、日本語教室において日本語チュートリアルを提供していることを知らないことが分かった。質問項目20では、質問項目19で「はい」と答えた人で、チュートリアルに参加しなかった場合、その理由を「必要がなかった」「時間が合わなかった」「登録方法が難しかった」「その他」の中から、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。その結果を図12に示す。回答が得られた72件中、「必要がなかった」との回答が31件、「時間が合わなかった」との回答が27件であり、次いで「その他」「登録方法が難しかった」の順に回答が得られた。以上の結果から、今後、継続して日本語チュートリアルを行う場合、受講生に向けた広報方法の見直しや、現在の実施時間の見直しなどが必要となると考えられる。

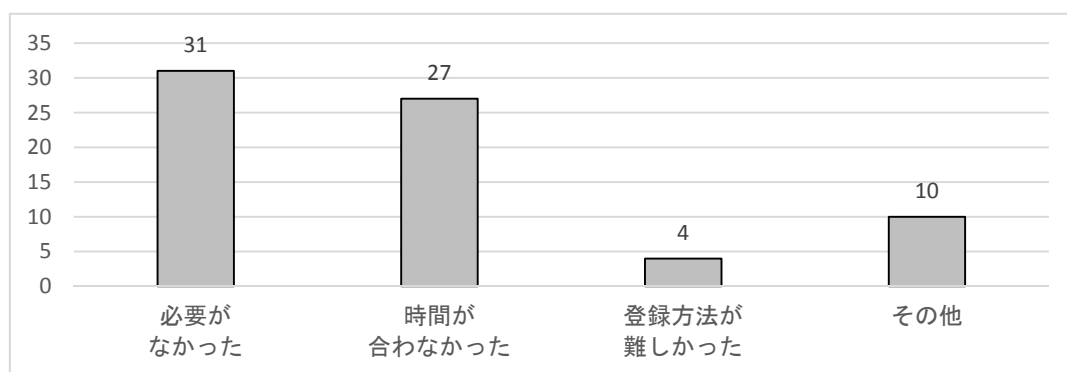


図 12 チュートリアルに参加しなかった理由（回答例数）

2.6.3. まとめ

以上のコース評価結果より、留学生は全レベルにおいて、概ね日本語教室の授業に満足し、日本語学習が彼らの日常生活および研究生活に貢献していることが分かった。また、授業に対する期待については、日本語のレベルが上がるにつれて、語学中心の学習から交流や文化体験・就職支援など、日本語教室に期待する内容が多岐にわたることが示唆された。

今年度のコース評価においては、実施期間を年末からに変更し、一斉メールを通したリマインドなどを行ったことにより、例年より多くの回答が得られた（2018 年度 A1A2: 85 名、2019 年度 A1A2: 199 名）。今後は、さらなる受講生のニーズをより詳細に把握するために、オンライン評価に加え、レベル別のインタビュー調査などを実施することも、有効な手法として検討したいと考える。

2.7 言語使用実態調査

日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンラインによる質問紙調査を実施している。2019 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

2.7.1 2019 年度 A1A2 言語使用実態調査概要

- 実施期間 : 2019 年 12 月
- 対象者 : 日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者
- 回答者 : 計 79 名
- 実施言語 : 日本語／英語
- 主な質問項目 : 1. 母語
2. 日本滞在期間
3. 修了後の進路
4. 日本語学習歴
5. 研究室での使用言語
- ・指導教員、日本人学生、留学生との会話
 - ・研究発表、打合せ、研究に関する資料
6. 指導教員から求められる日本語能力
7. 学生自身が目指す日本語能力
8. 日常生活で日本語ができなくて困ること

2.7.2 結果の概要

(1) 母語別学習者の割合

回答者の母語について尋ねた結果を図 13 に示す。

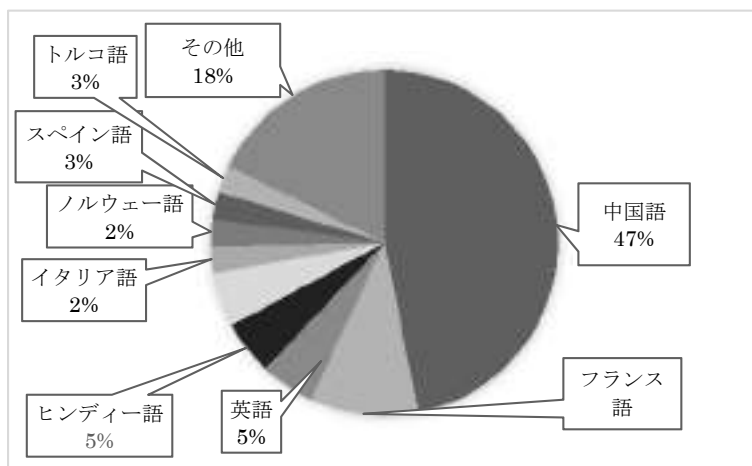


図 13 母語別学習者の割合

図 13 から分かる通り、今年度の母語別学習者割合は中国語母語話者が 47% と最も高い。ここ数年、中国語母語話者は常に半数前後を占めている状況が続いている。

その他の母語でも昨年度とほぼ同じ言語（フランス語、英語、タイ語）が出現しているなか、今年はヒンディー語

が新たに 5%を占めた。なった。本学は、2018 年からの文部科学省の委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」に取り組んでおり、インドおよび周辺国からの留学生の獲得に力を入れているため、今後もインドからの留学生が増えることが予想される。

(2) 日本の滞在予定

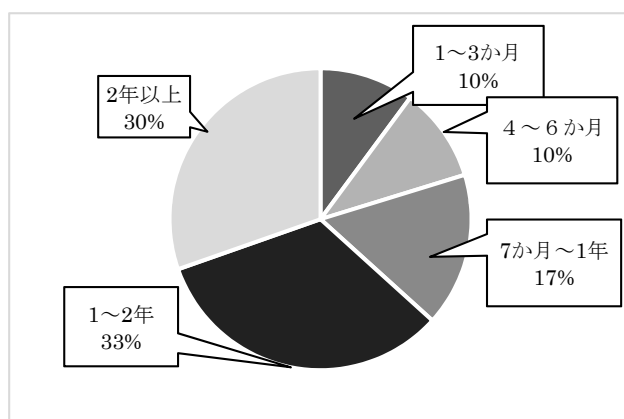


図 14 日本滞在期間（予定）

日本に滞在する期間（予定）についての回答のグラフを図 14 に示す。

滞在期間は、1～3 か月が 10%、4～6 か月が 10%となっており、半年以下の学生が全体の 20%を占めることが分かる。その一方で、2 年以上滞在予定の学生も 30%を占めており、昨年度に引き続き短期滞在の学生と長期滞在の学生の二極化が進んでいると考えられる。

短期滞在の学生は、短い間に多くのことを習得すること、特に母語話者のいる環境での発話機会が必要だと推測される。加えて交換留学生も多いことから、単位取得を希望する学生も多いと考えられる。一方、長期滞在の学生は、着実に日本語能力を身につける必要があると考えられる。

履修科目の登録期間中に行われるコンサルテーションでは、レベルやクラス選択についてアドバイスをすることが可能であるため、学生の滞在期間にも配慮してアドバイスをしていきたい。

(3) 修了後の進路

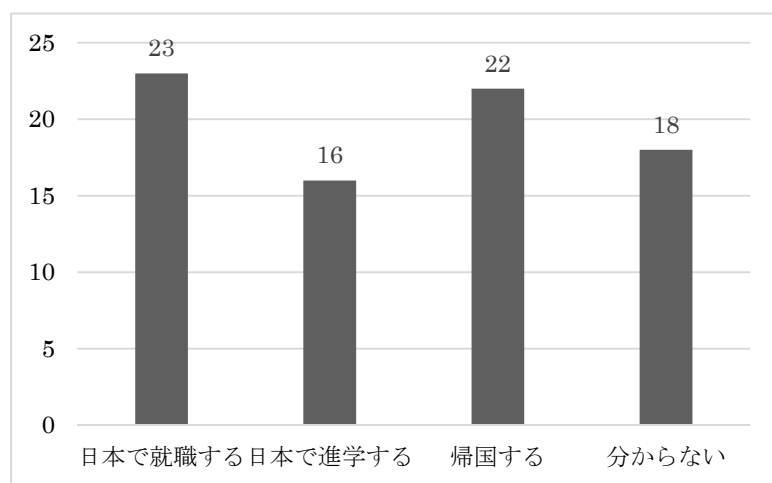


図 15 修了後の進路

図 15 は、2018 年度より新たに設けた修了後の進路について質問に対する回答である。

回答は、「日本で就職する」が 23 人と最も多く、次いで「帰国する」が 22 人、「進学する」が 16 人であった。「分からない」は 18 人であった。

東京大学工学系研究科全体の方針として、「キャンパスの国際化推進と海外からの研究者・留学生の環境整備¹⁾」を掲げている。昨年度では「帰国する」学生のほうが「就職する」学生よりも若干多かったが、今年度はわずかではあるが「就職する」が「帰国する」を上回った。今後の調査において「就職する」学生が増えるとするならば、学習者の学業修了後のキャリア形成も視野に入れたサポートおよび日本語教育を行っていくのが望ましいと思われる。現在、日本語教室では就職支援を目的とした「組織事情」科目の設置、チュートリアルでの個別対応をしているが、このようなサポートは今後も重要となってくるだろう。

(4) 母国での日本語学習歴

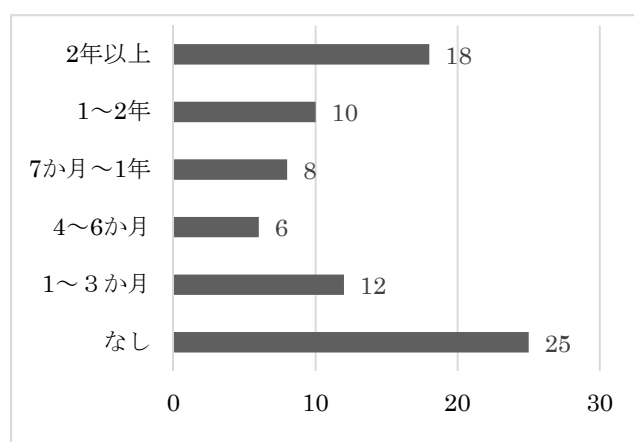


図 16 母国での日本語学習歴

2017 年度より母国での日本語学習歴を問う設問を設けている。今年度は 79 名中 25 名が「なし」と答えていた (図 16)。しかし、残りの 54 名、すなわち 3 分の 2 以上の学生は何らかの形で日本語を学習していることが分かる。また、図を見ると分かるように、「なし」か「1～3 か月」の学生が多い一方で、2 年以上の学生は 18 名、1 年～2 年の学生は 10 名と、ある程度母国で日本語を学んできた学生も多い。すなわち、

母国での日本語学習歴の経験は、大きく二極化していると言える。

ただし、昨年度も指摘したように、学習形態は学生によって様々で、教育現場においては、インターネットを使って独学で日本語を学習した学習者が年々増えている実感がある。

今後は、ゼロ初級の学生を対象とした教育整備を進めると共に、様々な学習形態および学習経験を持つ学習者に対応していく必要があるだろう²⁾。

(5) 研究室での使用言語

【研究に必要な言語使用の状況】

研究発表、打ち合わせ (ラボ・ミーティング)、研究に関する資料、の 3 パターンについて、言語使用状況を調査した (図 17)。比較のために、2018 年度の使用状況を図 18 に示す。

¹⁾ 「工学系研究科運営にあたっての基本方針 2017-2019」 http://www.t.u-tokyo.ac.jp/shared/about/data/setcmm_201806121752238828502866_846885.pdf (2020 年 3 月 13 日アクセス)

²⁾ 学習者の多様化に対応するために、学習歴が長く日本語能力が極めて高い学生を対象に、2020 年度より「上級 2 レベル」を新たに設置する予定である。

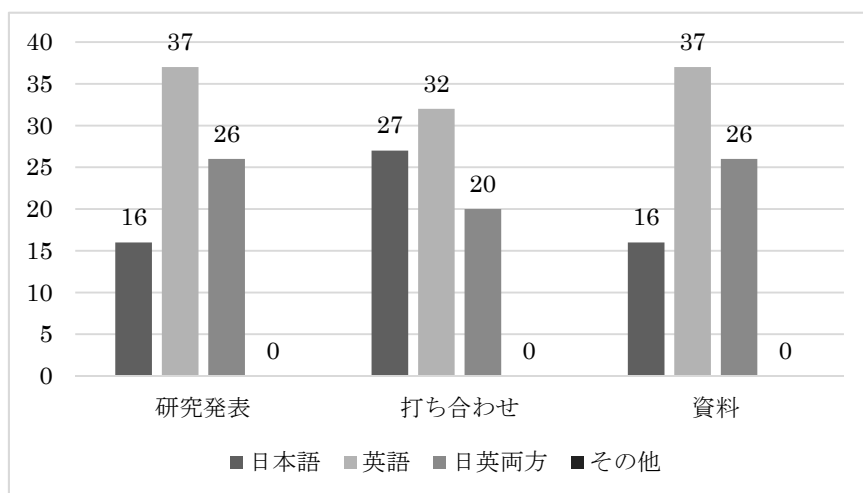


図 17 研究に必要な言語使用の状況（2019 年度）

今年度は、「研究発表」においては「英語」の使用が 37 名と多く見られるものの、「日本語」16 名、「日英両方」が 26 名と、日本語を使用する状況も少なからずあることが分かる。特に、「打ち合わせ」においては、「英語」が 32 人に

対し、「日本語」が 27 人、「日英両方」が 20 人と、日本語を使う「打ち合わせ」の比率が英語よりも高くなっている。また、「資料」においても、「日本語」と「日英両方」を合わせると全人数（79 名）の過半数を超えることから、研究に従事する上で日本語使用は必要不可欠になっていることが分かる。

この状況は、「英語」の使用状況が、著しく多かった 2018 年度とは異なる結果となっている（図 18）。

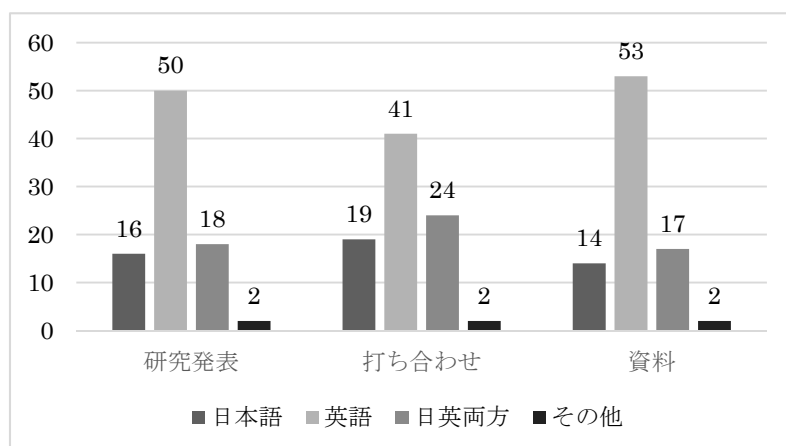


図 18 研究に必要な言語使用の状況（2018 年度）

研究に必要な言語使用の状況は、研究室ごとに大きく異なり、英語が優勢な研究室もあれば、日本語が優勢な研究室もある。そのため、調査結果は、調査実施時における学生の所属研究室の割合に左右されると推測される。来年度以降も調査を重ね、データを蓄積していく必要がある。

【使用言語と内容および話す相手の関係】

研究室内でのコミュニケーションにおける言語使用はいかなるものであるかについても調査を行った。研究室での使用言語のうち、内容を「研究に関する会話」と「雑談」の二通り、話す相手を「指導教員」、「日本人学生」、「留学生同士」の三通りに分け、計 6 パターンの会話場面において、日本語および英語の使用状況を比較した結果、概ね例年通りとなった

(図 19、20)。

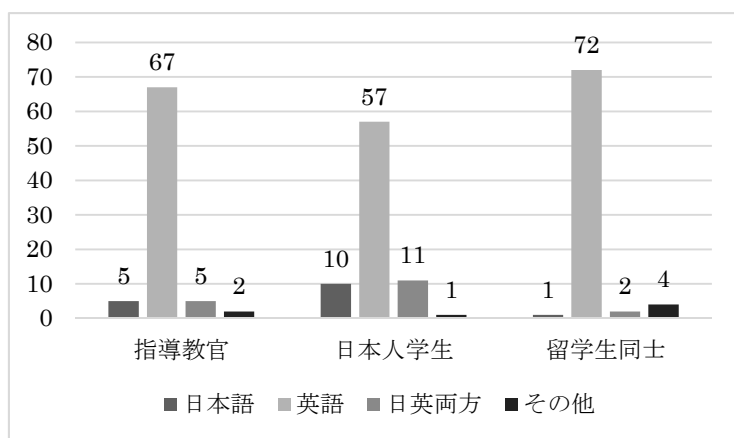


図 19 研究に関する会話

①研究に関する会話 図 19 に示すように、「研究に関する会話」においては、指導教官相手に 67 名、日本人学生相手に 57 名、留学生同士で 72 名と、圧倒的に英語の使用が多いが、日本人学生と話す場合は、「英語」の使用が若干減少し、その代わりに「日本語」および「日英両方」を使うことが若干増えることが分かった。

②雑談

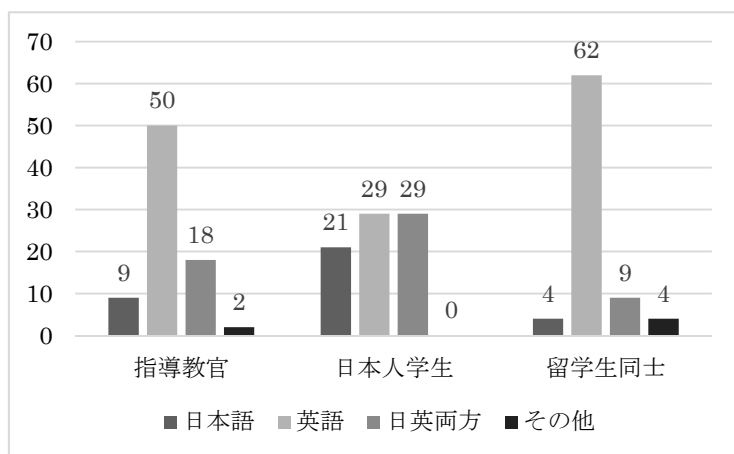


図 20 雑談

一方、「雑談」においては、話す相手いかんで、使用言語に異なりが見られた。相手が日本人学生の場合、「英語」の使用が 29 名にまで減少し、代わりに「日本語」21 名、「日英両方」が 29 名と、日本語を交えて会話する人数が増加することが分かった。相手が指導教官の場合も、「英語」の使用

が 67 人から 50 人と減少し、留学

生同士においては英語使用が微増しているが、相手が日本人学生の場合ほどの変化は見られない。

以上のことから、留学生の言語使用は、「日本人学生と雑談」する場合には、日本語の使用が目立って多くなることが分かった。理工学系の研究室に配属される留学生にとって、日本人学生とのコミュニケーションは極めて重要だと考えられるため、日本語の円滑かつ適切な運用を支えるような日本語教育が必要ではないだろうか。

(6) 求められる日本語能力・目指す日本語能力

指導教官から求められる日本語能力と、学習者が目指す日本語能力について、図 21 と図 22 に示す。

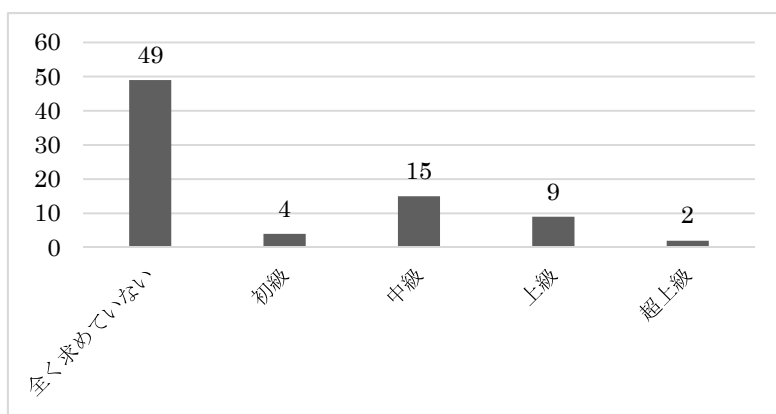


図 21 指導教官から求められる日本語能力

において日本語の使用状況が多い傾向はみられるものの、全体的には英語が使用できれば研
活自体には支障がない状況であることを裏付ける結果となった。

グラフからも分かるように、指導教官から求められる日本語能力は初級から上級までさまざまであり、「まったく求めていない」という回答の割合が半数以上を占めていた。(5)の研究室での使用言語の結果でも述べたように、「打ち合わせ」や「雑談」に

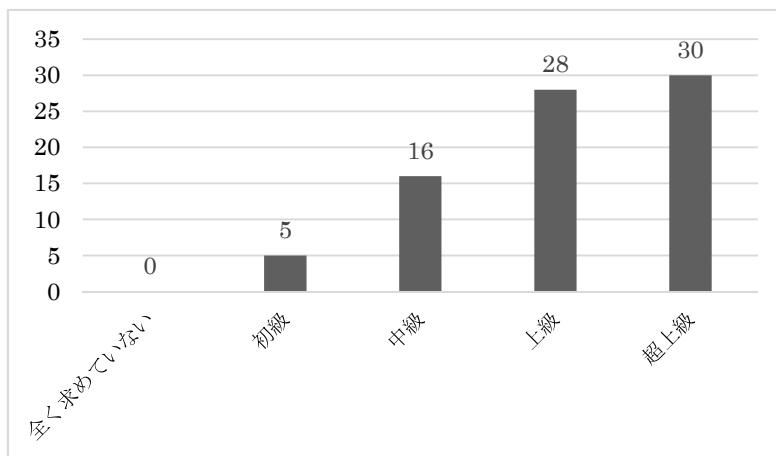


図 21 学習者が目指す日本語能力

だが、「あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか」という質問に対する答えを見ると、上級レベル・超上級レベルの合計が 79 名中 58 名となっており、昨年度に引き続き、8 割近くの学生が上級レベル以上の日本語能力を目指していることが明らかになった。

つまり、たとえ研究生生活において日本語がそれほど求められていない状況であったとしても、学習者はより高度なレベルの日本語を学びたいと望んでいるのである。教育現場においては、学習者が現在所属するクラスの到達目標を明示的に伝えること、場合によってはより高度な文法事項や語彙などを適宜提示することなど、学習者の知的探求心に答えられる業運営が必要かと思われる。

この結果を裏付けるように、「大学の中で（あるいは大学以外の日常生活で）日本語ができなくて困ること」を尋ねた質問（自由記述）では、さまざまなレベル・状況における回答が寄せられた。「大学内で困ること」については 22 人の記述があり、そのうち 17 人が、構内に英語の表記がないこと、国際交流関係の事務スタッフの中でも英語を使用しないスタッフがいること、研究室の機材の使い方の日本語が分からないこと、E-mail が日本語で書かれているため必要な情報にアクセスできない、など、研究生生活を行う上で基本的なサポートがいまだ不十分であることが指摘された。また、就職活動のための情報も日本語で書かれ

ていることの指摘も複数あった。「大学以外の日常生活で困ること」は41人の記述があり、病院やレストランに加え、携帯電話の契約という日常生活に欠かせない場面で日本語が分からない困難さを訴えていた。また、大学で日本語母語話者と話をする機会が少ないという記述も見られた。逆に、「英語が話せる同僚が助けてくれる」という記述もあったことから、受け入れ側の意識改善と、日本人学生およびスタッフの支援が留学生の生活にとって重要であることがうかがえる。

(3)の修了後の進路の結果からも、日本での就職を目指す学生が少なくないことも鑑みると、今後は、学習者のニーズを踏まえたうえで、日常生活でのコミュニケーションに特化した練習を授業内容に組み込んでいくことも検討の余地がある。

2.7.3 まとめ

今年度の言語背景調査からは、以下の傾向が見られた。

1. 中国語を母語とする学生（漢字圏の学生）の比率が高く、新たにヒンディー語母語話者の増加が目立った。
2. 3分の2以上の学生は来日前に日本語を学習している。
3. 学生の3割は、日本での就職を目指している。
4. 研究室での言語環境は、英語が優勢であった昨年に比べ、日本語の使用頻度が高かった。
5. 指導教官から求められる日本語能力に比べ、学習者の目指す日本語能力が高いことが分かった。大学内外でも日本語ができないと不利益を被る場面が多く存在することからも、学習者は日常生活においてより円滑なコミュニケーションを望んでいることが推測されるため、日本人学生およびスタッフ側の意識改善も必要である。

上記の結果に基づき、今後は、授業での漢字指導の方法や、学習者の来日前の学習スタイルの把握、特に独学で学んだために日本語の体系的な知識が不足している学生に対する指導、学生が日常生活で困難を感じている場面を極力減らしていけるような授業内容等を検討していきたい。

2.8 短期サマープログラム

日本語教室では、国際連携強化の観点から、短期サマープログラム（全学、提携校対象）に参加する留学生の日本語コースを開講している。今年度は、6月～7月にかけて、全学（Amgen Scholars Program, UTokyo Research Internship Program(UTRIP), Global Summer Program(GSP)）、提携校対象（Engineering Summer Education Program(ESEP), インドインターンシップ日本語講座、他）の各プログラムの参加者を受け入れ、授業を実施した。

各プログラムの日本語授業は、受け入れ前に Google Form を使ったアンケートによって参加予定者の日本語レベルを把握し、それに対応した準備をすることで、スムーズな授業運営を目指した。テキストは、Amgen, UTRIP, ESEP では、本教室で作成した短期プログラム用の教材を使用した。構成は次の通りである。

Lesson1 挨拶と自己紹介、

Lesson2 これは N です（場面：レストランで料理の名前を聞く）

Lesson3 これはいくらですか、～円です（場面：店でものの値段を聞く、数字）

Lesson4 N を V ます（動詞文）

Lesson5 N へ V ました（動詞文過去形）

Lesson6 V たいです、～は Adj です（い/な形容詞）

また、日本人学生を対象にボランティアをメールや授業での告知を通して募り、適宜授業に参加してもらうことで、留学生と東大の学生との交流促進を図り、東大へ関心の喚起と日本語学習への動機付けを目指した。

以下、各プログラムの概要と活動を報告する。

2.8.1 Amgen Scholars Program

(1)概要

実施期間：2019年6月12日～6月18日

時間：9:00～10:40

テキスト：短期プログラム用教材

参加者数：15名

日本語レベル：ゼロ～初級レベル

(2)活動内容

ゼロ～初級レベルの学部学生を対象に、日本での滞在に必要なフレーズを中心とした5日間の授業を設計した。テキスト及び板書も全てローマ字で統一し、ひらがな・カタカナは導入しなかった。内容と進度は以下の通りである。

	日時 教員	授業内容	教室
1	6/12 (水) 岩田 (常勤)	教室用語、あいさつ、ローマ字の長音表記の説明 Lesson1 自己紹介	722
2	6/13 (木) 岡 (常勤)	Lesson2 「これはNです」、「ここはNです」、 1 から 10 までの数	722
3	6/14 (金) 岩田 (常勤)	Lesson2 の復習「これは何ですか」、「～はどこ～ですか」 Lesson3 数字 1 から 90000 まで、買い物の表現「これはいくら ですか」	701
4	6/17 (月) 古市 (専任)	Lesson4 「かぶきを見ます」「ごご何をしますか」 歌舞伎について動画鑑賞	722
5	6/18 (火) 岡 (常勤)	Lesson4 の復習 Lesson5 「昨日かぶきを見ました」「たのしかったです」	722

事前アンケートである程度予測はしていたが、学生の日本語能力は、日本語の挨拶も知らないレベルから、ごく簡単な日常会話ができるレベルまで、かなりレベル差があった。だが、グループワークで既習者が未習者を助ける場面が見られるなど、レベル差があることで、プラスの教育的効果が出ていたと思われる。最終日には、歌舞伎鑑賞を始めとする都内観光や本郷キャンパス周辺のレストラン情報など、日本滞在での経験について日本語で伝えることができていた。

また、4 日間は、学生ボランティアが 2 名ずつ参加し、教員と共にグループワークの際の発話の確認、学生からの質問の対応などを積極的に行ってくれた。

(3)成果と課題

Amgen の受け入れは本年度が初めてであったが、受け入れ担当の国際交流課との連携もスムーズにいき、特に問題なく終了した。

8 週間の全日程のうち、日本語のクラスは 5 日間の午前中のみであり、留学生達は日本語のクラス終了後は各自受け入れ先の研究室に向かい、研究活動を行っていた。タイトな日程の中、留学生たちはよく日本語学習に励んでおり、習った表現を翌日には使いこなせるようになっていた。短い期間ではあったが、留学生および受け入れ先の研究室のニーズに合った授業設計ができたと思われる。

2.8.2 UTokyo Research Internship Program(UTRIP)

(1)概要

実施期間：前半：6 月 14 日～6 月 20 日 後半：6 月 28 日～7 月 4 日 (各 5 回)

前半クラスには、UTRIP の First crew、後半は Second crew の留学生が参加し、同じ内容を学ぶ)

時間 : 前半後半とも 17:00～18:30

テキスト : 短期プログラム用教材

参加者数 : 前半 5 名 後半 9 名 ボランティア 5 名

日本語レベル : ゼロ～入門

担当 : 宮瀬、米谷

(2)活動内容

内容と進度は下記の通りである。

回	実施日 (前半・後半) 担当教員	授業内容	教室
1	6/14 (金) 6/28 (金) 宮瀬 (非常勤)	教室用語、あいさつ、 Lesson1 自己紹介、L2 これは何ですか	88M
2	6/17 (月) 7/1 (月) 宮瀬 (非常勤)	Lesson3 「これはいくらですか」 数字 : 1 から 10000 「～が好きです」、形容詞導入	88M
3	6/18 (火) 7/2 (火) 宮瀬 (非常勤)	Lesson4 「～を食べます・飲みます」「～へ行きます・帰ります」	88M
4	6/19 (水) 7/3 (水) 米谷 (非常勤)	自己紹介、L1～L4 復習 Lesson5 「V ました・V ませんでした」	88M
	文化体験活動	浴衣の着付け、茶道体験	88L
5	6/20 (木) 7/4 (木) 宮瀬 (非常勤)	V 過去形復習 Lesson6 「～はどうでしたか・～かったです」 形容詞過去形 「～たいです」最後のスピーチ	88M

担当教員の記録によると、留学生は、非常に熱心に活動に取り組み、早いスピードで習得が進んだようである。最後のスピーチ活動では、一人ずつ日本語で書いた作文を音読したが、いずれも豊富な内容で素晴らしく、日本での生活を楽しんでいる様子がうかがえたとのことである。

(3)日本人学生との活動

このプログラムには、5名の日本人学生ボランティアが参加し、前半と後半に1回のクラスに1, 2名ずつ入って留学生の日本語学習をサポートした。1名を除いた4名は、本教室の「多文化理解プロジェクト」の受講生で、そのうち1名は多言語交流会 International Lounge (4章2項参照)のLanguage Assistantということもあり、いずれも留学生との交流に関心がある学生であった。授業後に留学生と誘い合って夕食に行くなど、教室を離れた交流もできたようである。

(4)文化体験活動

First crew と Second crew の留学生の滞在スケジュールが重なる時期を狙って、文化体

験活動を実施し、14 名が参加した。まず、浴衣の着付け体験、それに続いて自分でお茶を点てて味わう茶道体験を行なった。実際に浴衣を着たり、お茶を点てたりする体験を通して、知識を講義形式で学ぶだけでは得られない文化に対する理解の深まりがあったのではないかと思う。

(5)成果と課題

UTRIP の学生の受け入れは初めてであったが、担当教員の指導と日本人学生ボランティアの協力によって、充実した内容になったように思う。参加した留学生からは、「期間が短くて残念だった、もっと長い期間学びたかった」という声があった。UTRIP は、専門の研究活動が主となるプログラムであることから、日本語学習に充てられる時間には制限があるが、今後も参加した留学生が帰国してからも日本と本学に対する関心が持続するような内容にしていきたい。

課題としては、UTRIP 受け入れ担当の国際課推進室との連携を密にすることである。今回、UTRIP と本学の学生の交流会の情報を学生ボランティアから受け、国際課推進室に問い合わせ情報を周知する、ということがあった。今後は、連絡を密にすることで、情報共有に漏れがないようにしていく必要がある。

2.8.3 Global Summer Program (GSP)

(1)概要

実施期間：2019 年 6 月 25 日～2019 年 7 月 4 日

時間：1 限 9:00～10:40 2 限 10:50～12:30

テキスト：Basic Japanese for Students はかせ 1

参加者数：6 名

日本語レベル：入門レベル

単位：2 単位

担当教員：岡、金、猪狩、片岡

(2)活動内容

当該コースは、GSP の学生を対象とした入門コースである。参加者は、日本語を初めて学習することから、JLCSE の入門コースをもとにシラバスを作成した。学生に提示した授業内容とシラバスは下記の通りである。

Japanese Language Class, School of Engineering, University of Tokyo(JLCSE)

- Level: Introductory
- Period: 2019/ 06/ 25 - 2019/ 07/ 04
- Hour: 9:00 - 10:40, 10:50-12:30
- Room: 722

- Objectives : To focus on developing communication abilities, to learn basic sentence structures at the introductory level.
- Textbook : *Shinso-Ban Basic Japanese for Students Hakase 1 Ryugakusei no Nihongo Shokyu 45 Jikan*, 3A Network
- Evaluation : Classroom activity 10%, Assignments(including oral presentation) 20%, Vocabulary Quiz 10%, Mid-term exam 30%, Final exam 30%,
- Course will be completed if all the following requirements have been met: 1) Have attended more than 70% of classes 2) Have completed final exam and/or final assignment
- Letter grades for the entire course will be assigned as follows: A:80-100% B:65- 79% C:50-64% F:0-49%

Notes :

- 2 Credits will be acquired when you complete the course.
- Missing more than 30 minutes of each class is considered as an absence.
Arriving to class late or leaving class early 3 times will be regarded as one absence.
- The lesson contents, schedule and classrooms below are subject to change.

	date instructor	Lesson contents	Room
1	6/25(Tue) 岡(常勤)	Orientation , L1 (① Self-introduction ② Exchange greeting ③ Numbers) L2(Asking about names, nationalities, etc.)	722
2	6/26(Wed) 猪狩(非常勤)	Vocabulary quiz (L1,2) , L3(①Asking about the names of people and things ② Expressing possession), L4(Learning the non-past polite form of verbs: <i>masu</i> -form)	722
3	6/27(Thu) 片岡(非常勤)	Vocabulary quiz (L3,4) , L5(Asking and telling time), L6(①Describing coming and going ② Learning the past tense of polite form verbs)	722
4	6/28(Fri) キム(常勤)	Mid-term exam, Vocabulary quiz (L5,6), L7(Telling the date, month and year) L8(Talking about the existence of people and things)	722
5	7/1(Mon) 古市(専任)	Vocabulary quiz (L7,8), L9(Talking about the existence or location of people and things) L10(① Expressing reasons for actions ② Giving and receiving) L11(Learning the non-past polite form of adjectives)	722
6	7/2(Tue) 岡(常勤)	Vocabulary quiz(L9,10), L11(Describing things and states using adjectives) L12(Learning past-tense polite form of adjectives and nouns)	722
7	7/3(Wed) 猪狩(非常勤)	Vocabulary quiz(L11,12), L13(Expressing what you want), L14(Expressing preferences and skillfulness)	722
8	7/4(Thu) 片岡(非常勤)	Vocabulary quiz(L13,14), Final exam, Oral presentation	722

授業の進度は、1 コマ毎に教科書の一つの課を終わらせるように進めた。各課の終了後に語彙クイズを行い、学習した語彙が十分に定着しているかを確認した。また、中間試験・期末試験・期末発表を実施し、学習した文法項目を十分に理解しているかを確認し、学習内容を応用した口頭表現能力についても練習と確認を行った。参加者の背景は、National University of Singapore と Princeton University から派遣された学生で、シンガポールや中国、アメリカなどの出身であった。参加者の中には、ひらがな・カタカナが読める学生も1 名いたが、その他の学生において文字は未習であったため、当該コースにおいては、ひらがな・カタカナなど文字の導入は行わず、すべてローマ字を使用した授業を行った。参加者は、非常に熱心に授業に取り組み、試験や発表を含め、授業内外の日本語でのコミュニケーションにも積極的に取り組む様子が見られた。

(3)成果と課題

当該コースにおいて、参加者たちは非常に熱心に学習に取り組み、参加者 6 名全員がコースを修了することができた。また、短期プログラムでありながら、単位取得が可能であったことで、参加者たちにとって良い動機付けになったのではないかと考える。さらに、JLCSE において学習者数が多くないシンガポールやアメリカ出身の参加者を対象に入門コースを運営し、基礎日本語の学習を通して日本への関心や異文化交流を行うことができたことも成果として考える。一方で、当該コースは、約2 週間という短い期間の間に、通常入門コースで7 週間をかけ行うカリキュラムを実施する必要があり、カリキュラムが過密だったことで、参加者の負担も大きかった可能性がある。今後は、学習者の滞在期間などを考慮し、参加者の負担にも配慮したコース運営に改善する必要がある。

2.8.4 提携校対象プログラム

2.8.4.1 Engineering Summer Education Program (ESEP)

工学系の留学生を対象としたプログラムで、2 回の日本語授業への参加が希望とのことであった。事前のアンケートの結果、受講希望者の日本語レベルは、未経験者 14 名、入門レベル 6 名、初級前半レベル 5 名、初級後半レベル 3 名、中級後半レベル 3 名であった。そこで、未経験者対象にゼロ初級クラスを一つ設定し、他は、通常コースでレベルが合うクラスにそれぞれ 2 回参加してもらった¹。以下は、ゼロ初級クラスの報告である。

(1)ゼロ初級クラスの概要

実施期間：7 月 2 日、5 日 105 分の授業 2 回

テキスト：オリジナル教材：場面シラバス

L：1 自己紹介 L2：食事 L3：買い物 L4：日常生活の活動

参加者数：13 名

¹ 入門レベル 6 名は入門コース、初級前半レベル 5 名はインテンシブ初級 I、初級後半レベル 3 名は初級 4 と中級 1 総合を各 1 回、中級後半レベル 3 名は中級 3 総合に参加した。

(2)活動内容

工学系サマープログラムに参加した学生のうち、日本語未学習者 14 名を対象とし、東京大学に滞在中に必要なと思われるゼミでの自己紹介・挨拶、食事マナーと日本の食事、お土産の買物、日常生活における活動の表現を中心に練習を行った。L2 の食事場面では、宗教的に避ける食材の聞き方、L3 買物場面では聞き取れない言葉の聞き返しなど、会話ストラテジーについて指導した。クラスでは、活発で楽しく学ぶために、主にペアワークでインフォメーションギャップを用いた活動、インタビュー活動などの会話を中心とした日本語学習を行った。

(3)成果と課題

大学生活に必要な会話練習に中心だったこともあり、学習者は非常に熱心に学んだ。工学系研究科が提供しているサマープログラムの中で留学生同士が出会える最初の機会だったので、第 1 回目の自己紹介で全員の名前を覚え、友達なるタスクを行った。2 回目の授業では、全員が互いに名前呼び合い、クラスに一体感が生まれた。日本語を学ぶだけでなく、各国から集まった学生間のコミュニケーションを活発にすることも重要な本活動の役割である。この講義をきっかけに多様な文化背景の留学生同士が友達になり、学生間の活動が広がることは一つの成果だと言える。一方、時間的な制約が厳しいため、日本語を知るよい機会になったと思うが、日本語学習として限界がある。

2.8.4.2 インドインターンシップ・さくらサイエンスプログラム

(1)概要

実施日：5 月 14 日、6 月 24 日、12 月 19 日 いずれも 4 時間

テキスト：オリジナル教材

L：1 自己紹介 L2：食事 L3：買い物 L4：茶道

参加者数：インド工科大学生、大学院生 約 10 名

(2)活動内容と成果

インド工科大学を中心とした短期滞在インターンシップ生を対象とした日本語・文化講義である。この講義によって、インド人学生が日本語・日本文化に興味を持ち、東京大学でのインターンシップを有意義に過ごすための支援が目的である。

研究室で必要と思われる自己紹介、日常生活に必要な食事マナーと日本の食事、お土産の買い物に場面を絞り、会話を中心に練習した。前述した ESEP と同様、主にインフォメーションギャップを用いたペアワークの活動、インタビュー活動などを行った。L4 では日本文化を知る契機として、茶道に関する DVD を鑑賞し、各自が茶道を体験した。

この日本語講座と文化体験はインド人インターンシップ生が日本を知り、日本での留学生活を検討する上で貴重な機会になっているであろう。

2.8.4.3 JTRE（エネルギーシステムと都市のレジリエンス工学 日本トルコ協働教育プログラム：世界展開強化事業）

JTRE プログラムで来日した主に大学院生を対象に、日本およびトルコでの研究、インターンシップに際して必要な日本語の基礎やその背景にある日本文化・習慣の概念について講義した。日本語・トルコ語が膠着語である類似性を活かし、①言語や文化に対する理解を深めること。②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。③情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養うことを目指した。日本人教員とトルコ人教員が協働で講義を実施した。

(1)概要

実施期間：7月22日 9時~17時

テキスト：オリジナル教材

L：1 自己紹介 L2：食事 L3：買い物 L4：日常生活、L5：茶道

トルコ人教員のトルコ語による日本文化、日本日常生活についての講義

参加者数：イスタンブール工科大学、中東工科大学、ボアジチ大学の学部生・大学院生
22名

(2)活動内容

本プログラムの対象者は、約2週間大学でのインターンシップのために滞在する大学院生が主である。日本人教員による日本語講座は、対象者が大学で必要と思われる自己紹介、日常生活に必要な食事マナーと日本の食事、お土産の買い物、日常生活に必要な行動に場面を絞り、会話を中心に練習した。また、テキメン教授が日本語とトルコ語の言語比較、ならびに日本事情に関してトルコ語で講義を行った。さらに、茶道の文化体験を行った。

(3)成果と課題

日本語・日本文化事情に関するアンケートの最も多かった回答例として、「Japanese language courses were very helpful during my stay. I believe increasing the volume of the course would be even better.」とあるように、日本で過ごすために基本的な日本語学習は有効であったようだ。一方、1日の日本語、日本文化講義は時間的な限界があるため、学習者が希望しているように、講義時間の検討が必要であろう。

2.8.4.4 カリフォルニア工科大学（California Institute of Technology, Caltech）との交流会

本交流会は、日本企業でインターンシップをしている Caltech の留学生と東大生が双方

の大学に興味、関心を広げること、そして双方の日本語教室および大学間連携が深まることを目的としている。この交流会は今年度から COIL 型教育への拡大へと繋がった。

7 月 19 日に Caltech 主催のランチ会後に、東大に移動し、東大生が企画した交流会を行った。今年度は 1) 日本社会、歴史、東大の情報日本文化クイズ、2) 茶道と折り紙の文化体験、3) キャンパスツアーを行った。茶道と、折り紙の活動は、それぞれ東大の学生クラブの学生が指導してくれ、日本語教室と学生クラブが連携する契機となった。

第3章 日本文化事情・文化体験

3.1 S1S2 日本文化体験

(1) 生け花ワークショップ (5月15日)

「一葉式いけ花」の鈴木敦子氏を講師として招き、を招いて生け花ワークショップを開催した。薔薇や向日葵など、色鮮やかな花を学生達は思い思いのアレンジで仕上げていった。一輪の花が生け花によって静から動へと変わっていく様子を見ることは、学生達の貴重な体験となり、とてもリラックスしたひとときであった。



(2) 相撲部屋との交流 (6月5日)

毎年恒例となった尾車部屋との交流会も、今年で7回目となった。今年は、力士の野上豪規氏、天風健人氏、竜風良太氏、世話人の錦風真悟氏をお招きして、日本の国技である相撲を紹介していただいた。

質疑応答の後、股割り体験、四股踏み、相撲体験など、大きな力士達に負けじと学生達も大健闘するなど、終始笑い声に包まれた楽しい交流会となった。

最後は尾車部屋からたくさんの浴衣の反物を頂き、学生達に抽選で嬉しいプレゼントをすることもできた。



(3) 浴衣ワークショップ (6月26日)

ボランティアの方々にご協力いただき、毎学期大好評の浴衣ワークショップを実施した。

最近では浴衣を着て花火を見に行きたいという学生も多く、自分の浴衣を持っている学生もいた。当日は、男子学生も女子学生もまず真剣に柄選びをした後、帯の締め方に悪戦苦

闘しながら一生懸命に浴衣の着方を学んでいた。着付けが終わった後は記念の写真撮影会があちこちで開かれ、賑やかなワークショップとなった。



(4) 茶道体験 (7月3日)

茶道体験も、最近の「まっちゃ」の知名度の高さもあり、人気のイベントである。

参加した学生は、コーヒーや紅茶とはまた違った茶道の作法に少々緊張しながら、茶道の世界を楽しんでいた。限られた時間でのミニ茶会だったが、甘いお菓子の後にいただく自分で点てたほろ苦いお茶は、格別の味であったと思われる。「茶道の道具はどこで買えますか」という質問も出る等、この体験を機に茶道の世界に関心を持つ学生もいたようである。



(5) 七夕 (7月)

毎年日本語教室の廊下に飾っている七夕の笹に、学生達は思い思いのお願いごとをしたためた。

「試験に合格できますように」「彼女ができますように」「家族が健康で幸せに暮らせますように」といったそれぞれの思いを笹に書いていた。



3.2 A1A2 日本文化体験

(1) 華道ワークショップ (10 月 23 日)



一葉式いけ花の鈴木敦子氏を講師として招き、S1S2 学期同様、華道ワークショップを開催した。A1A2 学期では、これまでのような持参したマグカップではなく、ペットボトルを利用したエコな花瓶が用意された。赤、黄色、ピンクと美しい季節の花を剪定鋏を使って生ける留学生たちの目は真剣そのもので、出来上がりに大変満足した様子だった。

(2) 茶道体験 (11 月 6 日)



実際に自分でお茶を点てて飲む茶道体験を行った。毎年、留学生に大人気のイベントで、今年も多くが参加した。今回は東京大学茶道サークルの学生にご指導を依頼したことで、留学生と日本人学生との交流にもなり、これまでと違った場を提供することができた。定員 15 名の 2 セッションで行い、ぎこちないながらも茶筌を

振り、お茶を点てることを楽しんだ。この機会にお菓子やお茶のいただき方も覚えてもらい、自国でも自信を持ってお茶を振舞ってもらえたら幸いである。

(3) 着物体験 (11 月 27 日)

恒例となった着物体験を 11 月 27 日に実施した。シニアボランティアの方々の協力を得



て、女子学生 23 名、男子学生 22 名の着付けをしていただいた。着物はもちろんのこと、下駄、帯紐などの小道具にも興味深く手に取ってじっくり見ていたのが印象的だった。また髪形や足袋代わりの靴下を着物に合わせてコーディネートしている学生もいた。着付けの後は、例年通り全員でキャ

ンパスの銀杏をバックに写真撮影をした。雨模様であったが、撮影時は雨もやみ、通行人たちからもカメラを向けられていた。



(4) こけし作りに挑戦しよう！（12月11日）

授業ボランティア OB から日本語教室に提案があり、実現した新企画で、白木のこけしに各々が専用の絵の具を使って絵付けをし、世界に一つだけのこけしを作るイベントである。講師として、鳴子温泉の職人の方を招聘した。初めは、「こけしって何？」と戸惑い気味だった留学生も、次第に集中して一生懸命こけしの顔を描き、それぞれ個性のあるこけしが出来上がった。60名近くの学生が参加し、大変盛り上がったイベントであった。



(5) お汁粉体験（1月6日～10日）



日本語教室内では毎年、お汁粉を作って学生に振舞っている。お正月にお供えした鏡餅を皆で味わう「鏡開き」を学生たちに紹介し、日本の文化を実際に感じてもらえる良い機会となっている。「すごく甘い」と言いながらもお代わりをする留学生もいて、和気あいあいとした和やかな雰囲気の中、5日間でお餅5キロを消費した。

第4章 国際交流支援

日本語教室では、国際化推進の一環として、留学生に対する日本語力の涵養と日本文化理解だけでなく、留学生と日本人学生の相互理解やコミュニケーション能力の相互育成も一つの責務と捉えている。その立場から、日本人学生が「学生授業ボランティア」として日本語授業に参加する取り組み、および多言語交流会（International Lounge、旧 ICYou (International Cafe for You)）等の活動により、日本人学生と留学生の相互支援と交流の場を創り出し、双方のコミュニケーション能力の育成を目指している。

4.1 学生授業ボランティア

2012 年度冬学期から始まった学生授業ボランティア受け入れによる留学生の日本語学習支援の取り組みは、留学生、授業ボランティアとそれらに関わる教職員それぞれに気づきや学びをもたらしている。

(1) 募集方法

学生ボランティアの募集方法は二つある。一つは学内の体験活動推進チームの体験活動プログラムを通じての募集¹である。これは、4月に募集し、審査を経て決定した学生が A1A2 からボランティア活動を開始するものである。もう一つは、学内のポスターの掲示、ウェブサイト、ポータルサイト等からの発信を通して直接日本語教室から募集をかける方法で、通年での随時募集と受け入れを行っている。原則として、ボランティアの学生には、参加を決めたコースの授業になるべく毎回出席するように依頼しているが、意欲があっても継続的参加が難しい学生もいることから、2017 年度 A1A2 より、定期試験の時期に 1, 2 回参加する単発のボランティアも募集している。

(2) 活動内容

ボランティアは、授業担当教員の指示のもと、日本語学習の活動に留学生とともに参加し、会話練習、ペアワークをサポートするパートナーとして、あるいはディスカッション等で意見交換する対等なメンバーとして参加する。単発での参加の場合は、口頭発表準備のサポート、本番での発表に対するフィードバックといったことが任される。毎回、参加した日の活動内容と感想を報告書に記入し、学期終了後は、アンケートに回答してもらっている。短期プログラム（第 2 章 8 節参照）にも必要に応じて募集をかけ、サポートをお願いしている。

¹ 体験プログラムの日本語教室ボランティアは、2012 年以来、毎年 10 名前後を受け入れてきたが、ここ数年は若干少なく、2018 年度は 7 名、2019 年度は 8 名であった。留学生との対等で継続的な関係構築の意義を理解し、留学生とともに学ぶ姿勢があるかどうかを目安に審査しており、応募者は、原則受け入れるようにしている。採択された学生ボランティアの中には、学期途中で自己都合で継続できなくなる人もいるが、おおむね積極的に活動に参加しており、留学生からも好評である。

(3) 参加学生数の推移

次に示す図 1 は、ボランティアの参加者数の推移である。例年 S1S2 に比べて A1A2 が多いのは、先述の体験活動プログラムの応募者が参加するためである。昨年度は、参加学生数がやや減少したが、2019A1A2 では、増加に転じた。その背景には、前年度の 3 月に実施した国際交流合宿に参加した日本人学生や海外の大学が実施する日本語の授業にサポーターとして参加する体験活動プログラム（第 5 章 1 節参照）に参加した学生、また、2019S1S2 に「多文化理解プロジェクト」を履修した日本人学生等が留学生との交流や日本語学習支援に強い関心を持つようになり、学生ボランティアに応募してくれたこと等、日本語教室で実践している国際交流の様々な実践が繋がってきたことがある。

ここ数年、学期開始前にボランティアを希望する学生に向けて説明会を数回実施

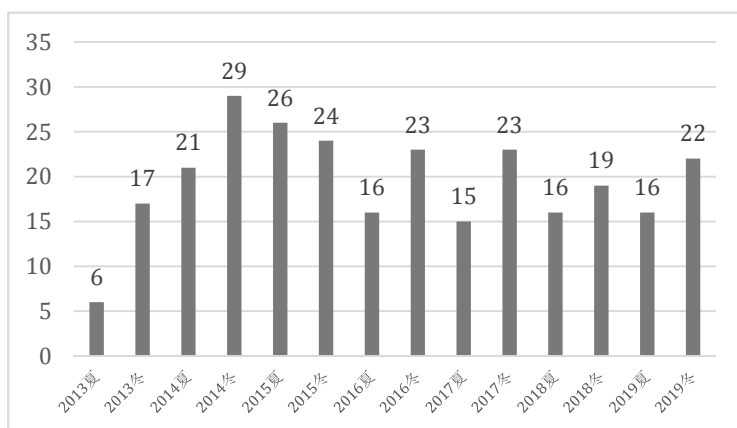


図 1 ボランティア数の推移 (単位:人)

し、各コースの授業内容の概要とボランティアの役割について知ってもらう説明会を開催し、内容の周知に努めている。

課題として、日本語教室から日本人学生へ直接アクセスするチャンネルが乏しいことがあり、

学内掲示のポスターやホームページ、教員や知人の紹介では、体験活動プログラムに関心がそれほどない（しかし、国際交流には関心がある）学生への周知に限界がある。この点を踏まえ、ここ数年、本学の学内における日本人学生向けの広報（工学系のメーリングリストや他の学内の国際交流関連の媒体等）を積極的に開拓している。

(4) ボランティア学生の背景

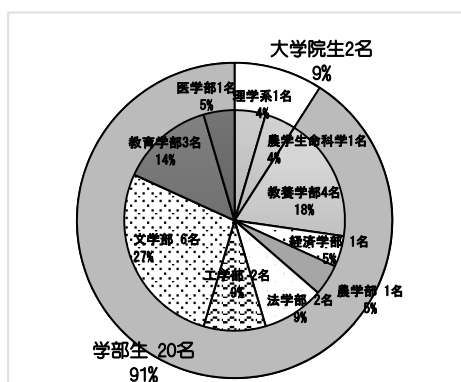


図 2 ボランティア学生の所属

2019 年度 A1A2 は、22 名の授業ボランティアが初級～上級の 18 コースの授業に参加した。大学院生と学部生のバランスは、昨年度同様、今年度も、院生が 2 名、学部生 20 名と、学部生の参加が大きく上回った。

図 2 は、それぞれの所属が占める割合を示している。今年度、院生は工学系以外の学生であり、学部生の場合も工学系は 1 割で、それ以外の多様な所属の学生が参加しているこ

とがわかる。

ボランティア学生の参加態度は、おしなべて熱心である。駒場キャンパスを学業および生活の本拠地としている学部生も、この授業ボランティアのために本郷キャンパスに来る労をいとわず、教室活動を通じた留学生との関係構築に努めている。

(5) アンケート結果

例年同様、各学期の終了後、アンケートを実施し、S1S2に7名、A1A2に12名より回答を得た。以下、回答で注目すべき点をまとめる。

留学生との交流については、S1S2ではほぼ全員、A1A2では75%が交流できたと回答している。コメントからは、授業での言語的、文化的な情報交換だけでなく、余暇に一緒に出かける等、教室外の交流もできていたようである。交流が不十分だった回答者の理由としては、時間的制約や自身の消極的な態度が挙げられている。

ボランティアを通して得るもの（発見や学び等）があったか、という問には、ほぼ全員が「そう思う」と回答している。母語である日本語を学習の対象としてみた時の発見は、多くの学生が指摘するが、そのほかに、相手に合わせて自分の日本語の話し方を調整する必要性、留学生の目を通した東大の在り様についての言及も見られ、多様な気づきが得られたことが窺われる。

留学生への貢献についても、ほぼ全員が貢献できていたと回答している。自分たちの世代でよく使われる表現の紹介や、大学生の生活に必要な情報の提供等を通して積極的に関わっていたようである。

4.2 多言語交流会 International Lounge (旧 International Cafe for You)

日本語教室では、2012年度より、留学生の日本語能力の涵養と学内の国際交流、多文化理解の促進、国際化推進を目的とした多言語交流会²を実施している。

2018年度までは International Cafe for You として開催してきたが、会場としてきた工学部11号館が2019年度に改修工事のため会場として使えなくなったため、同会場で金曜日に実施されてきた国際化教育センター主催の国際交流活動 (International

² 多言語交流会は、2012年度から2015年度まで、日本語を使って自由に会話する Japanese Lunch Table(JLT)として実施してきたが、2016年度より、多言語・多文化の交流により重点を置くことにし、使用言語を日本語から多言語にシフトさせた。これに伴い、名称も International Cafe for You (以下 ICYou)と改名した。JLTをICYouに改名したのには、次のような現状を踏まえ、多言語・多文化交流を活発にさせたい意図があった。2015年度までのJLTは、多忙な留学生と日本人学生たちが「日本語」で交流する場を提供してきたため、言語の面では一定の留学生参加者数を得ることができた。一方で、日本人学生の参加が少なく、「日本語」という制約のある言語環境では、英語を話したい日本人にとっては魅力がやや足りないことが窺えた。また、日本語初心者の留学生にとっては全て日本語で話すということは非常に困難であった。こうした背景を踏まえ、2016年度は、使用言語の制約を取り払い、さらに日本人学生の参加を促し、日本語学習歴が浅い留学生にも参加してもらえるような多言語・多文化交流の場に転換することとした。その結果、参加者は留学生、日本人ともに前年度より増加し、学期を通して一定数の参加が得られた。

Friday Lounge, IFL)と一本化し、2019 年度に下記の要領で実施した。

趣旨：リラックスした自由な雰囲気の中で、留学生・日本人学生がお互いの持つ言語的・文化的・社会的リソースを用いながら対等な立場で交流し、背景の異なる他者との相互理解のためのコミュニケーション経験を積む多言語交流の場を提供する。それによって、留学生と日本人学生が、各々の日常生活と学業生活の充実につながるネットワークやコミュニティ（仲間づくり）を生み出せるようになることを目指す。

名称：International Lounge (IL)

主催：工学系研究科国際工学教育推進機構

運営：国際化教育センターおよび工学系日本語教室

協力：グローバルキャンパス推進本部

開催日時：週1回金曜日 12:10～13:10

2019S1S2 2019年4月12日～7月26日

2019A1A2 2019年10月4日～2020年1月24日

場所：学生交流広場（理学部1号館東棟 Go Globalセンター内）

Language Assistant(LA)³に関しては、参加者間を取り持つファシリテーターとして、また、運営側と参加者の橋渡しの役割を果たす存在として重要であるという認識から、IL でも留学生と日本人学生に担当してもらうこととし、2019 年度は、留学生 3 名、日本人学生 2 名を採用した。

業務は、国際化教育センターと業務を分担して実施した。2019 年度の通常の活動は、S1S2 に 15 回、A1A2 に 15 回実施した。イベントは、S1S2 は歓迎パーティー（4 月）、七夕、学期末パーティー（7 月）、A1A2 は歓迎パーティー、ハロウィン（10 月）、白玉カフェ（11 月）、ハッピーホリディパーティー（12 月）、学期末パーティー（1 月）を実施した。

参加人数は、S1S2 に平均 32 名程度、A1A2 に、平均 29 名程度が参加しており、昨年度に比べると大幅に増加している。

2020 年度は、再び工学部 11 号館 2 階を会場とするが、実施形態は、今年度と同様に国際化教育センターと共催で International Lounge として週 1 回金曜日に実施する予定である。

³ 2013 年以前は、特定の学生に Language Assistant(賃金報酬有)として、ファシリテーター的な役割を果たしてもらっていたが、ICYou の趣旨が、参加者が互いに「対等」な立場で出会う場を作ることであることから、2013 年度以降は、採用しないできた。しかし、準備、設営等を担当する LA が必要になり、2017 年度より 3 名の日本人学生(いずれも学部生)に依頼し、賃金報酬有で参加してもらった。また、特別行事に際しては、この 3 名に企画運営と当日の留学生と日本人学生の関係作りのサポートに関わってもらった。いずれの LA も積極的に活動に取り組み、一定の成果を出すことができたと考える。

第5章 海外協定校とのネットワークの構築と連携

現在、東京大学大学院工学系研究科では世界各国の約 100 大学（部局間も含む）と研究者および留学生の交流を推進する協定が締結されている。日本語教室では、海外協定校と支援ネットワークを構築し、連携を深めている。2019 年度は、下記の通り、体験活動プログラム、世界展開力強化事業、工学系サマープログラム日本語・日本文化講義支援を実施し、工学系研究科、東京大学の国際化教育に協力、支援をしている。

1. 体験活動プログラム：日本語教室が主催し、日本人学生の国際総合力の育成、海外協定校日本語教室の学生の日本語学習の促進と日本文化体験を目的とした交流プログラムを企画・実践している。
 - ・ミュンヘン工科大学での体験活動（2019 年 9 月 11 日～18 日）＊新規
 - ・インド工科大学 Kanpur 校での体験活動（2020 年 2 月 24 日～3 月 3 日）、共同研究
2. 世界展開力強化事業：
 - ・トルコ世界展開強化事業の一環として日本語・日本文化講義支援、共同研究
 - ・米国世界展開強化事業：「日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム」における国際化教育の企画、実践
3. 工学系サマープログラム日本語・日本文化体験の実践
4. 協定校とのネットワークの構築：
 - ・来訪者：カリフォルニア工科大学の平井律子氏、MIT の相川孝子氏、インド工科大学 Kanpur 校の Vatsala Misra 氏、アンカラ大学の Aysenur Tekmen 氏
 - ・訪問校：KTH、インド工科大学 Kanpur 校、アンカラ大学、カリフォルニア工科大学以下、体験活動プログラムならびに世界展開強化事業に関して詳細を記す。

5.1 体験活動プログラム

体験活動プログラムとは、東京大学の学部学生が、今までの生活と異なる文化・価値観に触れるプログラムで 2012 年度より実施されている。新しい考え方や生活様式を学び、「知のプロフェッショナル」に必要な基礎力である、自ら新しいアイデアや発想力を生み出す力を身に付けることが目指されている。（体験活動プログラム PR 用パンフレット、<https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/students/special-activities/h19.html#10>）

日本語教室では、今年度、海外協定校であるミュンヘン工科大学（TUM）とインド工科大学（IITK）で体験活動プログラムを実施した。

5.1.1 ミュンヘン工科大学における体験活動プログラム

今年度、ドイツのミュンヘン工科大学（Technische Universität München, 以下 TUM）の日本語教育プログラムコーディネーター、宮山麻里枝氏の協力を得て、新規に「ミュンヘ

ン工科大学での国際交流体験活動」を9月11日～18日の一週間にわたり実施した（表1参照）。本体験活動は、TUMにおける日本語サポート活動および交流ワークショップを通してグローバルな視点を獲得するとともに、TUMのキャンパスや企業見学により、ドイツにおける教育と教養、経済活動の一端を知る機会を得ることを目的とするもので、8名の学部学生が参加した。表1に、スケジュールの概要を示す。

表1 ドイツ体験活動プログラムのスケジュール

日程	活動内容
9月11日(水)	ミュンヘンの宿泊施設に集合
9月12日(木)	ガーヒングキャンパス見学、ビール醸造所見学、ヴァイエンシュテファンキャンパスの分子生物工学研究室見学
9月13日(金)	TU 日本語教育プログラムコーディネーターの宮山氏によるセミナー、日本語授業サポート、企業見学（東レ）、東大OBとの会食
9月14日(土)	TUMと東大の学生でグループに分かれて自由行動
9月15日(日)	ホームステイ（宿泊）
9月16日(月)	日本語授業サポート、交流ワークショップ、本部キャンパス見学、お別れパーティー
9月17日(火)	自由行動後、ミュンヘン出発
9月18日(水)	帰国

(1)実施前の準備

参加学生8名と、オリエンテーションおよび打合せを2回、下記の通り行った。

- ・6月4日（オリエンテーション）：概要説明、役割分担とワークショップのグループ分け等
- ・7月8日：TUMの学生との週末プラン作成、日本語授業サポートのガイダンス
- ・8月15日：宮山氏が監督した映画「赤い点」鑑賞会、ワークショップの進捗報告

(2)プログラム中の主な活動

①日本語授業サポート：ゼロ初級と初級前半の授業に会話活動のパートナー等として参加した。

②TUMの学生との交流活動

- ・交流ワークショップ：日本とドイツの「大学入学までのプロセス」「大学生活」「卒業後の進路」について、東大生とTUMの学生がそれぞれグループに分かれて英語で発表し、質疑応答を行った。
- ・混合グループでの自由行動：体験活動開始前に東大2名TUM2名のグループに分かれて作ったプランに沿って自由行動（美術館、音楽鑑賞、建築巡り等）し、交流を深めた。

③企業見学：ミュンヘン郊外の東レの「オートモーティブセンター欧州」を見学し、東レの方に欧州における日本企業進出の戦略について話を伺った。

④宮山麻里枝氏のセミナー：映画監督からドイツで日本語教育者に転身した経験を踏まえ、海外における女性のキャリア形成とライフプランについて話していただいた。

(3)成果（参加学生のアンケートから）

- ・国際交流の意義：小グループの自由行動とワークショップを通して、TUM の学生との密な関係構築と文化的な情報交換が非常にスムーズになされたようである。来日した TUM の学生と連絡を取り合う等、現在も交流が続いているとのことである。
- ・留学や海外で仕事することに対する関心の高まり：宮山氏のセミナーや東レの見学、東大 OB との会食などを通して、海外で働く人のさまざまな生き方や考え方に触れることができ、大いに刺激を受けたようである。

5.1.2 インド工科大学における体験活動プログラム

インド工科大学 Kanpur 校（Indian Institutes of Technology Kanpur、以下 IITK）での活動を中心とした「新興国インドでの体験活動-インド赤門会との交流・IITK 日本語授業サポート」を 2 月 24 日から 3 月 3 日まで実施した（表 2 参照）。この体験活動では、4 年前から IITK の日本語教室の教員である Vatsala MISRA 氏、ならびに東京大学インド事務所長 Neelam Ramaiah 氏のご協力を得て実施している。

この体験活動では、インドで既成概念にとらわれない、チャレンジ精神を養うことを目指した。IITK での授業参加・日本語授業サポートを通じた学生交流により異文化を理解・尊重するグローバル意識を育てる機会を提供し、企業訪問およびインド赤門会の先輩諸氏との交流によってインドにおけるキャリア形成について学ぶ機会を提供した。今年は 7 名の学部学生が参加し、IITK 内のゲストハウスに宿泊した。

表 2 インド体験活動のスケジュール

日程	活動内容
2 月 24 日	デリー空港に集合、Delhi から Kanpur へ移動
2 月 25 日	IITK キャンパスツアー、オリエンテーション、 日本語講義：各グループでプレゼンテーションの準備、書道体験
2 月 26 日	IITK 内 2 つの小学校訪問（折り紙指導、PPT で日本紹介）、研究室訪問 日本語講義：各グループでプレゼンテーションの準備、茶道体験
2 月 27 日	IITK 外の小学校訪問（折り紙指導、PPT で日本紹介）、イスコン見学 日本語講義：4 グループのプレゼンテーション
2 月 28 日	お寺見学、Kanpur 市内見学 日本語講義：4 グループのプレゼンテーション
2 月 29 日	インド文化体験（クリケットなど）、セミナーの実施
3 月 1 日	タージマハルとアグラ城見学 Delhi に移動
3 月 2 日	住友商事・工場見学、Delhi 市内見学
3 月 3 日	帰国

(1)実施前の準備

オリエンテーションは全4回、下記のとおり行った。

- 1) 第1回(6月27日): 概要説明、自己紹介など
- 2) 第2回(11月25日): 加藤隆宏准教授(東京大学大学院人文社会系研究科)の「インド文化」についてのご講義、役割分担
- 3) 第3回(12月17日): インドに関する情報共有(学生のプレゼン)、インド人学生との交流、COILについてのガイダンス、Vatsala MISAR氏参加
- 4) 第4回(2月14日): COIL型教育実践の確認、IITKでの活動の最終確認

これまで2回のインド体験活動を通して、双方の教員はSNSなどを用いた活動前のコミュニケーションがIITK訪問時のコミュニケーションを容易にし、より効果的な結果に繋がるだろうと考えていた。そこで、今年度はCOIL「Collaborative Online International Learning、以下COIL」を取り入れた。COILとは、SNSなどを用いて、海外大学の学生と協働で学ぶ教育実践の方法である。事前活動は、1月10日から2月14日まで約6週間SNSを利用して行った。IITKの学生と東大の学生が5つのテーマから1つを選択し、グループごとに議論を重ね、IITKで両大学の学生が調査結果をまとめ、発表を行った。IITKでは日本語科目の時間内にMisra氏のご指導の下で実施し、東大では、毎週実施結果をメールで教員に報告した。

(2)プログラム中の主な活動

①日本・インド文化に関するプレゼンテーション

COILで議論をしてきた結果をグループごとに2日間でPPTにまとめ、日本人学生は英語で、インド人学生は日本語で発表した。初級日本語レベルのインド人学生が、日本人学生とのコミュニケーションをとおり、日本語の表現を学んだ。また日本人学生もインド人学生とのコミュニケーションや英語での発表をとおり、英語力の向上に繋がった。

②日本文化紹介

書道では、漢字の成り立ちとその書きかたを説明し、グループごとに書道体験をした。茶道では、茶道のマナーと日本文化の関係を説明し、一人ずつ茶道のお点前を行った。おにぎり体験では、日本の食文化とインドの食文化を比較し、インド米と日本米でおにぎりを作った。また日本映画の上映会を実施した。

③3つの小学校訪問、カンパール市内見学

IITK内にある対象が異なる2つの小学校と学外の小学校を見学し、折り紙を折ったり、歌を歌ったりして、小学生と交流した。また、学生が作った日本紹介ビデオを小学生の子供たちと鑑賞した。

カンパール市内にあるイスコンやお寺を見学した。

④タージマハル、アグラ城の見学

宗教建造物を見学し、インドの歴史、文化に触れた。

⑤リサイクル工場の見学

住友商事株式会社事業会社 MKI でリサイクル工場の見学を行い、日本人社員との交流会を行った。

(3)体験活動の成果

①インド文化・日本文化理解の促進

事前活動におけるコミュニケーションおよび実際にインド文化やインド人学生に直接触れる4日間の活動をとおして、インド文化理解が深まった。一方、インド人学生からの質問に回答する過程で、日本文化を見直す機会になった。こうして、インドおよび日本文化を相対化し、客観的に理解する機会に繋がった。

②異文化コミュニケーション能力の向上と言語学習の動機づけ

IITK 内のゲストハウスに宿泊した日本人学生と学内寮に住んでいる IITK の学生は、寝る時間以外は活動を共にしていた。短期間ではあったが、インド人学生との濃密なコミュニケーションによって、異文化コミュニケーションの向上を認識すると同時に英語学習の動機づけにもなったようである。

③日本語教室の連携強化

IITK および東大の連携強化に繋がったことも体験活動の成果と言えよう。今回は2月29日に日本語教室が「OPPORTUNITIES FOR HIGHER EDUCATION AND WORKING IN JAPAN」セミナーを主催した。ここで東大の国際化の取り組み、日本語教室の活動を IITK の国際教育関係の教員をはじめ、IITK の学生に発表し、今後の連携について議論した。

5.2 世界展開強化事業における日本語教育支援

5.2.1 トルコ世界展開強化事業

2015 年に採択されたトルコ世界展開強化事業「JTRE：エネルギーシステムと都市のレジリエンス工学日土協働教育プログラム」は、今年度が採択事業最終年度である。その総括として、7月に5大学共催によるシンポジウムが東京大学山上会館で開催された。日本語教室では、トルコの協定校から22名のインターンシップ生を受け入れ、アンカラ大学の Aysenur Tekmen 教授とともに日本語講座および文化体験（茶道）を実施した（詳細は2章を参照）。9月にテキメン教授とトルコ第4回日本語・日本語教育・国際シンポジウムに参加し、共同研究の結果を口頭発表した（詳細は6章1項を参照）。

5.2.2 米国世界展開強化事業

2018 年度東京大学は、米国世界展開強化事業として、「日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム」が採択された。2019 年度、日本語教室は、カリフォルニア工科大学（Caltech）の平井律子教授の協力を得て、日本語学習者と

主に東京大学工学部の学生を対象とした Collaborative Online International Learning (以下 COIL) を活用した PBL (project/problem based learning) 型授業を実施することとなった¹。参加者は、東大生から 5 名 (学部 4 年生 3 名、修士 1 年生 2 名)、Caltech から 6 名 (学部生 5 名、博士 1 名) であった。なお、今年度における本実践は単位化を伴わないパイロット授業とした。

表 3 は、当初予定していた授業の概要である。目的は、映画やドラマなどの動画を素材とし、日英の文化比較を行うことにより、異文化理解能力を深め、協働作業を通じて問題解決能力を高めることとした。具体的には、東大の学生がまず Caltech を訪問し、合同授業および学生間交流を行うことによって、チームを編成し、調査の企画書を共同で作成する。その後、約 6 週間インターネットを利用して Caltech の学生と東大の学生が調査の結果をまとめ、最後に、Caltech の学生が東大を訪問し、両大学の学生が課題をまとめた発表を行う。

以上の活動を予定していたが、2020 年 1 月以降新型コロナウイルスの感染が深刻化し、日米間の移動の制限が厳しくなったことをふまえ、3 月の Caltech の学生の東大訪問を中止し、最終発表のみオンライン会議の形態で行った。他の活動 (表 3 網掛部分) は、延期することとした。

表 3 東大・Caltech の Coil を活用した PBL 型授業の概要(実施前の予定)

日程	活動内容
2 月 4 日(火)	Caltech にて、キャンパスツアー、学生同士の交流
2 月 5 日(水)	Caltech にて、ミニ講義①、合同授業の実施、チーム作り、企画書作成作業
2 月 6 日(木)	Caltech にて、ミニ講義②日本語授業サポート、学生同士の交流
2 月 7 日(金)	平井教授自宅にて、学生同士の文化交流 インターネットを利用して、チームごとに企画書を作成する
2 月 14 日(金)	企画書提出 → 再提出のチームは修正作業を行う インターネットを利用して、チームごとに活動する
2 月 27 日(木)	オンライン中間報告、中間報告書提出 インターネットを利用して、チームごとに活動する
3 月 24 日(火)	東大にて、キャンパスツアー、最終発表の準備 ※
3 月 25 日(水)	東大にて、最終発表、懇親会 ※
3 月 26 日(木)	学生同士の交流 (日帰りバス旅行) ※
3 月 27 日(金)	学生同士の交流 (都内観光) ※

※最終発表はオンラインで実施、他の活動は延期する予定である。

(1)実施前の準備

1 月下旬に説明会を実施し、本授業の概要を説明した。本授業のテーマが「比較文化」であることから、「文化」についての定義を学生に行ってもらい、異文化コミュニケーション学において基本的なモデルである「冰山モデル」「島モデル」を紹介した。また、協働学習

¹ 授業内容は次の研究を参考にした。伊集院郁子・岡葉子 (2019) 『『多文化間協働プロジェクト』実践報告』東京外国語大学留学生日本語教育センター(45), pp.283-297.

とグループワークの違いについて話しあい、実際に数名でタスクを行う体験を実践してもらった。

(2)実施した主な活動

①ミニ講義：東大の学生を対象に、異文化コミュニケーションの基本的な理論について、インタラクティブな活動を取り入れながら、説明した。

②合同授業：2月6日に Caltech の日本語の授業で合同授業を実施した。アイスブレイキングや自己紹介を通じて、学生同士の相性などを観察し、チーム編成を行った。最終的に2人×4チーム、3人×1チームの計5チームを編成し、チームごとにテーマ設定と企画書作成という課題を課した。

③日本語授業サポート：Caltech の日本語の授業に東大の学生が参加し、Caltech と東大生でペアを作り、新出語彙の意味について日本語と英語で確認した。

④中間発表：2月27日（木）に東大と Caltech 間でスカイプを用いた同期型共同授業を実践した。各チームでこれまでの進捗状況を説明し、教員からコメントを出した。チームごとに中間報告書を提出した。

⑤最終発表：3月26日（木）9：00～11：45（Caltech は25日（水）17：00～19：45）に Zoom を用いた同期型共同授業を実施し、最終発表を行った。テーマは、「日米の笑いの比較」「食文化の比較とビデオ作成」「ゲイカップルが主人公のドラマの比較」「漫画におけるヒーロー像の比較」「教育制度の比較」と多岐に渡り、それぞれに多様な考察ができていた。

(3)成果

最終発表後、参加学生11名全員にウェブ上でのアンケート調査を依頼し、9名（東大生5名・Caltech 生4名）から回答を得た。以下に、主な結果を示す。

- ・異文化理解能力の向上：「この授業を通じてアメリカ文化（あるいは日本文化）に対する理解が深まったか」と4件法で質問したところ、東大生・Caltech 生ともに全員3～4点を選択していた。つまり、自文化に対しても異文化に対しても、理解の深まりを感じていたことが分かった。
- ・言語能力の向上：4件法で質問したところ、東大生・Caltech 生ともに英語能力の向上（あるいは日本語能力の向上）を2点～3点と評価していた。興味深いことに、一部の学生においては母語の能力についても、向上を感じていることが判明した。
- ・コミュニケーション能力の向上：4件法で質問したところ、5名が3点、2名が4点と、アンケート協力者の4分の3以上が、コミュニケーション能力の向上を意識していた。
- ・その他：満足度はおおむね高く（全員が3点か4点を選択）、自由記述の欄にも「文化の違いが分かった」「友達ができた」という評価があった。一方で、Caltech 生の3月の来日の実現できなかったこと、オンラインによる意思疎通が困難であったことについての指摘もあった。

来年度は、アンケート調査の結果も踏まえて、授業設計をしていく必要がある。

第6章 研究活動

2019年度は、工学系研究科日本語教室の活動および日本語教育分野における研究の成果を広く周知し、今後の発展のために議論することを目指した。この目的のために、日本語教育シンポジウムの主催、海外協定校の教員との共同研究の成果および教育実践と各専門分野に関する口頭発表、論文発表を積極的に行った。

6.1 日本語教室関連の研究活動と成果

6.1.1 国際交流関連の実践報告

昨年度、東京大学で実施したシンポジウムを継続し、8月23日、24日にスウェーデン王立工科大学が「2nd International Symposium on Language Learning and Global Competence」シンポジウムを開催した。スウェーデンだけでなく、英国、ドイツ、フランス、イタリアの言語教育、研究者が集い、活発な議論が交わされた。ここで、以下の口頭発表を行った。

Yumiko FURUICHI(2019)Development of Global Competence in Japanese language education スウェーデン王立工科大学シンポジウム *2nd International Symposium on Language Learning and Global Competence* (口頭発表)

【要旨】まず、東京大学が構築しているグローバルキャンパスモデルと学生に習得してもらいたい国際総合力を構成する要素を示した。次に、日本語教室が日本人学生の国際総合力の育成にどのように貢献しているかを、具体的に KTH 体験活動プログラムの事例を挙げて報告した。

次に挙げるのは、トルコ世界展開強化事業の一環として進めてきたレジリエンス工学におけるコーパス研究である。

Yumiko Furuichi・Ayşe Nur Tekmen (2019)「レジリエンス工学のコーパス構築と語彙分析」トルコ第4回日本語・日本語教育・国際シンポジウム IV. Japon Dili ve Eğitimi Uluslararası Sempozyumu・JADEUS 2019 (口頭発表)

【要旨】本研究は、レジリエンス工学を専門とする留学生と外国人研究者の研究生活を支えるため、書き言葉コーパスを構築・分析し、それに基づいた専門工学日本語教育リソースを作成するためのものである。テキストマイニングを用いて分析し、名詞、形容詞、動詞の高頻度100語の使用実態を明らかにし、レジリエンス工学のキーワードを示した。また、高頻度名詞、動詞の係り受けの語彙をマッピングすることによって視覚化し、効率的なレジリエンス工学語彙の学習方法を提案した。

次は、昨年口頭発表したインド体験活動プログラムの実践研究論文である。インド人学生の日本語、日本文化の認識の変化を示し、さらに、海外協定校と日本の大学との協働ワークショップモデルを提示した。

Vatsala Misra・Yumiko Furuichi (2020) Enhancing Japanese learning among IIT Kanpur students using interactive workshops with U-Tokyo students

Japanese Language Education Voices from South Asia

The English and Foreign Languages University Press 現在印刷中

【要旨】

This paper provides a brief description of the FLP at IIT Kanpur and the challenges in teaching Japanese in a non-Japanese environment before moving on to discussing the concept, planning and execution of the interactive workshops. The document also describes the overall experience and the lessons learnt from the event, and based on that, goes on to argue that such short focused interactive workshops with the help of qualified Japanese participants could be very effective in augmenting the instruction in the language outside of Japan. An outline of a model workshop which can be used to design and hold a similar event jointly by an institution teaching Japanese outside Japan, and an appropriate Japanese collaborator, is also proposed.

6.1.2 工学に特化した研究：コーパス

次に挙げる調査報告は、「理工学系話し言葉コーパスの用例集（電気系工学、建築学、化学システム工学、社会基盤学、都市環境工学、都市工学、電子情報学）」に基づいたものである。

菅谷有子・伊藤夏実・遠藤直子・岡葉子・白鳥智美・成永淑・単娜・中村亜美・古市由美子・森幸穂(2019)「理工系留学生のための語彙・用例検索ツール『レインボー』完成版の公開—7分野への拡充および分野間共通の自立語の追加採録—」2019年度日本語教育学会秋季大会(2019年11月24日(日) 島根県立産業交流会館(くにびきメッセ), 島根県松江市) (ポスター発表)

【要旨】『レインボー』は、理工系留学生の日本語学習・研究生活を支援する目的で作成した語彙・用例検索ツールである。掲載した語彙・用例は理工系7分野のゼミ内発話を基に構築した『理工学系話し言葉コーパス』を資源としたもので、見出し語に仮名、ローマ字、日・中・韓の対訳を付し、専門家による学習優先度、日本語教師による学習項目（コロケーション、複合語）なども設定し、検索と学習の利便性を図った。当初は、工学系4分野のコーパスから頻度20以上の名詞を見出し語として作成されたが、2回のモニター調査、そして7分野に拡大した上記コーパスの語彙実態調査に基づき、新たに7分野共通の名詞以外の自立語(動詞、形容詞等)を項目に加え、訳語、学習項目の見直しを行った。その結果、見出し語は当初の2.3倍(1800語)、用例数は2.7倍(23000)となり、検索でヒットする確率も高まった。アカデミックなコミュニケーションの学習に有用なツールとして広く応用されることを期待したい。

6.2 日本語教育の専門分野における実践・研究

本教室の教員による日本語教育の専門分野（会話分析、授業実践研究、音声学）に関する研究および実践の成果は下記の通りである。

- 岩田夏穂(2020). 協働学習の考え方と教室活動のデザイン, ホツマインターナショナルスクール日本語教育研修, 2020年3月23日(招待講演).
- 岩田夏穂(2020). 職業訓練活動での雑談における支援者の立場表明」社会言語科学会第44回大会発表論文集 pp. 58-61.
- 岩田夏穂(2020). 「からかい会話」の分類と特徴：何がからかいのターゲットとなるのか, 日本語教育シンポジウム「インターアクションから捉える能力ー会話分析研究と日本語教育ー」, JR 博多シティ (福岡県福岡市) 2020年2月19日 (招待講演)
- 初鹿野阿れ・岩田夏穂(2019). 「雑談における否定的自己評価発話」2019年日本語教育学会秋季大会, 2019年11月24日, 島根県立産業交流会館くにびきメッセ (島根県松江市) (ポスター発表) .
- 岩田夏穂, 初鹿野阿れ(2019). 「会話分析を応用した会話教育の実践と教材作成のためのワークショップ」日本語・日本語教育研修会 (2019年度北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部研修事業), 2019年9月22日, 北海道大学(札幌市) (招待講演・ワークショップ).
- 岩田夏穂・初鹿野阿れ(2019). 雑談における (ほめに対する応答ではない) 自己卑下発話の機能, 第2回会話分析研究発表会, 2019年9月3日, 九州大学西新プラザ (福岡県福岡市) (口頭発表) .
- 遠藤直子・岡葉子(2019). 日本語教師の文法指導に関する Web 上の学びの場の創出: 「文脈化短作文」の添削を通して, 第23回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム, 2019年8月30日, ベオグラード大学 (セルビア) (ポスター発表) .
- 金 瑜眞・丸島 歩(2019). ミャンマー人日本語学習者の[tsu]・[su]音の聞き取りに関する一考察, 第33回日本音声学会全国大会, 2019年9月29日, 清泉女子大学 (品川区) (ポスター発表) .
- 朱 炫姝・金 瑜眞(2020). 日本語学習停滞者の言語学習ビリーフについてー日本語学習停滞者と上級者の比較を通じてー, 日本語教育方法研究会誌 26(1), pp. 52-53.

第7章 今後の課題

日本語教室の目的は、留学生・研究員が研究生活と日常生活を円滑に行い、研究に集中できる環境づくりの一環として、1.日本語教育、2.日本文化事情教育の提供に加え、3.留学生と日本人学生の国際交流支援、4.日本人学生の国際化教育の推進、5.実践研究を積極的に行うことである。

上記の目的をふまえ、2019年度の諸活動を振り返り、さらに充実した日本語教育および国際交流・国際化教育を目指し、当日本語教室が担うべき今後の課題について整理する。

7.1 日本語教育の質保証の強化に向けた取り組み

1) 初級レベルの定期試験・課題、教材の整備

昨年度に引き続き、初級レベルのコーディネータが中心となり、定期試験・課題、教材を検討し、必要に応じて改善を行った。来年度は定期試験、課題を確定したい。

2) 中上級レベル別スキル別の内容の精査、定期試験の整備

今年度も中上級レベルのコーディネータが中心となり、中上級コースのレベル別スキル別の内容を精査し、整合性、一貫性を図り、定期試験、課題について検討した。来年度は新たに上級2レベルのコースを開始するので、継続して中上級レベルの整備をしていく予定である。

3) ICTを利用した日本語教育へのチャレンジ

今年度、カリフォルニア工科大学（Caltech）とCOIL型教育（パイロット授業）を実践した。ならびにインド体験活動の事前交流としてCOIL型教育実践を行った。その結果、異文化理解、異文化コミュニケーション能力において成果があった。一方で、COIL型教育の課題も浮き彫りになった。今後、こうした経験を生かし、SNSを利用した海外協定校との交流を積極的に行っていきたい。

また、多忙な工学系の留学生に対し、反転授業を実施することで負担を軽減し、授業の効率を高めていきたい。そのために、SPOC（Small Private Online Course）のための教材を作成し、授業実践を試みたい。

4) チュートリアルの改善

今年度、チュートリアルを実施したが、多くの学生が集まらなかったが、チュートリアルは個人学習を支え、自律学習を促す方法の一つとして、有効だと考える。多忙な学生のニーズを捉えなおし、ICTを利用することも踏まえて、あり方を再検討したい。

5) 教室の確保

現在、88M講義室、88L講義室、123講義室は日本語授業が主として使用できる。324B、324C教室、第一会議室(132)、第二会議室(130)、701、722は、他の講義、会議のない場合に授業を実施している。第一会議室(132)、第二会議室(130)は、学期途中の6月、7月は入試準備で使用できないため、他の教室を渡り歩く状況に陥ってい

る。留学生が集中して日本語学習ができる教室の確保が望まれる。また、来年度から新たな教室予約システムが利用できるようになることから、今後、簡便に教室予約ができるようになると期待している。

6) STAR システムの改修と連携

日本語教育の登録、管理さらには日本語学習を効果的に実施するため、STAR (Student for Access and Review) を 2010 年度に構築し、毎年改修を進めている。今年度は、課題設定、日本人学生の登録などのカスタマイズを行った。来年度もより効率的に登録、管理ができるように改修したい。また、2016 年度から都市工学日本語教室、システム創成学日本語教室と STAR を共有し、日本語教育センターも 2020 年度から同システムを援用することになった。STAR を共有することによって、日本語教室の連携強化のための意見交換や改修を行っていききたい。

7.2 留学生と日本人学生の国際交流支援

当教室では留学生と日本人学生の国際交流支援として、2012 年度から多言語交流活動 (2016 年度: International Cafe for You, 2019 年度: International Lounge に改名)、授業ボランティア活動、2013 年度から多文化理解プロジェクト、2016 年度から海外協定校における体験活動に加え、2018 年度から国際交流合宿を実施し、交流の場を拡大してきた。現在は、それぞれの活動が有機的につながりつつある。2020 年度は、日本人学生がこれまで以上に活動に参加できるように、交流活動を体系化させ、積極的に周知を行っていききたい。また、日本人学生のニーズを掘り取り、活動に反映させていきたい。

7.3 日本人学生の国際化教育の促進

今年度は新たにミュンヘン工科大学(TUM)で体験活動を行うことによって、日本人学生の国際化教育に寄与し、TUM の学生を東京大学に関心を向けることに貢献した。また、前述したようにカリフォルニア工科大学の日本語教室との連携し、COIL 型教育を実践した。今後は、海外協定校の日本語教室との連携をさらに深め、日本語教室の場を活用した先進的国際化教育のプログラムを拡充していききたい。

また、昨年度、東京大学で実施したシンポジウムを継続し、今年度スウェーデン王立工科大学 (KTH) で第 2 回大会を実施した。今後も Deans Forum を核とした言語教育の実践者と連携を深め、学生の国際化教育の実践、研究を行っていききたい。

7.4 実践研究、および実践研究の成果に基づいた教材開発

今年度は、トルコ世界展開力事業の一環として、アンカラ大学との共同研究、インド体験活動、スウェーデン体験活動の実践をもとにした研究を発表した。日本語教育のミッションの一つである国際化教育に貢献するため、引き続き実践研究を進めていきたい。

また、コーパス研究チームによって、理工系留学生の日本語学習・研究生活を支えること

を目的として作成した語彙・用例検索ツール『レインボー』を完成させた。今後は、この書き言葉コーパスを利用し、工学系に特化した教材を作成していきたい。また、前述した SPOC の専門読解教材を作成し、授業実践につなげていきたい。

7.5 その他：東京大学、工学系研究科内日本語教室の連携

2018 年度より連携企画室を中心に東京大学の日本語教育の改善と連携強化を図ってきた。その一環として、今年度日本語教室は、理工系の受講生を中心とした 3 つの短期プログラムに協力し、日本語講座、文化体験を実施した。また、今年度実施された 4 回の日本語教員連絡会では、本郷キャンパス内の各教室の機能を明確化し、それぞれが補完的な関係性を維持していくことの議論を重ねた。来年度は、こうした議論をもとに実施に向けたロードマップを作成し、相互に確認をしながら 1 歩ずつ前に進めたい。

2019年度S1S2工学系研究科日本語教室概要

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2019年4月5日~7月26日

登録期間: ホームページ <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARより3月6日から4月19日まで

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 *2:「入門」は1コマ1単位

コース	対象	時 間	担当	教 材	教室
入門 * 1コマ1単位 (6月7日~)	はじめて日本語を勉強する人	火 13:00-16:40 金 13:00-14:45	金(キム) 岡	『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク)	123
インテンシブ 初級 I AM	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 8:30-10:15	岩田 金(キム) ハワード	『大地 I メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)	123
初級1A 初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月・木・金 8:30-10:15	A 臼井・内田・岡 B 金(キム)・古市・猪狩	『大地 I メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	A:88M /130 B:88L /132
初級2A 初級2B	日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人	月・水 10:25-12:10	A 金(キム)・中村 B 栗田・藤井	『大地 I メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	A:88L B:132
インテンシブ初級 II AM	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級 I の修了者、JLPT N5相当	火・木 8:30-12:10	片岡 ハワード	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)	123
初級3	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級 I の修了者、JLPT N5相当	火 8:30-10:15 金 10:25-12:10	米谷 片岡	『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地II 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	132
初級4	日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当	火・木 10:25-12:10	猪狩 岩田	『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地II 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	88L /324C
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	月 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A 栗田・藤井 B 岡・宮瀬	『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55 第2版』(スリーエーネットワーク)	A:132 /88M B:130 /88L
中級1 聴解	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	火 8:30-10:15	山口	『聞いて覚える話し方 日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)	130
中級1 会話	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	金 8:30-10:15	片岡	『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)	132
中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	水 8:30-10:15	中村	『科学技術の日本語』(スリーエーネットワーク)	88L
中級1 文章	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	金 10:25-12:10	猪狩	『みんなの日本語 初級第2版 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)	88L
中級2 総合A 中級2 総合B	中級 I 総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 10:25-12:10	A:内田 B:宮瀬	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』(スリーエーネットワーク) ※テキストはオレンジ色の表紙	88M /324B
中級2 聴解	中級 I 聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 8:30-10:15	中村	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』(スリーエーネットワーク)	324B
中級2 会話	中級 I 会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 8:30-10:15	米谷	『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)	88M

中級2 読解	中級Ⅰ読解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	金 10:25-12:10	ハワード	『留学生のための読解トレーニング (読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)	123
中級2 文章	中級Ⅰ文章コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	月 10:25-12:10	臼井	『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著 (アルク)	88M
中級2 専門語彙・漢字	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 10:25-12:10	中村	自主教材	324B
多文化理解 P	中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 13:00-14:45	岩田	自主教材	123
中級3 総合	中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 8:30-10:15	宮瀬	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク)	88L
中級3 聴解	中級Ⅱ聴解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	水 10:25-12:10	米谷	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク)	88M
中級3 会話	中級Ⅱ会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	水 8:30-10:15	藤井	自主教材	132
中級3 専門読解	中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	内田	自主教材	130
中級3 文章	中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	火 8:30-10:15	宮瀬	『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著 (アルク)	324B
上級 日本組織事情A	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 10:25-12:10	古市	自主教材	132
上級 総合A 上級 総合B	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 10:25-12:10	A:米谷 B:岩田	『The Great Japanese 30の物語[中上級]人物で学ぶ日本語』(くろしお出版)	A:132 B:130
上級 聴解	中級Ⅲ聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	金 10:25-12:10	岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)	88M
上級 会話	中級Ⅲ会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	月 10:25-12:10	岡	自主教材	324B
上級 読解	中級Ⅲ読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 8:30-10:15	藤井	自主教材	88M
上級 文章A 上級 文章B	中級Ⅲ文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 8:30-10:15	A:猪狩 B:内田	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)	A:88L B:88M

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・日本事情 (4月17日～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	岡 早坂		88L
International Lounge (4月12日～)	全レベル対象	金 12:10-13:10	岩田 山畑		Go Global センター

*授業内容と教室は変更の可能性あり

初級Ⅰ(4コース:18コマ)、初級Ⅱ(3コース:8コマ)、中級Ⅰ(5コース:8コマ)、中級Ⅱ(6コース:7コマ)

中級Ⅲ(6コース:6コマ)、上級(6コース:8コマ) 計30コース、55コマ *ビジターセッション、International Lounge、チュートリアル

2019年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2019年4月5日~2019年7月26日

登録期間: ホームページ <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから3月6日~4月19日まで

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826 FAX:03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級I (4コース:18コマ)、初級II (3コース:8コマ) 中級1 (5コース:8コマ)、中級2 (6コース:7コマ)
中級3 (6コース:6コマ)、上級 (6コース:8コマ) 計30コース、55コマ * ビジターセッション、International Lounge、チュートリアル

	8:30-10:15	10:25-12:10	13:00-14:45	14:55-16:40
月	インテンシブ初級 I AM 岩田 123			
	初級1A 臼井 88M	初級2A 金(キム) 88L		
	初級1B 金(キム) 88L	初級2B 栗田 132		
	中級1総合A 栗田 132 中級1総合B 岡 130	中級2 文章 臼井 88M		
		上級 会話 岡 324B		
火	インテンシブ初級 II AM 片岡 123		入門 [6/11-] 金(キム) 123	
	初級3 米谷 132	初級4 猪狩 88L		*「入門」は1コマ1単位
	中級1 聴解 山口 130	中級2 総合A 内田 88M 中級2 総合B 宮瀬 324B		
	中級3 文章 宮瀬 324B			
	上級 文章A 猪狩 88L 上級 文章B 内田 88M	上級 総合A 米谷 132 上級 総合B 岩田 130		
水	インテンシブ初級 I AM 金(キム) 123			
	中級1 専門読解 中村 88L	初級2A 中村 88L		
	中級2 会話 米谷 88M	初級2B 藤井 132		
	中級3 会話 藤井 132	中級3 聴解 米谷 88M	ビジターセッション&日本事情 [4/17-] 岡 88L	* 古市:午前中 社会基盤
木	インテンシブ初級 II AM ハワード 123			
	初級1A 内田 130	初級4 岩田 324C		
	初級1B 古市 132	中級1 総合A 藤井 88M 中級1 総合B 宮瀬 88L		
	中級2 聴解 中村 324B	中級2専門語彙・漢字 中村 324B		
	中級3 総合 宮瀬 88L	中級3 専門読解 内田 130	多文化理解プロジェクト 岩田 123	
	上級読解 藤井 88M	上級 日本組織事情A 古市 132	チュートリアル[4/25-] (14:00-) 岡 88M	
金	インテンシブ初級 I AM ハワード 123	初級3 片岡 132	入門 [6/7-] 岡 123	*「入門」は1コマ1単位
	初級1A 岡 88M	中級1 文章 猪狩 88L		
	初級1B 猪狩 88L	中級2 読解 ハワード 123		
	中級1 会話 片岡 132	上級 聴解 岡 88M	International Lounge [4/12-] (12:10-13:10) 岩田	* 理学部1号館東棟1階 Go Globalセンター

2019年度A1A2工学系研究科日本語教室概要

対象: 工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2019年9月24日～2020年1月16日(冬休み: 2019年12月28日～2020年1月5日)

登録期間: ホームページ <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから9月5日～10月7日まで(入門コースのみ11月29日まで)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話: 03-5841-8826 FAX: 03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 *2:「入門」は1コマ1単位

コース	対象	時 間	担当	教 材	教室
入門 * 1コマ1単位 (11月19日～)	はじめて日本語を勉強する人	火 13:00-16:40 木 13:00-14:45	金 岡	『Basic Japanese for Students はかせ1』(スリーエーネットワーク)	123
インテンシブ 初級 I AM	はじめて日本語を勉強する人	月・水 8:30-12:10 金 10:25-12:10	岩田 岡 ハワード	『大地 I メインテキスト』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク), 『にほんごチャレンジN4-5[かんじ]』(アスク)	123
初級1A 初級1B	はじめて日本語を勉強する人	月・木・金 8:30-10:15	A: 臼井・内田・金 B: 金・古市・猪狩	『大地 I メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	A: 88M B: 88L / 132
初級1C	はじめて日本語を勉強する人	月・木・金 13:00-14:45	臼井・小山・金	『大地 I メインテキスト(L1-12)』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	88M
初級2A 初級2B	日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人	月・水 10:25-12:10	A 栗田・金 B 金・藤井	『大地 I メインテキスト(L13-22)』(スリーエーネットワーク), 『大地 I 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	A: 701 B: 88L
インテンシブ初級 II AM	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級 I の修了者、JLPT N5相当	火・木 8:30-12:10	片岡 ハワード	『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) 『にほんごチャレンジ N4-5[かんじ]』(アスク出版)	123
初級3	日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはインテンシブ初級 I の修了者、JLPT N5相当	火 8:30-10:15 金 10:25-12:10	米谷 片岡	『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地II 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	722
初級4	日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当	火 10:25-12:10 金 8:30-10:15	猪狩 岡	『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地II 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	88M / 132
中級1 総合A 中級1 総合B	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	月 8:30-10:15 木 10:25-12:10	A 栗田・藤井 B 岡・宮瀬	『中級へ行こう 日本語の文型と表現 55 第2版』(スリーエーネットワーク)	A: 701 B: 722
中級1 聴解	初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	火 8:30-10:15	山口	『聞いて覚える話し方 日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)	324B

中級1 会話A 中級1 会話B	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	金 8:30-10:15	A:片岡 B:鈴木	『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク)	A:722 B:701
中級1 専門読解	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	木 8:30-10:15	岡	『科学技術の日本語』(スリーエーネットワーク)	130
中級1 文章	初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当	金 10:25-12:10	猪狩	『みんなの日本語 初級第2版 やさしい作文』(スリーエーネットワーク)	88L
中級2 総合A 中級2 総合B	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	火 10:25-12:10	A:内田 B:宮瀬	『中級を学ぼう 日本語の文型と表現56 中級前期』(スリーエーネットワーク) ※テキストは緑色の表紙	A:88M B:132
中級2 聴解	中級Ⅰ聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	金 10:25-12:10	金	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】』(スリーエーネットワーク)	88M
中級2 会話A 中級2 会話B	中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	水 8:30-10:15	A:米谷 B:金	『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社)	A:722 B:701
中級2 読解	中級Ⅰ読解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	金 8:30-10:15	ハワード	『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社)	123
中級2 文章	中級Ⅰ文章コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	月 10:25-12:10	臼井	『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著(アルク)	88M
中級2 専門語彙・漢字	中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当	木 10:25-12:10	岡	自主教材	130
多文化理解プロジェクト	中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	火 13:00-14:45	岩田	自主教材	88M
中級3 総合	中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 8:30-10:15	宮瀬	『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク) *テキストは水色の表紙	722
中級3 聴解	中級Ⅱ聴解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	水 10:25-12:10	米谷	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク)	722
中級3 会話A 中級3 会話B	中級Ⅱ会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	水 8:30-10:15	A:藤井 B:岩田	自主教材	A:88L B:88M

中級3 専門読解	中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	木 10:25-12:10	内田	自主教材	88M
中級3 文章	中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当	火 8:30-10:15	宮瀬	『大学・大学院留学生の日本語②作文編』アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著（アルク）	132
上級 日本組織事情A	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 10:25-12:10	古市	自主教材	132
上級 日本組織事情B	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 13:00-14:45	古市	自主教材	132
上級 総合A	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 10:25-12:10	岩田	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 動画で学ぶ大学の講義』スリーエーネットワーク	701
上級 総合B	中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 10:25-12:10	米谷	The Great Japanese 30の物語 中上級 - 人物で学ぶ日本語(くろしお出版)	722
上級 聴解	中級Ⅲ聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	月 10:25-12:10	岡	『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【上級】』(スリーエーネットワーク)	722
上級 会話A 上級 会話B	中級Ⅲ会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	金 10:25-12:10	A:鈴木 B:岡	自主教材	A:701 B:132
上級読解	中級Ⅲ読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	木 8:30-10:15	藤井	自主教材	701
上級 文章A 上級 文章B	中級Ⅲ文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当	火 8:30-10:15	A:猪狩 B:内田	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク)	A:88M B:88L

冬季日本語特別集中科目

冬季日本語 特別集中科目1 初級4	日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当 【注意】このコースは、2019A1A2学期に履修登録をしていない学生が対象です。	2020年2月	金岡	『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)	88M
-------------------------	--	---------	----	--	-----

Cultural Exchanges and Events

ビジターセッション・ 日本事情(10月9日～)	全レベル対象	水 13:00-14:30	金 早坂		88L
International Lounge (10月4日～)	全レベル対象	金 12:10-13:10	岡 山畑		Go Global センター

*授業内容と教室は変更の可能性あり

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:8コマ) 中級1(5コース:9コマ)、中級2(6コース:8コマ) 中級3(6コース:7コマ)、上級(6コース:10コマ) 計30コース、63コマ * ビジターセッション、International Lounge、チュートリアル

2019年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者, 工学部
学部生, 全学交換留学生

授業開講期間: 2019年9月24日～2020年1月16日(冬休み:2019年12月28日～2020年1月5日)

登録期間: ホームページ <http://www.ilcse.t.u-tokyo.ac.jp/> 登録はSTARから9月5日～10月7日まで(入門コースのみ11月29日まで)

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室

古市由美子 Eメールアドレス: nihongo@ilcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826 FAX:03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位) 初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:8コマ) 中級1(5コース:9コマ)、中級2(6コース:8コマ)
中級3(6コース:7コマ)、上級(6コース:10コマ) 計30コース、63コマ

	8:30-10:15	10:25-12:10	13:00-14:45	14:55-16:40
月	インテンシブ初級ⅠAM 岩田 123			
	初級1A 臼井 88M 初級1B 金 88L	初級2A 栗田 701 初級2B 金 88L	初級1C 臼井 88M	
	中級1総合A 栗田 701 中級1総合B 岡 722	中級2 文章 臼井 88M		
		上級 聴解 岡 722		
火	インテンシブ初級ⅡAM 片岡 123		入門 [11/19-] 金 123	
	初級3 米谷 722	初級4 猪狩 88M		
	中級1 聴解 山口 324B	中級2 総合A 内田 88L 中級2 総合B 宮瀬 132		
	中級3 文章 宮瀬 132		多文化理解プロジェクト 岩田 88M	
	上級 文章A 猪狩 88M 上級 文章B 内田 88L	上級 総合A 岩田 701 上級 総合B 米谷 722		
水	インテンシブ初級ⅠAM 岡 123		ビジターセッション&日本事情 [10/9-] 金 88L	
		初級2A 金 701 初級2B 藤井 88L		
	中級2 会話A 米谷 722 中級2 会話B 金 701			
	中級3 会話A 藤井 88L 中級3 会話B 岩田 88M	中級3 聴解 米谷 722		* 古市:午前中 社会基盤
木	初級1A 内田 88M 初級1B 古市 132		初級1C 小山 88M	
	インテンシブ初級ⅡAM ハワード 123		入門 [11/28-] 岡 123	
	中級1 専門読解 岡 130	中級1 総合A 藤井 701 中級1 総合B 宮瀬 722		
		中級2 専門語彙・漢字 岡 130		
	中級3 総合 宮瀬 722	中級3 専門読解 内田 88M	チュートリアル [10/17-] (14:00-) 岩田 130	
	上級読解 藤井 701	上級 日本組織事情A 古市 132	上級 日本組織事情B 古市 132	
金	初級1A 金 88M 初級1B 猪狩 88L	インテンシブⅠAM ハワード 123	初級1C 金 88M	
	初級4 岡 132	初級3 片岡 722	International Lounge [10/4-] (12:10-13:10) 岡	* 理学部1号館東棟1階 Go Globalセンター
	中級1 会話A 片岡 722 中級1 会話B 鈴木 701	中級1 文章 猪狩 88L		
	中級2 読解 ハワード 123	中級2 聴解 金 88M		
		上級 会話A 鈴木 701 上級 会話B 岡 132		

*冬季日本語特別集中科目1(初級4):2020年2月開講

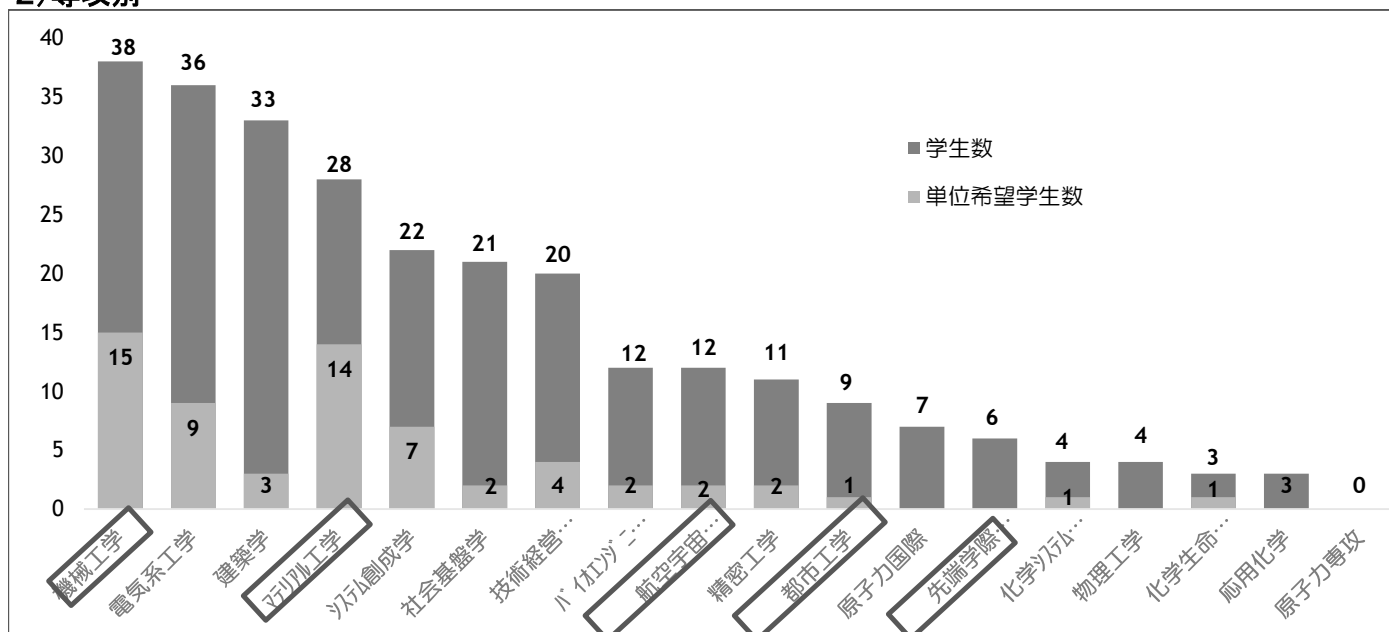
1. 2019年度S1S2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位希望学生数

レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
研究科									
①工学系研究科		51	23	47	57	52	39	269(63)	174(41)
②情報理工学系		16	9	17	8	15	19	84(32)	59(29)
③新領域創成科学研究科			2	3	5	2	4	16(4)	10(3)
④他研究科	経済学研究科			1	1	7	3	12(4)	7(3)
	情報学環・学際情報学府	1		8	7	6	3	25(7)	11(4)
	理学系研究科		2		4	2		8(1)	5(1)
	医学系研究科		1	2	1	2		6(0)	4(0)
	生産技術研究所					1		1(0)	1(0)
	農学生命科学研究科		1	2	1	6	6	16(3)	11(3)
	総合文化研究科			5				5(0)	1(0)
	教育学研究科						8	8(0)	2(0)
	公共政策 大学院	8	7	10	3	7	15	50(19)	33(13)
	人文社会系研究科				1			1(0)	1(0)
	広報戦略本部	1						1(0)	1(0)
	PEAK					1		1(0)	1(0)
	④計	10	11	28	18	32	35	134(34)	78(24)
⑤USTEP		18	6	14	13	5	16	72(65)	41(37)
合計①～⑤		95(40)	51(13)	109(45)	101(33)	106(24)	113(43)	575(198)	362(134)

2) 専攻別



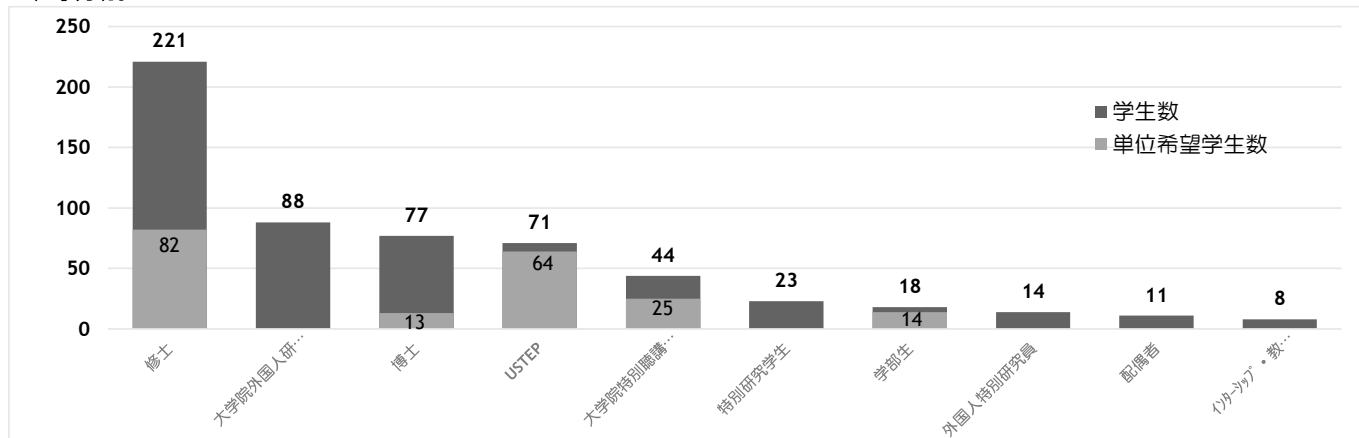
□ : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍／レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
1	中国	16	11	37	47	54	72	237	146
2	韓国	2	3	1	5	7	11	29	15
3	アメリカ合衆国	2	1	17	5	1	2	28	12
4	フランス	9	6	5	3	4		27	21
5	ドイツ	4	1	7		5	6	23	10
6	タイ	2	3	5	5	6		21	13
7	台湾		3	3	5	3	5	19	11
8	ブラジル	3	2	1		8	3	17	12
9	スウェーデン	3	2	3	3	3		14	8
10	英国		1	6	5	2		14	6
11	メキシコ	4		5				9	5
12	カナダ	1	1	4			2	8	7
13	オーストラリア				6	2		8	3
14	ベトナム	5		1		1		7	7
15	インド	3	2	1				6	6
16	スイス	5		1				6	6
17	カンボジア			1	5			6	2
18	オーストリア	5						5	5
19	イタリア	5						5	5
20	バングラデシュ	4		1				5	5
21	シンガポール	1		1		1	2	5	4
22	エジプト	2	1	2				5	4
23	インドネシア	1	1	3				5	3
24	チリ	1	3					4	4
25	ハンガリー	1	1	2				4	3
26	モンゴル	1		2	1			4	2
27	香港						4	4	2
28	日本				2	2		4	2
29	デンマーク	3						3	3
30	ノルウェー	3						3	3
31	ミャンマー		1			2		3	2
32	トルコ	1	1					2	2
33	* その他	8	7		9	5	6	35	23
合計		95	51	109	101	106	113	575	362

* その他(実数1名) : アイルランド・イラン・オランダ・カメルーン・キューバ・ギリシャ・サウジアラビア・スリランカ・セルビア・チェコ・チュニジア・ニュージーランド・ネパール・フィリピン・フィンランド・ブルガリア・ベネズエラ・ポーランド・ポルトガル・マレーシア・南アフリカ・ルクセンブルク・ロシア

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室受講者数(実数)

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学	4	10	9	23
	単位コース選択者	4	9	8	21
都市工		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	中級Ⅰ都市総合A	合計
	都市工学日本語教室(学生内訳)	都市工1/工学系2/他研究科0	都市工3/工学系3/他研究科3	都市工0/工学系6/他研究科0	都市工4/工学系11/他研究科3
	単位コース選択者	0	2	1	3
シス創		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	システム創成日本語教室(学生内訳)	システム創成系3/工学系6/他研究科0	システム創成系3/工学系4/他研究科0	システム創成系6/工学系6/他研究科3	システム創成系12/工学系16/他研究科3
	単位コース選択者	0	0	4	4
IME		初中級	個別指導	合計	
	IME日本語教室	3	—	—	

* 個別指導は人数記入不可

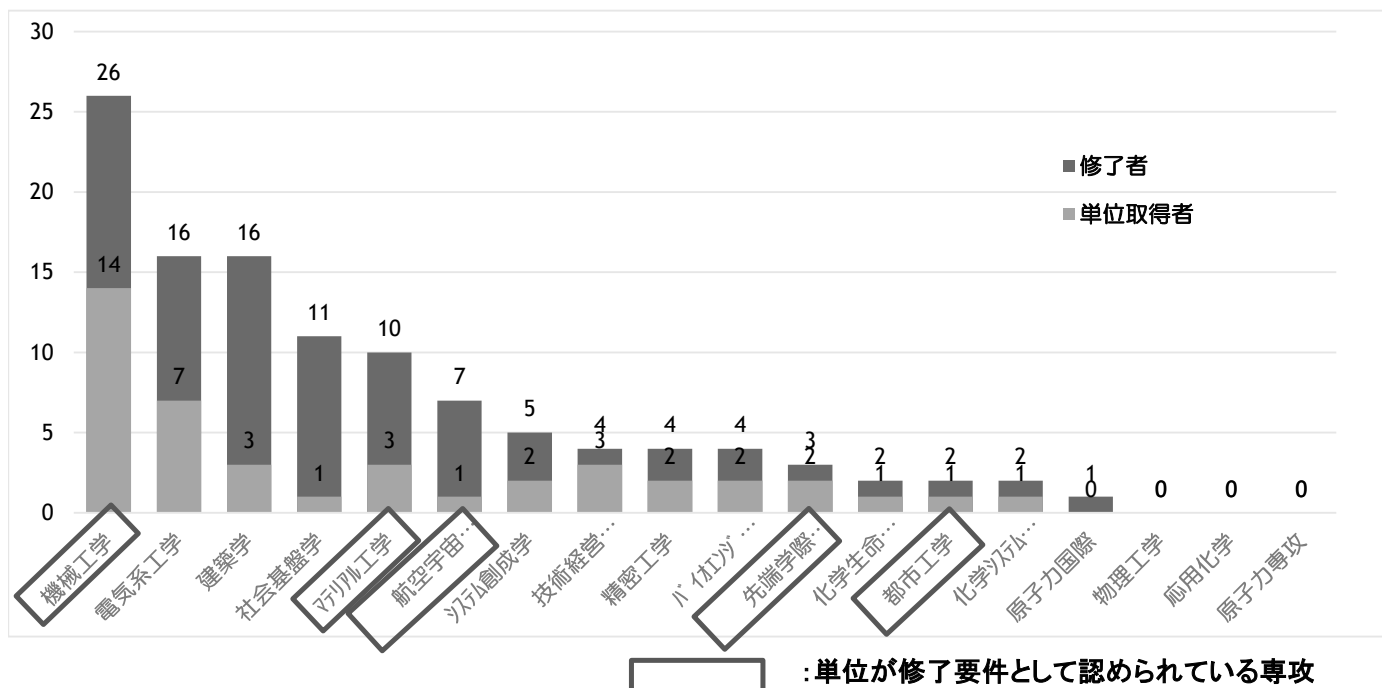
1. 2019年度S1S2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位取得学生数

研究科		レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科			29	11	16	30	18	9	113(43)	89(36)
②情報理工学系			10	5	10	7	9	9	50(31)	39(26)
③新領域創成科学研究科					2	1		1	4(1)	3(1)
④他研究科	経済学研究科				1	1		1	3(3)	2(2)
	情報学環・学際情報学府		1		8	7	3	3	22(8)	11(5)
	理学系研究科			2		3	1		6(1)	4(1)
	医学系研究科					1	1		2(0)	1(0)
	生産技術研究所					1			1(0)	1(0)
	農学生命科学研究科						3	2	5(3)	4(3)
	総合文化研究科				5				5(0)	1(0)
	公共政策 大学院		3	2	6	2	1	11	25(17)	19(12)
	広報戦略本部		1						1(0)	1(0)
	④計		5	4	20	15	9	17	70(32)	44(23)
⑤USTEP			16	5	12	13	5	15	66(63)	36(34)
合計①～⑤			60(41)	25(12)	60(35)	66(29)	41(19)	51(34)	303(170)	211(120)

2) 専攻別

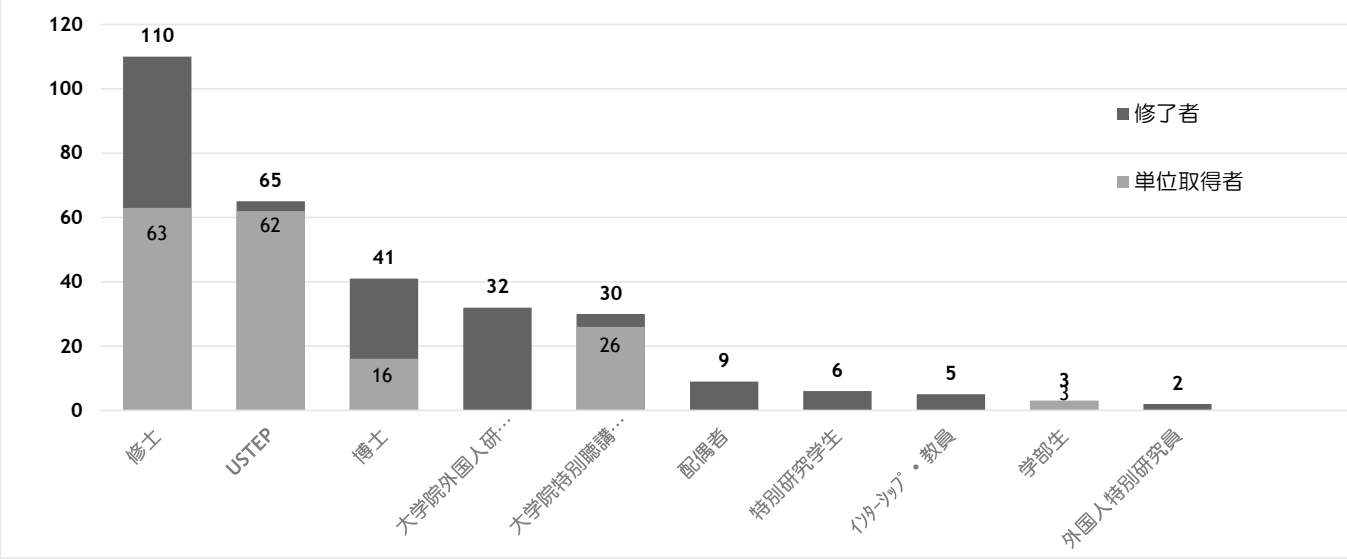


3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
1	中国		13	4	20	21	19	27	104	79
2	韓国				1	5	4	7	17	8
3	アメリカ合衆国		1			3		1	5	3
4	フランス		6	6	4	4	1		21	16
5	ドイツ		3		6		1	3	13	8
6	タイ		1		5	5	1		12	6
7	台湾			2	3	6	2	1	14	9
8	ブラジル			1	1		6	2	10	4
9	スウェーデン		2	2	1	3	3		11	7
10	英国			1	4	4			9	4
11	メキシコ		4		5				9	5
12	カナダ		1		4			1	6	5
13	オーストラリア					6	1		7	2
14	ベトナム		3		1		1		5	5
15	インド		2	1	1				4	4
16	スイス		4		1				5	5
18	オーストリア		5						5	5
21	シンガポール		1		1		1	2	5	4
24	チリ			2					2	2
27	香港							4	4	2
29	デンマーク		3						3	3
30	ノルウェー		3						3	3
33	* その他		8	6	2	9	1	3	29	22
合計			60	25	60	66	41	51	303	211

* その他(実数1名)：アイルランド・イタリア・エジプト・オランダ・カメルーン・カンボジア・ギリシャ・スリランカ・セルビア・トルコ・チュニジア・日本
ニュージーランド・ハンガリー・バングラデシュ・フィンランド・ポーランド・ポルトガル・マレーシア・南アフリカ・ミャンマー・モンゴル

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室修了者数(実数)

社基		初級1A	初級2A	初級2B	合計
	社会基盤学日本語教室 単位コース選択者	4	7	9	20
都市工		初級Ⅰ都市総合A	初級Ⅱ都市総合A	中級Ⅰ都市総合A	合計
	都市工学日本語教室 (学生内訳)	都市工1/その他工学 系1/他研究科0	都市工3/その他工学 系1/他研究科3	都市工0/その他工学系 3/他研究科1	都市工4/その他工学系 5/他研究科4
	単位コース選択者	0	0	1	1
シス創		中級Ⅰ創成系総合	中級Ⅰ創成系読解	中級Ⅲ創成系総合	合計
	システム創成日本語教室 (学生内訳)	システム創成系2/その他 工学系2/他研究科0	システム創成系2/その他 工学系2/他研究科0	システム創成系4/その他工 学系4/他研究科3	システム創成系8/その他工 学系8/他研究科3
	単位コース選択者	0	0	3	3
IME		初中級	個別指導	合計	
	IME	2	一(のべ17名)		
	IME日本語教室 (学生内訳)	電気系2	精密15、バイオ1、機械1		

* 個別指導は人数記入不可

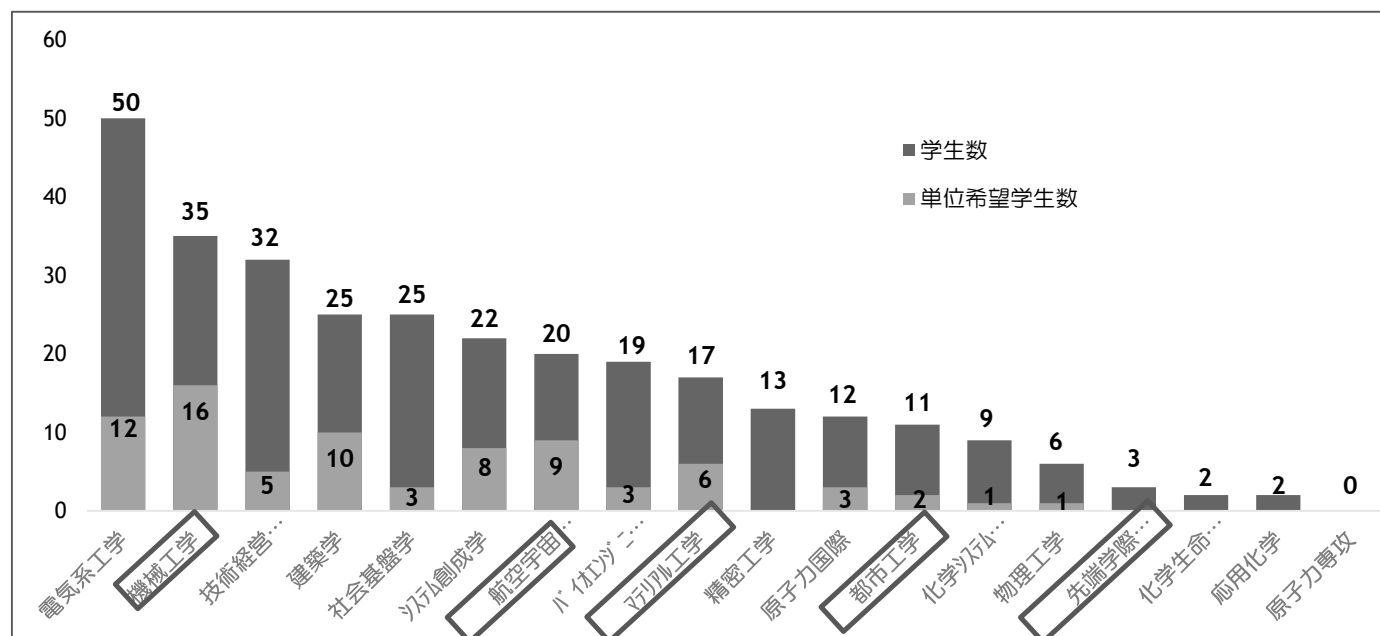
1. 2019年度A1A2 工学系研究科日本語教室受講者数

1) 研究科別一レベル別

* ()は単位希望学生数

レベル		初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
研究科	①工学系研究科	69	33	56	52	65	28	303(79)	216(67)
	②情報理工学系	21	8	16	14	9	11	79(24)	57(22)
研究科	③新領域創成科学研究科	2		4	7	2	1	16(6)	10(5)
	経済学研究科			3	1	1	7	12(3)	7(1)
④他研究科	情報学環・学際情報学府		1	4	4	10	9	28(11)	19(10)
	理学系研究科		1	2	3	3		9(1)	6(1)
	医学系研究科	1	2			1	2	6(0)	4(0)
	農学生命科学研究科		1		3	1	3	8(2)	7(2)
	総合文化研究科				3	1		4(0)	4(0)
	教育学研究科						4	4(1)	2(1)
	公共政策 大学院	4	3	7	6	3	2	25(17)	16(11)
	薬学系研究科			1	1	1		3(0)	2(0)
	④計	5	8	17	21	21	27	99(35)	67(26)
	⑤USTEP	13	5	10	17	10	13	68(50)	38(30)
合計①～⑤		110(51)	54(14)	103(34)	111(29)	107(34)	80(32)	565(194)	388(150)

2) 専攻別



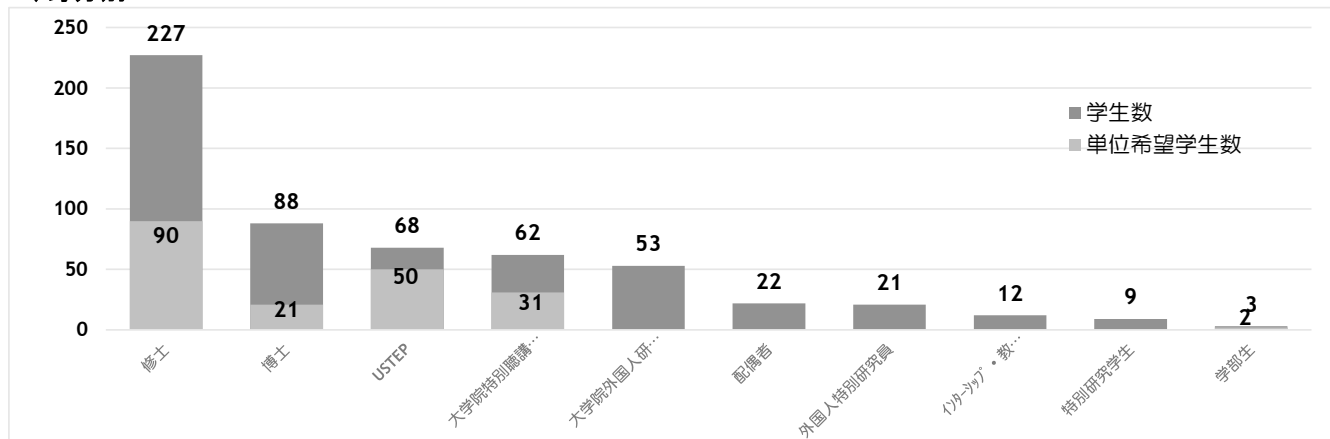
□ : 単位が修了要件として認められている専攻

3) 国籍－レベル別

	国籍／レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
1	中国	36	17	48	59	65	64	289	193
2	フランス	16	6	4	4	3		33	31
3	ドイツ	5	2	10	8	5	3	33	15
4	台湾	1	1	8	6	5	3	24	13
5	タイ	2	4	3	4	5	3	21	15
6	韓国	4	2	1	1	1	3	12	12
7	インド	5	3		2			10	9
8	アメリカ合衆国	1	1	0	2	6		10	5
9	スウェーデン	3	1	2	3			9	6
10	ハンガリー	2		5	2			9	4
11	ブラジル	1	2	1	1	3		8	6
12	カンボジア		1			5		6	2
13	英国	1				5		6	2
14	イタリア	4		1				5	5
15	日本					2	3	5	3
16	カナダ	1			3			4	4
17	ノルウェー	3	1					4	4
18	マレーシア	2	1				1	4	4
19	ベトナム	1	2		1			4	4
20	オーストラリア		1	2		1		4	3
21	チリ	1		1	2			4	3
22	オーストリア	1		3				4	2
23	モンゴル		1	2		1		4	2
24	エジプト	0	1	1	2			4	2
25	トルコ	3						3	3
26	インドネシア		1	1	1			3	3
27	スイス	1	1					2	2
28	バングラデシュ	2						2	2
29	ポルトガル	1	1					2	2
30	メキシコ	1	1					2	2
31	ロシア	1			1			2	2
32	* その他	11	3	10	9			33	23
合計		110	54	103	111	107	80	565	388

* その他(実数1名) : アルゼンチン・オランダ・キューバ・ギリシャ・コロンビア・サウジアラビア・シリア・スペイン・セルビア・チエコ・チュニジア・デンマーク・ニュージーランド・パナマ・フィリピン・フィンランド・ブルガリア・ベルギー・ポーランド・ミャンマー・ラトビア・ルクセンブルク・香港

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室受講者数(実数)

社基	社会基盤学日本語教室	初級1A	初級1B	初級2	合計
	単位コース選択者	13	15	5	33
都市工	都市工学日本語教室(学生内訳)	初級Ⅰ都市総合B	初級Ⅱ都市総合B	中級Ⅰ都市総合B	合計
	単位コース選択者	8	3	3	14
シス創	システム創成日本語教室(学生内訳)	初級	中級Ⅱ創成系総合	合計	
	単位コース選択者	5	0	5	
IME	IME日本語教室(学生内訳)	初中級	個別指導	合計	
	単位コース選択者	IME3/その他工学系0他研究科0	授業の性質上、人数計上できない		

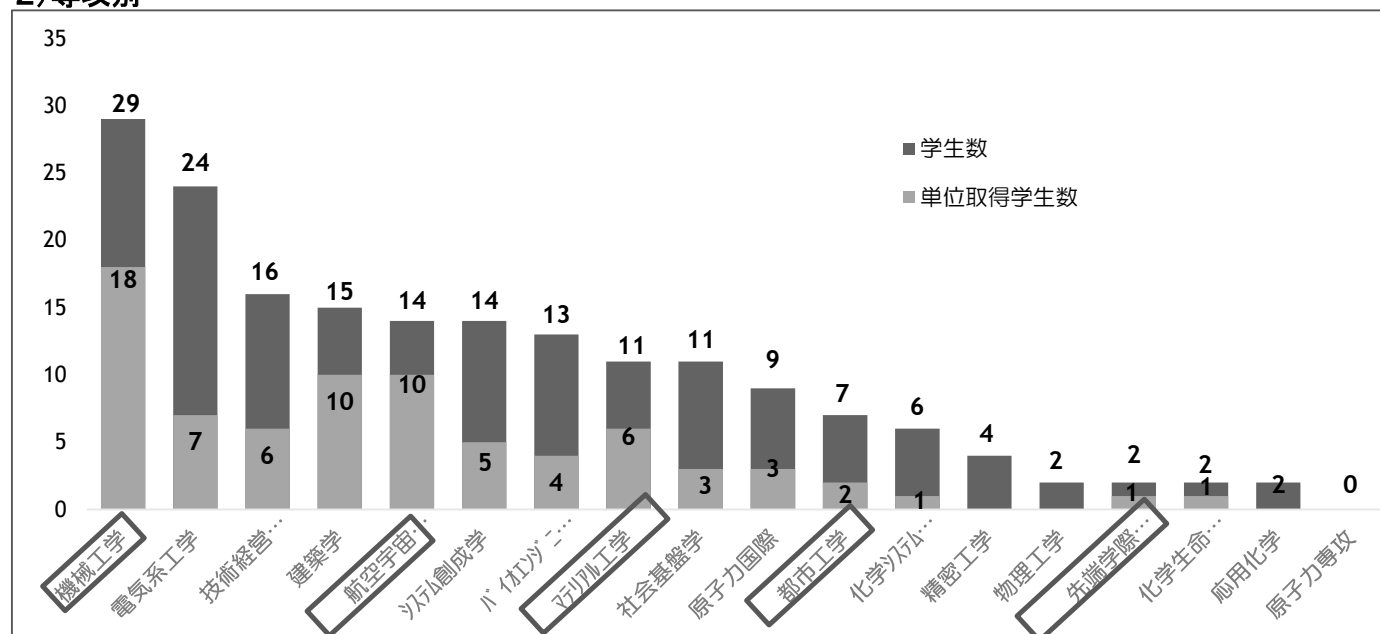
1. 2019年度A1A2 工学系研究科日本語教室修了者数

1) 研究科別ーレベル別

* ()は単位取得学生数

研究科		レベル	初級1	初級2	中級1	中級2	中級3	上級	延べ合計	実数合計
①工学系研究科			44	21	36	35	30	15	181(77)	140(70)
②情報理工学系			15	2	13	8	3	5	46(20)	36(19)
③新領域創成科学研究科			2		1	1	1	1	6(3)	5(3)
④他研究科	経済学研究科				2		1	4	7(2)	6(1)
	情報学環・学際情報学府				3	1		5	9(8)	8(7)
	理学系研究科				1	1	2		4(1)	3(1)
	生産技術研究所		1						1	1
	農学生命科学研究科			1		1	1	1	4(1)	4(1)
	総合文化研究科		1			1			2	2
	教育学研究科							1	1(1)	1(1)
	公共政策 大学院		3	1	6	5	3	1	19(17)	12(11)
	薬学系研究科						1		1	1
	④計		5	2	12	9	8	12	48(30)	38(22)
⑤USTEP			11	5	4	14	10	9	53(50)	33(32)
合計①～⑤			77(49)	30(21)	66(27)	67(33)	52(25)	42(25)	334(180)	252(146)

2) 専攻別



□ : 単位が修了要件として認められている専攻

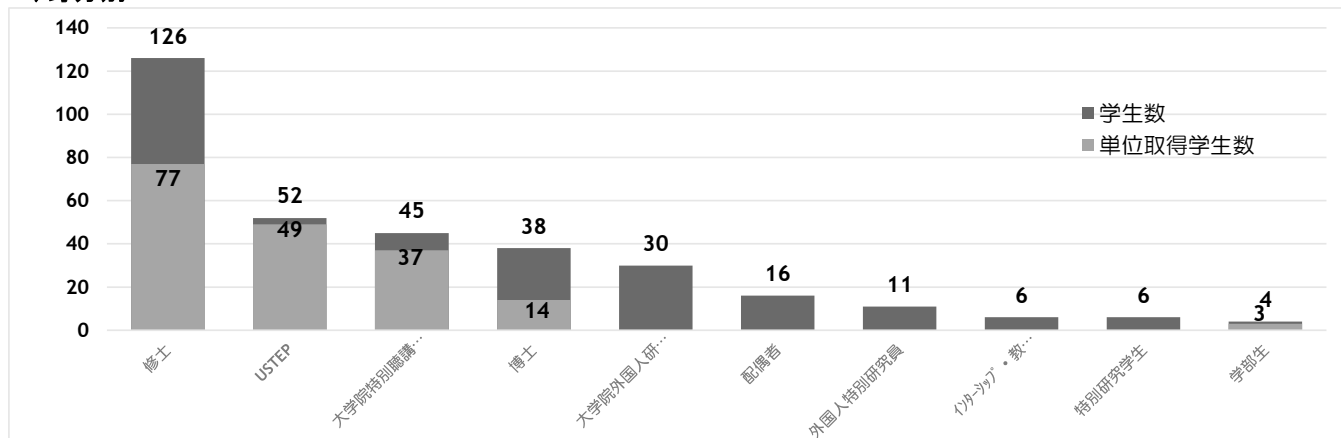
3) 国籍－レベル別

	国籍	レベル	初級 1	初級 2	中級 1	中級 2	中級 3	上級	延べ合計	実数合計
1	中国		17	7	26	36	24	35	145	110
2	フランス		13	6	3	3	2	1	28	27
3	台湾		1	1	7	5	1	3	18	9
4	タイ		2	4	2	4	4	1	17	13
5	ドイツ		4	1	4	3	4		16	10
6	アメリカ合衆国		2			1	6		9	5
7	ハンガリー		2		5	2			9	4
8	スウェーデン		3	1	1	3			8	6
9	韓国		2	1		1	1	2	7	7
10	ブラジル				1	1	3		5	3
11	インド		2	2					4	4
12	イタリア		4						4	4
13	カナダ		1			3			4	4
14	オーストリア		1		3				4	2
15	トルコ		3						3	3
16	インドネシア		1		1	1			3	3
17	ノルウェー		2	1					3	3
18	マレーシア		2	1					3	3
19	オーストラリア			1	2				3	2
20	チリ		1		1				2	2
21	スイス		1	1					2	2
22	バングラデシュ		2						2	2
23	ポルトガル		1	1					2	2
24	メキシコ		1	1					2	2
25	* その他		9	1	10	4	7		31	20
合計			77	30	66	67	52	42	334	252

* その他(実数1名) : ギリシャ・コロンビア・スペイン・セルビア・チュニジア・デンマーク

ニュージーランド・パナマ・フィリピン・フィンランド・ブルガリア・ポーランド・ミャンマー・モンゴル・ラトビア・ルクセンブルク・ロシア・英国・日本・香港

4) 身分別



2. 4専攻日本語教室修了者数(実数)

社会基盤学		初級 1A	初級 1B	初級 2	合計
	学生(全て社会基盤学)	12	15	5	32
	単位取得者	0	0	4	4
都市工学		初級 I 都市総合B	初級 II 都市総合B	中級 I 都市総合B	合計
	学生(内訳)	都市工:11人 その他工学系:1人 他研究科:1人	都市工:5人 その他工学系:1人 他研究科:2人	都市工:3人 その他工学系:5人 他研究科:2人	都市工:19人 その他工学系:7人 他研究科:5人
	単位取得者(合計)	7人	3人	4人	14人
システム創成系		初級	中級 II 創成系総合	合計	
	学生(内訳)	システム創成系:5人 その他工学系:1人 他研究科:0人	システム創成系:2人 その他工学系:0人 他研究科:0人	システム創成系:7人 その他工学系:1人 他研究科:0人	
	単位取得者(合計)	5人	0人	5人	
IME		初中級	個別指導	合計	
	学生(内訳)	IME3人 その他工学系0人 他研究科0人	授業の性質上、人数計上できない	—	

Can Do Statements (読む・書く)			東京大学工学系研究科日本語教室		
下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。(0: できない 1: 少しできる 2: よくできる)			＜記入日＞ 年 月 日		
聞く		話す			
1	相手の名前・専攻・研究室が聞いてわかる	1	あいさつができる		
2	物の値段が聞いてわかる	2	名前・出身地・専攻・研究室を言うことができる		
3	日常生活や大学で使う物の名前が聞いてわかる	3	今日の予定や昨日したことを言うことができる		
4	ゼミやミーティングの日程や時間が聞いてわかる	4	自己紹介をした後の質問に答えられる		
5	物や建物の場所が聞いてわかる	5	物や建物の場所を聞くことができる		
6	電車の行き先や乗り換えが聞いてわかる	6	日常生活・家族について話すことができる		
7	友達に誘われた時、聞いてわかる	7	友だちを誘ったり、誘われた時の返事ができる		
8	時間や場所を問いつた時、答えが聞いてわかる	8	大学の窓口で質問ができる		
9	大学の窓口に必要な説明が聞いてわかる	9	遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる		
10	駅や空港のアナウンスで必要なことが聞いてわかる	10	自分の部屋や研究室、町の描写ができる		
11	身近な話題に関する意見が聞いてわかる	11	身の回りの変化について話すことができる		
12	身近な人からの電話の用件が聞いてわかる	12	自分の仕事・専門・趣味について説明できる		
13	日常的な話題において出された提案が聞いてわかる	13	研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる		
14	緊急放送・地震訓練放送などが聞いてわかる	14	図や表の説明ができる		
15	天気予報が聞いてわかる	15	自己紹介の場面で敬語が使える		
16	電話の録音メッセージが聞いてわかる	16	授業で先生に質問ができる		
17	研究室・クラブ活動での指示・説明が聞いてわかる	17	実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる		
18	大学の教職員の事務的な説明が聞いてわかる	18	友達や教員にアドバイスを求めることができる		
19	専門的なプレゼンテーションの要点がわかる	19	研究室の人や友達と雑談ができる		
20	研究室のミーティングの内容が聞いてわかる	20	ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる		
21	アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる	21	研究計画などを論理的に話すことができる		
22	専門の授業全体の流れが聞いてわかる	22	大学の教職員に質問したり、説明することができる		
23	研究に関する指導教員のコメントが聞いてわかる	23	ゼミで発表することができる		
24	テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる	24	ニュースの要旨を話すことができる		
25	ゼミの発表が聞いてわかる	25	講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる		
26	ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる	26	初対面の人と雑談することができる		
27	就職などの面接で質問されたことがわかる	27	就職などの面接で質問に適切に答えることができる		
28	歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる	28	歓迎会など公式の場でスピーチができる		
29	学会での発表や講演がわかる	29	学会でのディスカッションで意見が言える		
30	学会でのディスカッションが聞いてわかる	30	会議や打ち合わせで意見をまとめたり同金ができる		

Can Do Statements (話す・聞く)			東京大学工学系研究科日本語教室		
下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。(0: できない 1: 少しできる 2: よくできる)			＜記入日＞ 年 月 日		
読む		書く			
1	ひらがなを読むことができる	1	ひらがなを書くことができる		
2	日本語で書かれた自分の名前がわかる	2	自分の名前をカタカナで書くことができる		
3	ひらがなとカタカナのメニューがわかる	3	今日のスケジュールを書くことができる		
4	日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる	4	自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる		
5	日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる	5	自宅と大学の住所を漢字で書くことができる		
6	スケジュール変更のお知らせがわかる	6	自分の国や自分の紹介を書くことができる		
7	駅や食堂の券売機の表示画面がわかる	7	簡単なメッセージのメモを書くことができる		
8	研究室・実験室の注意書きがわかる	8	趣味や得意なことについて書くことができる		
9	駅・銀行・大学の案内表示がわかる	9	自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる		
10	カード・はがきが読んでわかる	10	カード・はがきなどを書くことができる		
11	広告・チラシがわかる	11	日本語で日記を書くことができる		
12	友達からのテキストメッセージが読んでわかる	12	友達にテキストメッセージを書くことができる		
13	自分の専門分野の論文・専門書の題名・履修科目名がわかる	13	打ち合わせで、メモを書きとることができる		
14	易しい科学技術／専門の文章がわかる	14	履歴書を書くことができる		
15	事務からの書類が読んでわかる	15	事務的な書類に必要なことを記入することができる		
16	身近な人からの電子メールが読んでわかる	16	お礼の手紙を手書きで書くことができる		
17	公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる	17	奨学金の申請書類に記入することができる		
18	漫画のストーリーがわかる	18	身近な人に電子メールを書くことができる		
19	板書が見てわかる	19	講義を聞いて、ノートをとることができる		
20	ゼミの発表資料 (PPTスライド・レジュメ) がわかる	20	ゼミの発表資料 (PPTスライド・レジュメ) を書くことができる		
21	論文の要旨が読んでわかる	21	推薦状の依頼書を書くことができる		
22	大学内の掲示板が見てわかる	22	論文の要旨を書くことができる		
23	専門に関する資料の内容がわかる	23	研究計画書を書くことができる		
24	ニュースレター・メールマガジンが読める	24	授業のレポートを書くことができる		
25	映画やテレビなどの字幕が見てわかる	25	プレゼンの発表原稿を書くことができる		
26	研究会や会議の報告書が読める	26	状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる		
27	パソコンや携帯電話の説明書 (マニュアル) がわかる	27	就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる		
28	WEBサイトや会社案内の情報がわかる	28	研究会や会議の報告書を書くことができる		
29	論文・専門書が読んでわかる	29	研究費の申請書を書くことができる		
30	一般新聞・雑誌・書籍が読んでわかる	30	論文が書ける		

2019 言語背景調査 Language Background Questionnaire

1. 専攻：
2. 身分：☐研究生 ☐修士 ☐博士 ☐研究員 ☐交換留学生 ☐USTEP ☐学部生 ☐配偶者 ☐その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく教えてください。
4. 母語
5. 現在の留学が終わった後の予定 日本で就職する/日本で留学する/帰国する/分からない
6. 日本にどのくらい滞在する予定ですか。
☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
7. 日本語学習歴(自国)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
8. 日本語学習歴(日本)
☐なし ☐1～3ヶ月 ☐4～6ヶ月 ☐7ヶ月～1年 ☐1～2年 ☐2年以上
9. 現在取っている科目のレベル
☐初級Ⅰ（入門・初級1・初級2・インテンシブ初級ⅠAM/PM）☐初級Ⅱ（初級3・初級4・インテンシブ初級ⅡAM）☐中級Ⅰ
☐中級Ⅱ ☐中級Ⅲ ☐上級
10. 研究室で指導教員と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
11. 研究室で日本人学生と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
12. 研究室で留学生同士で研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
13. 研究室で指導教官との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
14. 研究室で日本人との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
15. 研究室で留学生同士の雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
16. 研究室での研究発表には、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
17. 研究室での打ち合わせには、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
18. 研究に関する資料は、主に何語が使われていますか。
☐日本語 ☐英語 ☐日英両方 ☐その他
19. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
☐全く求めていない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級レベル
20. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
☐全く目指していない ☐初級レベル ☐中級レベル ☐上級レベル ☐超上級レベル
21. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。
22. 大学のあらゆる場面において、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
23. どんな場面があるか、具体的に書いてください。
24. 大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますか。
☐ない ☐あまりない ☐ある ☐よくある
25. どんな場面か、具体的に書いてください。

2019 年度 S1S2 学期コース Japanese Language Class Questionnaire 評価

このアンケートは、日本語プログラム/コースの評価のためのものです。回答結果は、日本語教室の報告書に掲載します。回答の内容によって成績は変わりません。また個人が特定される情報は公開しません。御協力をお願いいたします。

1. 身分 :

- | | 全く思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う | | |
|--|---|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 2. コース及び授業内容について質問 2～7 に答えてください。
コースの目的は明確だった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 3. 授業のスピードは適切だった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 4. 講義内容は分かりやすかった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 5. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 6. このコースの授業を受けて学習意欲が高まった | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 7. このコースは自分にとって将来役に立つと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 8. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか。 | 全く予習・復習しなかった
1 | 1 時間未満
2 | 1～2 時間
3 | 2～3 時間
4 | 3～5 時間
5 | 5 時間以上
6 |
| 9. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。 | | | | | | |
| 10. このコースについて自由にコメントして下さい。(教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど) | | | | | | |
| 11. 履修登録の手続きとプレイスメントテストについて、次の項目に答えてください。
履修登録の手続きは分かりやすかった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 12. 1 または 2 と答えた人は、どうしてそう思うか理由を教えてください。 | | | | | | |
| 13. プレイスメントテストの結果、
適切なレベルのコースを履修することができた | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 14. プレイスメントテストに関するコメントがあったら書いてください。(テストの説明、時間など) | | | | | | |
| 15. ボランティアの学生が授業にいた人は、以下の質問に答えて下さい。
ボランティアの方が授業に入ってくれて良かった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | | |
| 16. 選択記述 No. 15 で答えた内容について、どうしてそう思うか理由を教えてください。 | | | | | | |
| 17. 日本語教室に期待していることはなんですが。次の中から 2 つ選んでください。 | 日本語学習/日本文化体/日本人学生との交流/大学生活・就職などの日本語支援/その他 | | | | | |
| 18. No. 17 で「その他」と答えた人は、具体的な内容を書いてください。 | | | | | | |
| 19. JLCSE に日本語チュートリアルがあることを知っていましたか。 | | | | | | |
| 20. No. 19 で「はい」と答えた人で参加しなかった場合、しなかった理由は何ですか。次の中から、該当するものを全て選んでください。 | 必要がなかった/時間が合わなかった/登録方法が難しかった/その他 | | | | | |
| 21. No. 20 で「その他」と答えた人は、理由を書いてください。 | | | | | | |

日本語教室で留学生と学びませんか 学生授業ボランティア 募集中!

工学系研究科日本語教室では、留学生や研究生の日本語学習を支援してくださる学生授業ボランティアを募集しています。ことばを学ぶことに興味があり、様々な国の学生と交流を深めたいとお考えの皆さん、奮ってご応募ください。お待ちしております!

主 催：大学院工学系研究科日本語教室
活動期間：2019年4月15日（月）～2019年7月26日（金）
活動場所：工学部8号館1階及び2階教室
活動頻度：週1コマ(105分)～
募集人数：30名程度
活動内容：入門～上級の日本語クラスに参加して、
グループワークや会話・ディスカッション
のサポートをします

学生授業ボランティア説明会

場所：工学部3号館2階 88M教室

※QRコード・下記URLより参加可能な日時をお知らせください

<https://rhousaisan.com/s?h=50666f827b438f2ab8c647ab082a5358a>

お問い合わせ：工学系研究科日本語教室 工学部8号館128B教室
✉ nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp ☎ 03-5841-8826

※説明会の日程が合わない場合は、上記連絡先までご相談下さい



日本語教室で留学生と学びませんか

学生授業ボランティア 募集中!

工学系研究科日本語教室では、留学生や研究生の日本語学習を支援してくださる学生授業ボランティアを募集しています。ことばを学ぶことに興味があり、様々な国の学生と交流を深めたいとお考えの皆さん、奮ってご応募ください。

お待ちしております!

主 催：大学院工学系研究科日本語教室
活動期間：2019年10月1日（火）～ 2020年1月16日（木）
活動場所：工学部8号館 1階、2階、7階 教室
活動頻度：週1コマ(105分)～
募集人数：30名程度
活動内容：入門～上級の日本語クラスに参加して、グループワークや
会話・ディスカッションのサポートをします。

学生授業ボランティア説明会

場所：工学部8号館2階 88M教室

※QRコード・下記URLより参加可能な日時をお知らせください

<http://rhousaisan.com/s?h=58287ff443ee4e128d35062a0004a>

お問い合わせ：工学系研究科日本語教室 工学部8号館128B教室
✉ nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp ☎ 03-5841-8826

※説明会の日程が合わない場合は、上記連絡先までご相談下さい



いけばな WORKSHOP

JAPANESE FLOWER ARRANGEMENT WORKSHOP

みなさん、一葉式のお花の先生と一緒にいけばなをしてみませんか？日本の伝統的な「いけばな」を、楽しく体験してみよう。
STAR システムから申し込みしてください。

- ・日時：5月15日(水)13:00~14:30
- ・会場：工学部8号館1階132教室
- ・参加費用(お花代)：500円(5月10日(金)12時までにお支払い)
- ・持ち物：マグカップ(花瓶として使います)

Would you like to try Ikebana (Japanese flower arrangement)?
If you are interested in attending the workshop, please sign up through the STAR system.

- ・Date: Wednesday, May 15th 13:00~14:30
- ・Venue: Engineering Bldg 8, classroom#132
- ・Participation Fee: 500 yen (Please pay the fee at the JLC office by 12:00 on Fri. 10th May)
- ・What to bring: Mug cup (container for your arrangement)

*Please note that your reservation will not be secured until your payment is complete.



Wed. June 5th 13:00 - 14:30

Eng. Bldg.8 #88L

6月5日(水) 13:00-14:30

工学部8号館2階88L教室



Q&A session
with rikishis



Let's take a
photo with
Sumo
rikishis!!



Experiencing
the Sumo
match



Experiencing
the Sumo
rikishi's
extreme leg-
splitting



Experiencing
YOBIDASHI

浴衣を基よう！ YUKATA WORKSHOP

日本の伝統的な浴衣。浴衣を知って、浴衣を着る方法を習って、浴衣を着よう！参加希望者は STAR システムを使って登録してください。
先着順です。

We are having a workshop where you can learn how to wear yukata (traditional Japanese summer clothing). After the workshop, we're sure that you can wear yukata by yourself! Please register using our STAR system. We accept the first 35 students! (16 for male and 19 for female)



日時：6月26日（水）13:00～14:30

場所：工学部8号館1階 132 教室

Time: June 26th (Wednesday), 13:00 ~ 14:30

Place: Building#8, Room 132



茶道体験 Tea Ceremony Lesson

We are going to have the tea ceremony lessons. Let's make a cup of traditional Japanese green tea!

Date : 3rd July (Wednesday)

・13:00 - 1st session

・13:45 - 2nd session

Venue : Room 88L (2nd floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system on the first come first served basis. Reservation through e-mail will not be accepted!



七夕～たなばた The Star Festival



Long long ago, a God in the heavens had a daughter named Orihime. She wove cloth every day for the God using a loom called a tanzabata. The God was anxious about his daughter working too hard, so one day he introduced her to Kengyuu (which means "cowherd," the star Altair), who also worked hard taking care of cows. They fell in love at first sight and they forgot about their work, letting the cloth for the God go to waste and leaving the cows to become ill.

This made the God angry, and he forced them to live apart, separated by Ama no Kawa (River in Heaven, the Milky Way). Orihime wept all day long. The God pitied her and allowed the two to meet once a year on the night of the 7th of July.

If it rains on this occasion, the River of Heaven is flooded and the couple are prevented from meeting. Therefore, people pray for it not to rain on this day, dedicating tanzaku (a strip of poetry paper) to the stars in various colors. People write their wishes (including their own personal wishes) on the tanzaku and hang them on leafy bamboo.

短冊に願いごとを書きましょう。

If you write a wish on tanzaku and hang it on a branch of bamboo grass, your wish might come true.



いけばなワークショップ JAPANESE FLOWER ARRANGEMENT WORKSHOP



みなさん、一葉式のお花の先生と一緒にいけばなをしてみませんか？日本の伝統的な「いけばな」を、楽しく体験してみましょ。STAR システムから申し込みしてください。

- ・日時：10月23日(水)13:00～14:30
- ・会場：工学部8号館1階132教室
- ・参加費用(お花代)：500円 (10月18日(金)12時までに支払い)

Would you like to try ikebana (Japanese flower arrangement)? If you are interested in attending the workshop, please sign up through the STAR system.



- ・Date：Wednesday, Oct 23rd 13:00-14:30
- ・Venue：Engineering Bldg 8, classroom#132
- ・Participation Fee：500 yen (Please pay the fee at the JLC office by 12:00 on Fri. 18th Oct.)

Please note that your reservation will not be secured until your payment is complete!

茶道体験

Tea Ceremony Lesson

We are going to have the tea ceremony lessons. Let's make a cup of traditional Japanese green tea!

Date : 6th Nov.(Wednesday)

・13:00 - 1st session

・13:45 - 2nd session

Venue : Room 88L (2nd floor of Eng. Bldg. No.8)

We will be accepting applications through STAR system on the first come first served basis.

Reservation through e-mail will not be accepted.



着物を着てみましょう！

Let's wear kimono!



みなさんは着物を着たことがありますか？
日本の伝統的な衣装である着物を着てみましょう！
男性22名、女性23名の募集を受けつけます。
まだ日本語教室で着物を着たことが無い学生が優先です。
日本語教室ホームページSTARシステムから申し込みをしてください。

Have you ever worn Kimono, traditional Japanese clothing?
We are going to have a Kimono wearing session.
Accepting the 22 male students and the 23 female students.
Students who have never worn Kimono at JLCSE are first priority.

Please register through STAR system at JLCSE homepage.

日時：11月27日（水） 13:00～14:30

Date : Nov. 27th (Wed) 13:00 ~ 14:30

会場：工学部8号館1階132教室

Place : Engineer Bldg#8, 1F, Room132



*Let's make your
original Kokeshi!*



**DISCOVER
YOURSELF
BY
CREATING**

**JAPANESE
TRADITIONAL
DOLL WITH
SHOKUNIN
(職人) "**

Date: 11th of Dec
13:00 ~ 14:45

Venue: Engineering
Bldg 8, classroom
#88L

Participation Fee :
500 yen (Please pay
the fee at the JLC office
by 12:00 on Fri, 6th Dec)

Participants: 50
Please sign up through
the STAR system



**LET'S TRY OSHIRUKO
(SWEET BEAN SOUP)**

**お汁粉を
食べよう**

Do you know "oshiruko" ?

It's a traditional new year's sweet in Japan.
Basically, it's a bowl of sweet bean with grilled rice cakes
which had been offered to the god.

Try Oshiruko!!

It will show you another sweet world.

みなさんは「おしるこ」を知っていますか？

お汁粉は、お正月に神様や仏様にお供えた餅（糰子）を焼いて、
甘く煮た小豆汁の中に入れた、正月の代表的な食べ物の一つです。
おいしいですよ。

日時: 1月6日 (月) ~ 1月10日 (金)
10時~16時

Date: Jan.6 (Mon) ~ Jan.10 (Fri)

10:00-16:00

場所: 日本語教室

Venue: Japanese Language Office

INSTITUTE FOR INNOVATION IN INTERNATIONAL ENGINEERING EDUCATION
 (IIEE), GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING
 IN COLLABORATION WITH
 DIVISION FOR GLOBAL CAMPUS INITIATIVES

PRESENTS

International Friday
 Lounge (IFL) and
 International Cafe for
 You (ICYou) came back
 together as IL.

INTER-NATIONAL LOUNGE

Every Friday 12:10-13:00
 @Go Global Center
 S1,2: Apr 12-Jul 26, A1,2: Oct.4-Jan.24

Want to make international friends?
 Want to enjoy the multilingual atmosphere?
 Want to learn about other cultures?
 What are you waiting for? Come join us now!

NOTE: Please bring your lunch and drink!
 (We will not provide drinks that used to
 be provided at ICYou)



For more info:



東京大学工学系研究科国際工学教育推進機構
 (IN COLLABORATION WITH)
 グローバルキャンパス推進本部

PRESENTS

International Friday
 Lounge (IFL) and
 International Cafe for
 You (ICYou) came back
 together as IL.

INTER-NATIONAL LOUNGE

毎週金曜日 12:10-13:00
 @Go Global センター
 S1,2: 4/12-7/26, A1,2: 10/4-1/24

インターナショナルな気遣いが欲しい?
 多言語交流を楽しみたい?
 相文化を学びたい?
 ぜひ今すぐILへ!

お昼ご飯と飲み物は持参してください。
 ICYouで以前提供していた飲み物は提供
 致しませんのでご注意ください。



詳細はこちら



TANABATA (七夕)

@INTERNATIONAL LOUNGE



Join us and make a wish!
Light snacks provided!

July 5th, 12:10-13:10
@Go Global センター

Contact: ilatUTokyo@gmail.com
工学研究科国際工学教育推進機構



International Lounge

End of the Semester party

学期末パーティー



It's July, and the end of the
semester is almost here!

Light snacks and
soft drinks provided!

July 26th (FRI) 12:10-13:10

@Go Global Center

NOTE: Please bring your lunch.

Contact: ilatUTokyo@gmail.com
工学研究科国際工学教育推進機構



For more info:



東京大学
The University of Tokyo



工学研究科国際工学教育推進機構
Institute of Advanced Study in Engineering



International Lounge

presents

HAPPY HALLOWEEN Party

Date: Oct 25th (Fri) at 12:10-13:00

Venue: Go Global Center (Sci.1east)

Light snacks and drinks provided!

INSTITUTE FOR INNOVATION IN INTERNATIONAL ENGINEERING EDUCATION (IIEE)
GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING
IN COLLABORATION WITH
DIVISION FOR GLOBAL CAMPUS INITIATIVES




INTERNATIONAL LOUNGE

Institute for Innovation In International Engineering Education(IIEE).
Graduate School of Engineering
In collaboration with
Division for Global Campus Initiatives



JAPANESE SWEETS CAFE

Shiratama (白玉)



November 29, 2019
12:10-13:00
@Go Global center

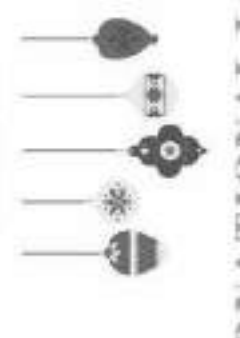
CONTACT: ILATUTOKYO@GMAIL.COM
工学研究科国際工学教育推進機構



International Engineering Education
2019.11.29

INSTITUTE FOR INNOVATION IN
INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIEE),
GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING
IN COLLABORATION WITH
DIVISION FOR GLOBAL CAMPUS
INITIATIVES

PRESENTS



INTERNATIONAL LOUNGE

HOLIDAY PARTY

REFRESHMENTS AND SOFT DRINKS PROVIDED.

DATE: FRI. DEC 20 • 12:10-13:10

VENUE: GO GLOBAL CENTER




CONTACT: ILATOKYO@GMAIL.COM
工学系研究科国際工学教育推進機構

INSTITUTE FOR INNOVATION IN INTERNATIONAL ENGINEERING
EDUCATION (IIEE), GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING
IN COLLABORATION WITH
DIVISION FOR GLOBAL CAMPUS INITIATIVES
PRESENTS

International Lounge

End of Semester party

学期末パーティー

Friday, January 24th
12:10-13:00

Go Global Center

LIGHT SNACKS AND SOFT DRINKS PROVIDED!

NOTE: Please bring your lunch.




Contact: ILatUTokyo@gmail.com
工学系研究科国際工学教育推進機構

執筆・編集者

教授 古市 由美子
特任准教授 岩田 夏穂
特任助教 岡 葉子
金 瑜眞
事務補佐員 早坂 美和子
山畑 めぐみ

執筆者

非常勤講師 猪狩 美保
臼井 直也
内田 あゆみ
片岡 さゆり
栗田 奈美
米谷 章子
鈴木 恵理
中村 亜美
ハワード 文江
藤井 明子
宮瀬 真理
山口 真紀

東京大学大学院工学系研究科日本語教室 報告書 2019 年度

発行 日：2020 年 3 月 31 日

編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科 国際工学教育推進機構
国際事業推進センター 日本語教育部門

発行責任者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院工学系研究科日本語教室

E-mail : nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp

電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436

<http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>
